

基本計画書

基本計画書								
事項	記入欄						備考	
計画の区分	学部の学科の設置							
フリガナ設置者	ガッコウホウジントウホクゲイジュツコウカダイガク 学校法人東北芸術工科大学							
フリガナ大学の名称	トウホクゲイジュツコウカダイガク 東北芸術工科大学 (Tohoku University of Art & Design)							
大学本部の位置	山形県山形市上桜田三丁目4番5号							
大学の目的	<p>本学は、学校基本法に則り、学術文化の中心として広く知識を授けるとともに、深く芸術学、デザイン工学に関する専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させて、「術」と「学」の一体化による「もの」を形作ることを喜びとする人材を育成し、学術文化の向上及び産業の振興に貢献することを目的とする。</p>							
新設学部等の目的	<p>「工芸デザイン」とは、プロダクトデザインのうちでも作者自身の手で作れるものを工芸と言い、デザインもその工程に含まれる。金属工芸、木竹工芸、陶芸、染織、ガラス工芸、装身具など、「量産できない工芸品のデザイン」を意味する。したがってこの分野では、デザイナーが同時に工芸家でもある。「アート」と「デザイン」の領域を行き来し、日本の工芸に新たな潮流を生み出すことのできる人材＝工芸（モノ）を用いてコトをデザインする人材＝を育成する。</p> <p>工芸デザインには、「現代美術＝アート」と「問題解決＝デザイン」の2つの側面がある。社会が成熟し、機能やステータスとしてのモノを求める時代から、多様な価値観、自己実現を大切にす時代へと世の中が変遷してきているなかで、「アート」と「デザイン」を分けて考えるのではなく、双方を理解し創作に臨むことがこれからの工芸には必要であると考え。そのため、これまでの「美術科工芸コース」と「美術科テキスタイルコース」を、新たに「工芸デザイン学科」として再構築する。</p>							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	芸術学部 工芸デザイン学科 (Department of Craft Design) 計	4年	45人	-年次人	180人	学士(芸術) 【Bachelor of Art】	令和5年4月 第1年次	山形県山形市上桜田 三丁目4番5号
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	令和5年4月 工芸デザイン学科の設置に伴い収容定員を変更 芸術学部 工芸デザイン学科 [学科設置] (45) 美術科 [定員減] (△45)							

教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数				
		講義	演習	実験・実習	計					
	工芸デザイン学科	98 科目	34 科目	8 科目	140 科目	124単位				
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等		
			教授	准教授	講師	助教	計	助手		
	新設	芸術学部 工芸デザイン学科		3人 (3)	3人 (3)	1人 (1)	0人 (0)	7人 (7)	0人 (0)	97人 (97)
		計		3 (3)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	— (—)
	既設	芸術学部 文化財保存修復学科		3 (3)	3 (3)	2 (2)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	89 (89)
		芸術学部 歴史遺産学科		3 (3)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	93 (93)
		芸術学部 美術科		8 (8)	6 (6)	4 (4)	0 (0)	18 (18)	0 (0)	95 (95)
		芸術学部 文芸学科		3 (3)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	90 (90)
		デザイン工学部 プロダクトデザイン学科		6 (6)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	101 (101)
		デザイン工学部 建築・環境デザイン学科		6 (6)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	100 (100)
		デザイン工学部 グラフィックデザイン学科		7 (7)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	89 (89)
		デザイン工学部 映像学科		6 (6)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	93 (93)
		デザイン工学部 企画構想学科		5 (5)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	90 (90)
		デザイン工学部 コミュニティデザイン学科		4 (4)	3 (3)	2 (2)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	93 (93)
	計		51 (51)	32 (32)	12 (12)	0 (0)	95 (95)	0 (0)	— (—)	
合計		54 (54)	35 (35)	13 (13)	0 (0)	102 (102)	0 (0)	— (—)		
教員以外の職員の概要	職種		専任		兼任		計			
	事務職員		50人 (50)		43人 (43)		93人 (93)			
	技術職員		0 (0)		0 (0)		0 (0)			
	図書館専門職員		1 (1)		0 (0)		1 (1)			
	その他の職員		0 (0)		0 (0)		0 (0)			
計		51 (51)		43 (43)		94 (94)				
校地等	区分		専用	共用	共用する他の学校等の専用		計			
	校舎敷地		130,741.06㎡	— ㎡	— ㎡		130,741.06㎡			
	運動場用地		35,282.00㎡	— ㎡	— ㎡		35,282.00㎡			
	小計		166,023.06㎡	— ㎡	— ㎡		166,023.06㎡			
	その他		41,544.75㎡	— ㎡	— ㎡		41,544.75㎡			
	合計		207,567.81㎡	— ㎡	— ㎡		207,567.81㎡			
校舎		専用	共用	共用する他の学校等の専用		計				
		48,420.12㎡ (48,420.12㎡)	— ㎡ (— ㎡)	— ㎡ (— ㎡)		48,420.12㎡ (48,420.12㎡)				
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設		語学学習施設				
	26室	145室	2室	8室 (補助職員 4人)		0室 (補助職員 1人)				
専任教員研究室		新設学部等の名称		室数						
		芸術学部 工芸デザイン学科		7 室						

図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	学部単位での特定不能のため、 大学全体の数		
	工芸デザイン学科	156,360 [16,268] (156,360 [16,268])	356 [129] (356 [129])	1 [1] (1 [1])	4,624 (4,624)	0 (0)	0 (0)			
	計	156,360 [16,268] (156,360 [16,268])	356 [129] (356 [129])	1 [1] (1 [1])	4,624 (4,624)	0 (0)	0 (0)			
図書館		面積		閲覧座席数		収納可能冊数		大学全体		
		1,795.13 m ²		238 席		124,444 冊				
体育館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体		
		1,412.78 m ²		テニスコート2面		該当なし				
経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	大学全体
		教員1人当り研究費等		350千円	350千円	350千円	350千円	—千円	—千円	
		共同研究費等		10,000千円	10,000千円	10,000千円	10,000千円	—千円	—千円	
		図書購入費	20,000千円	20,000千円	20,000千円	20,000千円	20,000千円	—千円	—千円	
	設備購入費	20,000千円	20,000千円	20,000千円	20,000千円	20,000千円	—千円	—千円	届出学科	
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
		1,475千円	1,200千円	1,200千円	1,200千円	—千円	—千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学経常経費補助、資産運用収入、雑収入等							
既設大学等の状況	大学の名称	東北芸術工科大学								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	※令和5年度入学定員減(45名)
	芸術学部	年	人	年次人	人		倍			
	文化財保存修復学科	4	26	—	104	学士(芸術)	1	平成13年度	山形県山形市上桜田三丁目4番5号	
	歴史遺産学科	4	32	—	128	学士(芸術)	1.08	平成13年度		
	美術科	4	124	—	496	学士(芸術)	1.03	平成4年度		
	文芸学科	4	42	—	168	学士(芸術)	1	平成21年度		
	デザイン工学部									
	プロダクトデザイン学科	4	62	—	248	学士(デザイン工学)	0.99	平成18年度		
	建築・環境デザイン学科	4	52	—	208	学士(デザイン工学)	1.04	平成18年度		
グラフィックデザイン学科	4	68	—	272	学士(デザイン工学)	1	平成21年度			
映像学科	4	62	—	248	学士(デザイン工学)	1.02	平成21年度			
企画構想学科	4	50	—	200	学士(デザイン工学)	1.01	平成21年度			
コミュニティデザイン学科	4	30	—	120	学士(デザイン工学)	1.04	平成26年度			
附属施設の概要	該当なし									

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科又は高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積り及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「—」又は「該当なし」と記入すること。

学校法人東北芸術工科大学 設置認可等に関わる組織の移行表

補足資料（組織の移行表）

令和4年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員		令和5年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
東北芸術工科大学					東北芸術工科大学				
芸術学部	269	-	1076	→	<u>芸術学部</u>	269	-	1076	
文化財保存修復学科	26	-	104		文化財保存修復学科	26	-	104	
歴史遺産学科	32	-	128		歴史遺産学科	32	-	128	
美術科	169	-	676		<u>美術科</u>	124	-	<u>496</u>	定員変更(-45名)
					<u>工芸デザイン学科</u>	45	-	<u>180</u>	学科の設置(届出)
文芸学科	42	-	168		文芸学科	42	-	168	
デザイン工学部					デザイン工学部				
プロダクトデザイン学科	62	-	248	→	プロダクトデザイン学科	62	-	248	
建築・環境デザイン学科	52	-	208		建築・環境デザイン学科	52	-	208	
グラフィックデザイン学科	68	-	272		グラフィックデザイン学科	68	-	272	
映像学科	62	-	248		映像学科	62	-	248	
企画構想学科	50	-	200		企画構想学科	50	-	200	
コミュニティデザイン学科	30	-	120		コミュニティデザイン学科	30	-	120	
東北芸術工科大学大学院					東北芸術工科大学大学院				
芸術工学研究科	43	-	91	→	芸術工学研究科	43	-	91	
芸術文化専攻	25	-	50		芸術文化専攻	25	-	50	
デザイン工学専攻	13	-	26		デザイン工学専攻	13	-	26	
芸術工学専攻	5	-	15		芸術工学専攻	5	-	15	

設置の前後における学位等及び専任教員の所属の状況

届出時における状況					新設了学部等の学年進行状況						
学部等の名称	授与する学位等		異動先	専任教員		学部等の名称	授与する学位等		異動元	専任教員	
	学位又は称号	学位又は学科の分野		助教以上	うち教授		学位又は称号	学位又は学科の分野		助教以上	うち教授
芸術学部 文化財保存修復 学科	学士(芸術)	芸術	芸術学部文化財保存修復学科	8	3	芸術学部 工芸デザイン学 科	学士(芸術)	芸術	芸術学部美術科	7	3
			計	8	3				計	7	3
芸術学部 歴史遺産学科	学士(芸術)	芸術	芸術学部歴史遺産学科	8	3	芸術学部 文化財保存修復 学科	学士(芸術)	芸術	芸術学部文化財保存修復学科	8	3
			計	8	3				計	8	3
芸術学部 美術科	学士(芸術)	芸術	芸術学部美術科	18	8	芸術学部 歴史遺産学科	学士(芸術)	芸術	芸術学部歴史遺産学科	8	3
			芸術学部工芸デザイン学科	7	3						
			計	25	11				計	8	3
芸術学部 文芸学科	学士(芸術)	芸術	芸術学部文芸学科	8	3	芸術学部 美術科	学士(芸術)	芸術	芸術学部美術科	18	8
			計	8	3				計	18	8
					芸術学部 文芸学科	学士(芸術)	芸術	芸術学部文芸学科	8	3	
								計	8	3	

基礎となる学部等の改編状況

開設又は 改編時期	改編内容等	学位又は 学科の分野	手続きの区分
平成4年4月	大学設置認可	—	設置認可(大学)
平成4年4月	芸術学部設置(芸術学科20名, 美術科80名)	芸術	設置認可(学部)
平成5年4月	芸術学部美術科教職課程設置	芸術	設置認可
平成5年4月	芸術学部芸術学科博物館学芸員課程の設置	芸術	設置認可
平成5年4月	教育職員の免許状 学則変更		学則変更
平成5年4月	学芸員の資格 学則変更		学則変更
平成6年4月	入学金、授業料 学則変更		学則変更
平成6年4月	単位の計算方法 学則変更		学則変更
平成7年4月	他大学の単位修得の認定 学則変更		学則変更
平成7年4月	学芸員の資格 学則変更		学則変更
平成7年4月	聴講生 学則変更		学則変更
平成8年4月	芸術学部芸術学科の科目変更	芸術	学則変更
平成8年4月	芸術学部美術史・文化財保存修復学科の科目変更	芸術	学則変更
平成8年4月	教員免許及び学芸員資格課程科目 学則変更		学則変更
平成8年4月	履修すべき科目の登録 学則変更		学則変更
平成8年4月	試験の時期 学則変更		学則変更
平成8年4月	単位の計算方法 学則変更		学則変更
平成8年4月	卒業に必要な単位 学則変更		学則変更
平成8年4月	入学金、授業料 学則変更		学則変更
平成9年4月	学芸員資格取得関連科目の名称変更	芸術	学則変更
平成10年4月	入学金、授業料 学則変更		学則変更
平成11年4月	芸術学部芸術学科の入学定員の変更(20名→40名)	芸術	設置認可
平成11年4月	芸術学部芸術学科教職課程設置	芸術	設置認可
平成11年4月	芸術学部美術科教職課程設置	芸術	設置認可
平成11年4月	芸術学部芸術学科の科目変更	芸術	学則変更
平成11年4月	教養科目の科目変更		学則変更
平成11年4月	教員免許及び学芸員資格課程科目 学則変更		学則変更
平成11年4月	教育職員の免許状 学則変更		学則変更
平成12年4月	再入学 学則変更		学則変更
平成12年4月	編入学、転入学 学則変更		学則変更
平成12年4月	入学前の既修得単位の認定 学則変更		学則変更
平成12年4月	他大学における単位修得認定 学則変更		学則変更
平成12年4月	学習の評価 学則変更		学則変更

平成12年4月	芸術学部美術科の科目変更		学則変更
平成12年4月	芸術学部芸術学科の科目変更		学則変更
平成12年4月	一般教養科目の科目変更		学則変更
平成12年4月	芸術学部美術科の入学定員の変更(80名→97名)	芸術	設置認可
平成13年4月	芸術学部美術史・文化財保存修復学科(20名)	芸術	設置認可(学科)
平成13年4月	芸術学部歴史遺産学科(24名)	芸術	設置認可(学科)
平成13年4月	芸術学部歴史遺産学科教職課程設置	芸術	設置認可
平成13年4月	芸術学部芸術学科(20名→0名)	—	学生募集停止(学科)
平成13年4月	芸術学部美術史・文化財保存修復学科の科目変更	芸術	学則変更
平成13年4月	一般教養科目の科目変更		学則変更
平成13年4月	教員免許及び学芸員資格課程科目 学則変更		学則変更
平成13年4月	教育職員の免許状 学則変更		学則変更
平成13年4月	学芸員の資格 学則変更		学則変更
平成14年4月	芸術学部美術科の科目変更	芸術	学則変更
平成14年4月	芸術学部美術史・文化財保存修復学科の科目変更	芸術	学則変更
平成14年4月	芸術学部歴史遺産学科の科目変更	芸術	学則変更
平成14年4月	一般教養科目の科目変更		学則変更
平成15年4月	一般教養科目の科目変更		学則変更
平成16年4月	再入学 学則変更		学則変更
平成16年4月	一般教養科目の科目変更		学則変更
平成17年4月	留学 学則変更		学則変更
平成17年4月	授業料 学則変更		学則変更
平成17年4月	芸術学部美術科の科目変更	芸術	学則変更
平成17年4月	芸術学部美術史・文化財保存修復学科の科目変更	芸術	学則変更
平成17年4月	芸術学部歴史遺産学科の科目変更	芸術	学則変更
平成18年4月	芸術学部美術科の入学定員の変更(97名→117名)	芸術	設置認可
平成18年4月	芸術学部芸術学科の廃止	—	学則変更
平成18年4月	芸術学部歴史遺産学科の科目変更	芸術	学則変更
平成18年4月	芸術学部美術科の科目変更	芸術	学則変更
平成18年4月	一般教養科目の科目変更		学則変更
平成19年4月	教授会の構成変更(助教授→准教授、助教)		学則変更
平成19年4月	一般教養科目の科目追加		学則変更
平成21年4月	芸術学部美術科の入学定員の変更(117名→142名)	芸術	設置認可
平成21年4月	自己評価等 学則変更		学則変更
平成21年4月	学部の目的 学則変更		学則変更
平成21年4月	学期 学則変更		学則変更
平成21年4月	休業日 学則変更		学則変更
平成21年4月	授業科目 学則変更		学則変更
平成21年4月	学習の評価 学則変更		学則変更

平成23年4月	芸術学部文芸学科(35名) 設置	芸術	設置届出(学科)
平成26年4月	芸術学部美術科入学定員の変更(142名→137名)	芸術	設置認可
平成27年4月	美術史・文化財保存修復学科→文化財保存修復学科	芸術	名称変更
平成30年4月	芸術学部文化財保存修復学科の入学定員の変更(20名→26名)	芸術	設置認可
平成30年4月	芸術学部歴史遺産学科の入学定員の変更(24名→32名)	芸術	設置認可
平成30年4月	芸術学部美術科の入学定員の変更(137名→169名)	芸術	設置認可
平成30年4月	芸術学部文芸学科の入学定員の変更(35名→42名)	芸術	設置認可
平成30年4月	授業科目 学則変更		学則変更
平成31年4月	学位授与 学則変更		学則変更
平成31年4月	教員免許及び学芸員資格課程科目 学則変更		学則変更
平成31年4月	学習の評価 学則変更		学則変更
令和2年4月	編入学、転入学 学則変更		学則変更
令和2年4月	教員免許及び学芸員資格課程科目 学則変更		学則変更
令和4年4月	芸術学部工芸デザイン学科(45名) 設置	芸術	設置届出(学科)

教育課程等の概要															
(芸術学部工芸デザイン学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門選択必修科目／専門必修科目	工芸デザイン入門	1前	2			○				1					兼1 兼2 兼1
	プロダクトデザイン入門	1前	2			○									
	工芸デザイン論	1前	2			○			1						
	インテリアデザイン論1	1前	2			○									
	近現代美術史	1後	2			○			1						
	伝達方法論	2後	2			○			1						
	応用人間工学	2後	2			○									
	造形基礎演習	1前	4				○			1					
	表現基礎演習	1前	4				○			1					
	工芸素材基礎演習1	1前	4				○		3	3	1				
	工芸素材基礎演習2	1後	4				○		3	3	1				
	デザインコンピュータ演習1	1後	4				○		1						
	工芸素材基礎演習3	2前	4				○		3	1	1				
	工芸素材基礎演習4	2前	4				○		3	1	1				
	デザインコンピュータ演習2	2前	4				○		1						
	工芸デザイン基礎演習1	2後	4				○		1	1					
	工芸デザイン基礎演習2	2後	4				○			2					
	ポートフォリオ実習	3前	4					○		1					
	工芸デザイン応用演習1	3前	4				○		1	1					
	工芸デザイン応用演習2	3前	4				○		1	1					
	工芸デザイン実習1	3後	2					○	1	1					
	工芸デザイン実習2	3後	2					○	1	1					
	工芸デザイン研究制作	4前	2					○	3	3	1				
	卒業制作(工芸デザイン)	4後	8					○	3	3	1				
小計(24科目)	—	—	80	0	0	—	—	—	3	3	1	0	0	兼4	
専門選択科目	東北工芸・産業論	2後		2		○				1					集中
	プロフェッショナルスキル1	2前		2				○			1				集中
	プロフェッショナルスキル2	2後		2				○			1				集中
	東北工芸実践	3後		2				○	1						集中
小計(4科目)	—	0	8	0	—	—	—	1	1	1	0	0	兼0		
芸術平和学	芸術平和学	1前	2			○									兼1
	小計(1科目)	—	2	0	0	—	—	—	0	0	0	0	0	兼1	
自然・社会と芸術	美術史	1・2・3・4前・後		2		○									兼1
	デザイン史	1・2・3・4前・後		2		○									兼1
	色彩学	1・2・3・4前・後		2		○									兼1
	芸術と心理	1・2・3・4前・後		2		○									兼1
	社会と政治	1・2・3・4前		2		○									兼1
	倫理と哲学	1・2・3・4前・後		2		○									兼1
	グローバル社会論	1・2・3・4前・後		2		○									兼1
	知的所有権	1・2・3・4前・後		2		○									兼1
	日本国憲法	1・2・3・4前		2		○									兼1
	地球環境論	1・2・3・4前		2		○									兼1
	生物と自然	1・2・3・4前・後		2		○									兼1
	環境と心理	1・2・3・4前・後		2		○									兼1
	健康科学論	1・2・3・4前・後		2		○									兼1
	生活の中の経済学	1・2・3・4前		2		○									兼1
	アート・デザインのための数理	1・2・3・4後		2		○									兼1
	実践統計学	1・2・3・4前		2		○									兼1
	科学技術と未来	1・2・3・4前・後		2		○									兼1
	地域社会と環境	2・3・4前		2		○									兼1
小計(18科目)	—	0	36	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼16	

地域 の 文 脈 科 目 基 盤 科 目 群	東北文化論	1・2・3・4後	2		○															兼1
	文化遺産マネジメント論	1・2・3・4後	2		○															兼1
	まちづくり論	1・2・3・4後	2		○															兼1
	サステイナブルコミュニティ	2・3・4前	2		○															兼1
	クリエイティブ経済論	2・3・4後	2		○															兼1
	地域ブランド論	2・3・4前・後	2		○															兼1
	地域ツーリズム論	2・3・4前・後	2		○															兼1
	都市空間デザイン	2・3・4後	2		○															兼1
	小計（8科目）	—	0	16	0	—				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
言 語 と 表 現 科 目 リ テ ラ シー 科 目 群	日本語表現（初級）	1前・後	2		○															兼2
	日本語表現（中級）	1前・後	2		○															兼2
	初級英語	1・2・3・4前・後	2		○															兼6
	中級英語	1・2・3・4前・後	2		○															兼3
	上級英語	1・2・3・4前・後	2		○															兼2
	日本語1	1前	2		○															兼2
	日本語2	1後	2		○															兼2
	実践英語（TOEIC）	1・2・3・4前・後	1		○															兼1
	実践英語（English Academic Skill）	1・2・3・4前	1		○															兼1
	実践英語（Speaking/Writing）	1・2・3・4後	1		○															兼1
	実践英語（Listening/Reading）	1・2・3・4後	1		○															兼1
	外国語特別講座	2・3・4前・後	2		○															兼1
	体育運動学演習	1・2・3・4前・後	1				○													兼2
	デッサン入門	1・2・3後	1			○														兼2
小計（14科目）	—	0	22	0	—				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	兼15
社 会 リ テ ラ シー 科 目 群	想像力基礎ゼミナール	1前・後	2			○														兼17
	コンピュータ基礎演習	1前・後	2			○				1										兼5
	デジタル表現演習	1・2・3後	1			○														兼1
	デザイン思考	2・3・4前・後	1			○														兼3
	情報リテラシー	2・3・4前・後	1			○														兼2
	セルフプロデュース演習	2・3・4前・後	1			○														兼2
	地域プロジェクト演習A	2・3・4前・後	1			○														兼1
	地域プロジェクト演習C	3・4	1			○														兼1
	クリエイターのための経営学	2・3・4前・後	2			○														兼1
	実践PCスキル	2・3・4後	1			○														兼1
	小計（10科目）	—	4	9	0	—				0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
デ ザ イ ン コ 目 群 キ ャ リ ア	キャリア形成論	2前・後	2		○															兼1
	仕事講座A	2・3・4前・後	1		○															兼1
	仕事講座B	2・3・4後	1		○															兼1
	公務員講座	2・3・4前	1		○															兼1
	キャリア設計論1	3・4後	1		○															兼1
	キャリア設計論2	3・4後	1		○															兼1
	自己表現講座	3・4後	1		○															兼1
小計（7科目）	—	2	6	0	—				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	兼2
財 政 保 存 修 復 分 野 科 目 群 文 化	文化財保護法	1・2・3・4後	2		○															兼1
	文化財保存修復入門	1・2・3・4前	2		○															兼1
	保存科学概論	1・2・3・4後	2		○															兼1
	古典彫刻論	1・2・3・4後	2		○															兼1
	小計（4科目）	—	0	8	0	—				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
歴 史 遺 産 分 野 科 目 群	歴史遺産学総論	1・2・3・4前	2		○															兼1
	日本史概論	1・2・3・4前	2		○															兼1
	東洋史概論	1・2・3・4前	2		○															兼1
	考古学概論	1・2・3・4前	2		○															兼1
	民俗・人類学概論	1・2・3・4後	2		○															兼1
	地理学概論	1・2・3・4後	2		○															兼1
	世界遺産総論	1・2・3・4後	2		○															兼1
	社会文化環境論	1・2・3・4前	2		○															兼1
	アジア文化論	1・2・3・4前・後	2		○															兼1
	小計（9科目）	—	0	18	0	—				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
美 術 分 野 科 目 群	日本美術史	1・2・3・4前	2		○															兼1
	西洋美術史	1・2・3・4後	2		○															兼1
	東洋美術史	2・3・4後	2		○															兼1

専門科目	現代美術史	2・3・4前	2	○								兼1
	美学	2・3・4前	2	○								兼1
	版画史	1・2・3・4後	2	○								兼1
	先端コンテンツとアートシーン	2・3・4後	2	○								兼1
	小計（7科目）	—	0	14	0	—	0	0	0	0	0	兼7
全学共通専門科目	文芸論3	1・2・3・4後	2	○								兼1
	文芸論5	2・3・4後	2	○								兼1
	文芸論6	2・3・4前	2	○								兼1
	ゲームデザイン構築	3・4後	2	○								兼1
	アニメーション史	1・2・3・4後	2	○								兼2
	コンテンツ文化史	1・2・3・4前・後	2	○								兼2
小計（6科目）	—	0	12	0	—	0	0	0	0	0	兼5	
インタフェースデザイン	インタフェースデザイン論	1・2・3・4後	2	○								兼1
	小計（1科目）	—	0	2	0	—	0	0	0	0	0	兼1
建築・環境デザイン分野	西洋建築史	1・2・3・4前	2	○								兼1
	風土形成論	1・2・3・4前	2	○								兼1
	日本建築史	2・3・4後	2	○								兼1
	風景の計画	2・3・4後	2	○								兼1
	インテリア設計論	2・3・4前	2	○								兼1
	建築と歴史と自然	2・3・4前	2	○								兼1
小計（6科目）	—	0	12	0	—	0	0	0	0	0	兼4	
グラフィックデザイン	生活とグラフィックデザイン	1・2・3・4前	2	○								兼1
	コミュニケーションデザイン	2・3・4後	2	○								兼1
	文字とグラフィックデザイン	3・4前	2	○								兼1
	メディア表現とグラフィックデザイン	3・4後	2	○								兼2
	世界のクリエイティブ100年史	3・4前	2	○								兼1
小計（5科目）	—	0	10	0	—	0	0	0	0	0	兼6	
映像分野	映像文化史	1・2・3・4前	2	○								兼1
	メディア文化史	1・2・3・4後	2	○								兼1
	映像プランニング概論	2・3・4前	2	○								兼1
	映像コミュニケーション概論	2・3・4後	2	○								兼1
小計（4科目）	—	0	8	0	—	0	0	0	0	0	兼3	
企画構想分野	広告ビジネス入門	1・2・3・4後	2	○								兼1
	インターネットビジネス入門	1・2・3・4前	2	○								兼1
	コピーライティング入門	2・3・4後	2	○								兼1
	データデザイン入門	2・3・4後	2	○								兼1
	ブランド・マーケティング入門	2・3・4前	2	○								兼1
	ベンチャービジネス入門	2・3・4前	2	○								兼1
小計（6科目）	—	0	12	0	—	0	0	0	0	0	兼4	
全学共通課程分野	障害者・高齢者の心理と福祉	1・2・3・4前	2	○								兼1
	教育学研究4（子供の学びと遊び）	1・2・3・4前	2	○								兼1
	教育学研究1（子供の心理）	2・3・4後	2	○								兼1
	教育学研究2（障害者の病理・心理・教育）	2・3・4後	2	○								兼1
	教育学研究3（児童問題）	2・3・4後	2	○								兼1
	教育学研究5（環境教育）	2・3・4後	2	○								兼1
小計（6科目）	—	0	12	0	—	0	0	0	0	0	兼4	
合計（140科目）		—	82	205	0	—	3	3	1	0	0	兼97
学位又は称号	学士（芸術）		学位又は学科の分野				芸術関係					
卒業要件及び履修方法							授業期間等					
工芸デザイン学科専門必修科目80単位、全学共通科目より35単位、工芸デザイン学科専門選択科目及び、全学共通専門科目より9単位以上を修得し、124単位以上を修得すること。 （履修科目の半期毎の登録上限：GPA値1.5未満の者18単位、GPA値1.5以上3.0未満の者24単位、GPA値3.0以上の者：28単位）							1学年の学期区分			2期		
							1学期の授業期間			15週		
							1時限の授業時間			80分		

授 業 科 目 の 概 要			
(芸術学部工芸デザイン学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
必修	工芸デザイン入門	さまざまな素材による工芸の実例をもとに、工芸の歴史をたどり、その特質について解説していく。縄文から江戸時代までを時代ごとに様々な作品全般をたどり、「工芸」という言葉が登場した近代以降現在までの軌跡をたどり、工芸デザインの基礎的な知識を学修する。	
必修	プロダクトデザイン入門	製品から家具、インテリア、インタフェースデザインに渡る広範なプロダクトデザインの領域があることと、それぞれの役割について理解することを目的とする。	
必修	工芸デザイン論	産業革命以降のデザイン史を中心に講義を行う。時代ごとに様々な地域で生まれたデザインのムーブメントを検証しつつ、日本の工芸の動きとも比較を行っていくことで、デザイン・クラフト・工芸に起こったこれまでの動き、接点を認識する。	
必修	インテリアデザイン論1	インテリアデザインに必要とされる、家具デザイン、照明デザイン、インテリア空間デザインの基礎知識の習得を目的とする。人、もの、空間の関係を国内外における優れたインテリアデザインや活躍しているデザイナーの作品を通して理解する。	
必修	近現代美術史	現代美術には、それ以前の美術とは異なる多様なものがある。この授業では、モダニズム以前以後の比較、モダニズム以降の芸術の展開と理論についての基礎的な知識の取得と、各自の制作や研究へ反映させる論理的な思考力を修得することを本授業の目的とする。美術と工芸の境界や交差するポイントを押さえつつ進める。	
必修	伝達方法論	様々な伝達手段とその方法について学ぶ。写真、映像を用いた方法、SNS、紙媒体などメディアについてを学び、プレゼンテーションの手法について理解する。	
必修	応用人間工学	人間工学は人間の生活環境や製品の設計条件を安全、健康、利便、快適、精神の活性の諸側面から検討する学際的な応用研究分野で、人間に対する配慮を実践するという点でデザインと目的を同じくしている。 幅広い人間工学の研究領域の中から、特にデザインに深くかかわる代表的な問題を取り上げ、人間工学の視点や知識にはデザインの発想のための手がかりが豊富に含まれているため、デザインへの応用を可能とする知識や思考、さらには課題発見と解決まで至る方法を学んでいく。	
必修	造形基礎演習	「観察」をキーワードとして、平面造形と立体造形の基礎力を養う。デッサンと可塑性素材を用いた制作において、触覚を研澄させながら形態の確認を繰り返すことで、複合的な身体感覚を伴った形態把握の力を身につける。また、粘り強く作品と向き合う姿勢を養い、これから工芸デザインを学んでいくための糧となる基礎的な造形力の底上げを目的とする。触覚のみでの観察から始め、視覚を加えた観察に導く。立体造形に関しては前半、自然物の模刻を粘土似て実施。構造的な理解を高め、後半は同一モチーフを用いて、木彫による模刻へと移行する。	
必修	表現基礎演習	アートやデザイン、それら両方の性質を併せ持つ工芸デザイン分野において、素材の扱いが重視されるが、前提としてイメージを具現化することが求められる。アイデアは今まで集めてきた情報に閃きや感性が作用して生まれてくるが、そのアイデアを発展させるために、理性によって思考する場を設ける必要がある。この授業では、その手法を理解し実践することを目的とする。描写、着色、コラージュなどを繰り返しながら、アイデアを最善の形に落とし込み作品化するための意思決定へと導く。	

必修	工芸素材基礎演習1	工芸デザイン学科で主に扱うことになる4素材(漆・陶・金属・繊維)のうちから2素材を選択し、基礎的技法を学ぶ。体感的に素材の特性と魅力、可能性を理解し今後の学修において自身が専門として扱う素材の選別を行う。	
必修	工芸素材基礎演習2	居住空間に配置されるモノをテーマに、素材・技法・適切なサイズ・構造を学ぶ。4素材(漆芸・陶芸・金属・繊維)の中から適切な素材を選び、用途に合わせたデザインを生み出すことができるとともに、各素材の加工技術の基礎を修得し、使用可能な構造が理解できる。	
必修	デザインコンピュータ演習1	Adobe illustrator/Photoshopの操作を学び、図形描画や文字入力、画像の加工や合成などグラフィックデザインソフト操作の基礎的な技術を習得する。これらにより、グラフィック作品の制作ができるとともに、自身のアイデアを表現する企画書作成のためのデザイン表現力の広がりや、ポートフォリオをはじめとするプレゼンテーション能力を向上させる。	
必修	工芸素材基礎演習3	身体に触れるモノをテーマに、素材・技法・適切なサイズ・構造を学ぶ。漆では乾漆技法を用いて乾漆のかばんを制作。陶磁では手びねりを用いたスタッキングマグカップと電動ろくろを用いた茶碗を制作。金属ではロストワックス技法や貴金属の加工法を学びながらジュエリーをデザイン・制作。繊維ではニット技法とデジタル染色の習得を行いながら、身体を纏うカタチと物を包むカタチのデザイン・制作を行う。	
必修	工芸素材基礎演習4	装飾性の高いモノをテーマに、素材・技法・適切なサイズ・構造を学ぶ。漆では、漆で描く壁面装飾を制作し、額装ないしは単体で飾るものとして壁面に展示できる物を完成させ螺鈿・蒔絵の技術を習得する。陶磁では泥漿、下絵、釉薬、上絵などの基礎的な加飾技法を用いた作品制作を行い、カップ&ソーサーを制作する。金属では七宝技法の基本を学び、鐵付けによる七宝小箱のデザイン及び制作を行う。繊維では染色領域と織物領域に分かれて、和装につながる技術習得とデザインを学ぶ。	
必修	デザインコンピュータ演習2	造形設計を効率化するとともに様々な表現方法が可能となるCADソフトの活用方法を習得する。スケッチの基本操作やモデリング・レンダリングの基礎などを学び、モデリング技術を身につける。データが様々なソフトと連携できることにより、ポートフォリオへの活用や公募展等の応募に役立てていく。	
必修	工芸デザイン基礎演習1	各自の専門素材を駆使しながら美術工芸やクラフト作品、ファッションやインテリアにつながる素材・技法と表現の可能性を追求する。美術工芸・クラフト分野では、食に関するアイテムを主とした複数の作品を制作。食の分野を深掘りし、専門素材の特性を加味した機能性、造形美、独創性を探求し、具現化することを制作の柱とする。また、制作した作品は販売を行う。販売を伴うため、市場へのリサーチ、価格帯の研究も同時に検証する。 ファッション・インテリア分野では、ファッションにつながる素材・技法とデザインの可能性を追求する。ターゲットを設定しカバン、アクセサリ、衣服などファッションアイテムのデザイン、制作を行う。ブランドロゴをデザインしデジタルデータから刻印、タグなども制作する。	
必修	工芸デザイン基礎演習2	美術工芸・クラフト分野では、住まいを彩る居住空間に提案する工芸作品を制作する。各自リサーチの上アイテムを一つ選び、制作する。素材の特性をより理解しながら加工法を学び、第三者が使用するという機能を踏まえ新しいデザインを考察する。完成品の使用イメージ画像やコンセプトをまとめプレゼンボードを制作、他者に伝達する能力を身につける。2年生展に出品、販売へ繋げる。 ファッション・インテリア分野では、インテリアにつながる素材・技法とデザインの可能性を追求する。多様化する生活様式から明確な空間設定を行い、パーティーション、ランプシェード、家具、食器など、各自が専門とする素材を自由に加工することを前提にデザイン・制作を行う。	

必修	ポートフォリオ実習	自己の強みと欠点を認識し、明確な進路を想定し、他者へ自己を魅力的に伝えることができる方法を身につける。単に作品を記録したポートフォリオを制作することではなく、個々の明確な進路目的（就職・進学・作家など）に応じた、専門性だけではない自分の魅力を伝えることができる〈質〉の高い作品制作や活動と、それを伝えるためのポートフォリオ制作、プレゼンテーション能力を身につける。	
必修	工芸デザイン応用演習1	ファッション・インテリア分野では市場調査、マーケティングとリサーチを行いポジショニングマップを制作する。そこから得られた情報からブランディングを行い製品デザインへと落としこむ。また、分野におけるブランディングとその製品のデザインを行い、精度の高いプレゼンテーションを行う。 美術工芸・クラフト分野では、生活工芸や美術工芸に関わる背景や伝統技法、過去の作品が評価されたポイントや生活に必要とされるポイントを踏まえた素材、技法研究を深め、その試作を行う。	
必修	工芸デザイン応用演習2	美術工芸・クラフト分野では、工芸デザイン応用演習1で得られたリサーチ結果と試作を踏まえ、実制作を行う。また各分野に見合った形式の展覧会を実施し、販売へとつなげる。 ファッション・インテリア分野では、リサーチ結果とブランディングを踏まえ、セールスプロモーションを含む販売計画を立案する。また製品の実制作を行い販売会を実施する。	
必修	工芸デザイン実習1	美術工芸・クラフト分野では、クラフト市やアートフェアなどの公募展出品を各自が設定、ファッション・インテリア分野では、リサーチをもとに専門素材を用いた最適なデザインを各自が設定し、作品構想、製品デザイン、プレゼンテーションと設計、素材実験を行う。	
必修	工芸デザイン実習2	美術工芸・クラフト分野では、特定のイベントをテーマにそれぞれの分野の視点から作品制作を行い、展示販売・公募展への出品を行う。ファッション・インテリア分野では、リサーチ結果とデザインを踏まえ、製品の実制作を行い実際に使用する。また、それらは販売会も行うことを考慮した数量を制作する。	
必修	工芸デザイン研究制作	各自が日々の中で感じている社会的立ち位置や、問題などに対して、どの様にアプローチすることで具体的に働きかけることができるのか、また新たな視線で物事を提案し社会の循環にどの様に役立たせることができるのかを自分なりの解決策を模索します。また具体的なプランニングを行い社会に対して自分の考えを伝え理解してもらうことを目的とし、後期卒業制作のプランニングへの転換を図る。	
必修	卒業制作（工芸デザイン）	明確な自分の意志を作品として表現し、4年間の集大成として相応しい作品を完成させることを目標とする。履修するにあたっては、前期からの素材研究やさまざまな調査研究を行い、綿密な計画のもとにスケジュールを立てて、能力を充分発揮できる作品を制作することが大切である。	
選択	東北工芸・産業論	東北各地に存在する工芸や地場産業の実態を捉え、モノづくりの現状と課題発見、解決案の提案を行う。また、デザイン画や想定イメージなどを作成し、プレゼンテーションについても学ぶ。	
選択	プロフェッショナルスキル1	工芸デザイン学科で主に扱う4素材（漆・陶・金属・繊維）それぞれの高度な伝統技法の習得を行う。素材の成り立ちをより深く理解して取り扱うことができ、専門的な道具、機械の扱い方、高度な技術を修得する。	

専門 選択科目	選択	プロフェッショナルスキル 2	工芸デザイン学科で主に扱う4素材（漆、陶、金属、繊維）それぞれの高度な伝統技術を習得する。短期集中的に専門的な技法を学ぶ。漆芸では、木工旋盤を使用し回転体の器を制作する。刃物の使い方、研ぎ方を知る。シンプルな造形の中から美しいラインを見つけ出す力を養う。木材の特性を知り挽物の加工方法を知ることによって今後外注する場合でもどのような点で注意すべきかを理解でき、職人と共通言語を持つことができる。 陶磁では、釉薬や絵付けによる加飾の作品制作を行う。 金属では加飾技法の応用として線象嵌、布目象嵌、切り嵌め象嵌などの象嵌技法の表現を生かしたデザインを基に制作を行う。 繊維では素材作り（糸紡ぎ）や工芸技術（筒描き、友禅、綴織）、インダストリアル技術（アパレルパターン、シルクスクリーン）、東北ゆかりの技術（樹皮繊維加工、ハンドタフテッド）などを学び、高度かつモノづくりの根幹をなすスキルの習得を行う。	
	選択	東北工芸実践	東北工芸・産業論で導いた解決案をもとに、自身の専門素材に対する知見を用い、実社会の中での応用力を任意の企業に提案を行う。東北工芸産業論で制作した企画書をもとに実制作を行い、企業に提案する。	
全学共 通科目 の理 念基 盤科 目群	必修	芸術平和学	建学の理念に沿って二つのことを学ぶ。一つは科学技術の功罪について、もう一つは芸術が現代文明の過ちを問い直す力を持っていることについてである。① 科学技術の功罪について学ぶ。現代文明は科学技術の恩恵を受けながら進歩を遂げてきた。一方、科学技術が持つ計り知れない脅威にも直面している。そんな現代文明を否定するのではなく、現代文明の過ちはどこから出発したのか、それを克服するためにはどうすればよいのかを考える。② 芸術の秘めたる可能性について学ぶ。21世紀が高度に発達した科学技術を人間の手に取り戻す世紀であるなら、芸術の役割とは何か。芸術は人間の良心を育み、時にそれを揺さぶり過ちに気づかせる力を秘めている。また芸術は言語の限界を超えて、平和を表現し訴求する手段である。	
	選択	美術史	それぞれの専攻分野の内容理解につながるようにテーマを設定し、美術作品の鑑賞（対話式）と史事に関する講義を通して、芸術や美術、アートやデザインとはどのようなものなのかの理解を深めていく。	
	選択	デザイン史	15世紀のイタリア・ルネッサンスと19世紀の複製技術の幕開けである写真術の登場をアート&デザイン史論の歴史上の二大事件として捉える。それぞれの事件の前後においてアート&デザイン（絵画・彫刻・建築も含む）における、社会・思想・技術がどのように変容し発展してきたのかを見ていく中で、自分がより深くリサーチし理解したいとするテーマを見つけ最終レポートを書くこととする。	
	選択	色彩学	色彩の使われ方は文化によって異なっている。他国の色彩の使い方をみるとカルチャーショックならぬカラーショックを感じるものである。そのような色彩についての多岐にわたる研究のいくつかを紹介しながら、各自が自分の独創性に役立てられ、また日本独自の色彩感性を活性化し、それぞれが今後携わる活動に活かせるよう模索する。モノからの視点、ヒトからの視点、生活からの視点、環境からの視点、時代からの視点と言うように幅広い観点から色彩を捉えられることを目標とする。	
	選択	芸術と心理	心理学、心理臨床学領域における基本的な概念について解説する。乳幼児期から老年期に至るライフサイクルの各段階でみられることの多い心理不適応や障がいなどを理解する。さらにこうした問題をアセスメントするための技法や、援助技法としての心理臨床面接の基礎について学ぶ。心理臨床学における研究法や資格や倫理問題といった近年のトピックについても論じる。人間の「心理状態」やそれに関わる社会問題について、実際の例や身近な情報を交えながら解説する。コロナ禍によって起きている心理的影響を考える。	
	選択	社会と政治	政治学の基本的なとらえ方と基本概念を学んだうえで、今の日本の政治がどうしてこのようなものになっているのか、成り立ちと経緯を学ぶ。あなたが主権者として生きていくために、そして年上の人と政治の話をするために必要な基礎的知識を身につける。	

選択	倫理と哲学	正義とは何かという問いを巡って、様々な具体例によって倫理的な行動の意味や意義を多様な視点で考察する。特に自由と市場原理の関わりは重要。さらに、善と悪、正義と不正、公正と不公平など、生命倫理を中心に、自分の行動原理を改めて問い直す訓練をする。それによって、社会的な倫理や規範からの幸福と、個人的な倫理からの幸福の一致の困難さをも自覚し、今後の自分の行動にしっかりとした明確な自己責任性を持つようにすることをねらいとする。	
選択	グローバル社会論	まず、宇宙の始まり、地球の誕生、生命の発生や人類の進化についてビッグヒストリー的理解を試みる。そして、ホモ・サピエンスのグローバルな性格や特徴を認識する。その上で、文明社会における宗教の展開や思想を学習する。近未来の人間社会の展望も見る。	
選択	知的所有権	我が国の知的財産に関する諸制度や慣習、主として著作権法制度についての成立過程や普及、現状の慣行を中心として学び、知的財産にまつわる諸制度の意義や現在の状況、今後の課題について理解する基礎力を整える。また、過去の著作権制度にまつわるケーススタディを通じて、創作者・表現者として必要な制度の理解と今後の利活用を考えていく。	
選択	日本国憲法	日本国憲法は、僅か103条の条文から構成されるが、国民の基本的な人権と国家の統治機構という日本の枢要部分を規定するものである。憲法に関する議論は、ともすれば抽象論に陥りがちであるが、授業では、日常社会に現実に生じている問題や過去の裁判例を素材としながら具体的に考察していくことにしたい。また憲法は、歴史上の産物としての存在も有しているところ、世界的な歴史の中で憲法がどう形成されたかに遡って触れてほしい。その上で、この授業を通して、どこか縁遠いと思われがちな憲法が、我々の生活と密接に関わっていることを理解してほしい。	
選択	地球環境論	約46億年前に地球が誕生してから、地球の環境はどのように変化してきたのか。大陸・海・大気の形成、生命の誕生、全球凍結、温暖な時期や寒冷な時期など、大きなイベントが幾つもある。この講義では、地球科学の基礎知識、太古の地球環境、最近の地球環境変動などを学び、ニュースに取り上げられている事柄を読み解いていく。また身近な火山や地震、岩石や鉱物についてもとりあげる。	
選択	生物と自然	最初にタンパク質とは何か。その特徴と体内での多様な働きを通して、「生きている」ことの共通性を学ぶ。(高校で使用した教科書、図解などがあれば参考になるので復習しておく。)講義の前半は、遺伝の基礎となる基本法則と染色体の動きを中心に、一見複雑に見える遺伝現象も統計的に数的に処理でき、予測することが可能になることを学ぶ。後半はDNAの構造や複製とDNAの遺伝子の発現(タンパク質合成)について講義する。特にips細胞の発見以降目覚ましく発展している遺伝子組換え・DNA鑑定・遺伝子治療などのDNAの応用技術を紹介し、問題点も含めて人間生活との関わりについて考えていく。	
選択	環境と心理	人が環境に働きかけることによって起こる、心の変化や行動についての心理学的知見を学ぶ。特にこの講義では、芸術大学の学生である皆さんにとっての「環境と心理」について考えていく。	
選択	健康科学論	われわれの環境には、健康を疎外する条件がたくさんある。例えば、公害問題なども含めた環境汚染、文化水準の向上、科学の発展による生活環境の変化などに伴うもので、個人では解決できない問題だ。しかし、だからといってどんなにすばらしい健康的な環境におかれたとしても、自ら健康になるための意志や努力を示さないのであれば、その人は健康にはなれない。また、自らの責任で健康を管理するという事は、高齢化社会を迎えようとするわれわれの社会的責任でもあると言える。そこでこの授業では、健康管理のための知識や知恵を身につけることや、身近な生活の工夫について意識を高めることでこれから健康な生活を送ることができるようなライフスタイルを考えていく。	

選択	生活の中の経済学	ミクロ経済学の基本的な理論を講義する。資源配分や市場メカニズムを中心に解説を行うが、企業行動、環境問題、公共政策などの分析に応用可能な余剰概念についても解説をする。講義では、実社会や企業が現在抱えている課題・問題点を取り上げるほか、課題・問題を解決するために必要な知識や考え方も紹介していく。	
選択	アート・デザインのための数理	数理的な考え方から導かれる美やシステムについて説明したり、自分で考え問題を解いて理解を推し進める。また、コンピュータを用いて数理的な考えから魅力的な図形を実作する。	
選択	実践統計学	まず記述統計学、次に推測統計学の基本を学ぶ。記述統計学は、統計的な資料のまとめ方についての学問である。推測統計学は、一部のデータから全体の傾向を推測する学問である。	
選択	科学技術と未来	芸術やデザインを考える上で足掛かりとなる合理的思考の発達史という観点から、①科学以前のものの見方、②科学的認識に向けた歩み、③科学革命とそれ以降という3部構成で勉強する。	
選択	地域社会と環境	食とエネルギーが抱える問題を明らかにしながら、我々を取り囲む山々や田園と暮らしとの結びつきを検証していく。地域の中でのエコロジカルなつながりが見えた時、東北の豊かな農と食、原発など不要なほどの自然エネルギーの可能性に気づくはずである。そして、新しい東北をデザインするためのビジョンを持ってもらうことを期待している。	
選択	東北文化論	芸術とデザインを想起・創出する人々にとっての人間把握の基礎的な知見を提供する。また、東北という地域を行政境界で理解するのではなく、文化と歴史という枠組みで見えていくと行政境界では捉えられない世界の広がりがあることや、地域性は人類の移動と適応のプロセス、あるいは定着し周辺の集団との関係性の中で形成されていくことを理解する。即ち、地域性とは場所性なのか、集団特性なのかを考える必要がある。	
選択	文化遺産マネジメント論	文化遺産マネジメントの基本的内容を解説し、それが現在の文化遺産の保存活用の運営、企画、維持等にどのように関わるのかを理解し考えていきます。文化遺産の保存活用に関する実際の活動を、経営的側面を含め学習し、文化遺産に関わる仕事の一端として学ぶ。	
選択	まちづくり論	われわれの日常生活の舞台である「都市」、「まち」、「地域」のなりたちと現状を理解し、さらに将来を構想するために必要な視点や知識を解説する。① これまでの都市づくりはどのような計画やデザインにもとづいて行われてきたか② その現代都市が直面している様々な問題や課題は何か③ これからの都市づくりはどうあるべきかなどについて学ぶ。	
選択	サステイナブルコミュニティ	テーマは、人口減少が進む中で「持続可能な強いコミュニティをつくる」である。人間関係が希薄化し持続性を失った現代のコミュニティが抱える問題の解説を踏まえ、人間性に根ざしたサステイナブルな地域社会のデザインについて論じる。人と人とのコミュニケーションを促し、かつ人間的な生活を支える空間はどうあるべきか、また、社会の構造はどうあるべきか。これについてまとめられた環境デザインの指針を基に解説する。	
選択	クリエイティブ経済論	近年注目されている「クリエイティブ経済」という概念を理論と実践例を通じて理解するとともに、それが地域経済の再生・発展にどのように寄与するかについて、山形県の産業・経済を事例として学ぶ。	
選択	地域ブランド論	ファッション・絵画・オペラなど文化と芸術の国、ワイン・豊かな食材に美味しい郷土料理など美食の国、靴・バッグなどの革製品、家具・陶器・自動車・自転車などものづくりの国、歴史的建造物の街並み、様々な顔を持つイタリアという国。地方都市それぞれが個性に満ち溢れ、特徴の異なる魅力的な町になっている。自分たちの産業をブランド化して世界をひきつけるにはどうすればいいのか。自立性の高い地方都市はどうすれば作り出せるのか。北部から南部まで20に分かれている州ごとに地方都市の特色を知り、イタリアから学べること、課題を考えていく。	

選択	地域ツーリズム論	授業全体をおおよそ3つに分け、前段を<基礎的事項>の理解に、中段を<伝統的観光地>として観光地の事例紹介にあてる。後段は<観光まちづくり>として、観光開発を進めるための手段やアプローチについて考える。	
選択	都市空間デザイン	クルマ社会からの脱却を目指して行われてきた先進都市の建築・都市空間デザインの事例を取り上げる。交通手段を変えれば、ライフスタイルが変わる。ライフスタイルが変われば街も変わる。モータリゼーションの反省を踏まえ、クルマ社会の次世代をどのようにデザインするのか。国内外の先進的な取り組みの事例を中心に、具体的な交通やまちのデザインについて解説する。さらに、それらを具体化するために必要とされる基本的な知識と技術について解説する。	
選択	日本語表現（初級）	新聞など“情報を伝える”文章を読むことで、「伝えるべき事柄を整理、要約する」などのスキル向上を図る。「正確な事柄、不明瞭な事柄などの関係性を理解」しながら、「論理的な文章表現」と、事象や感じたことを「正確に伝える」ことを修得し、レポートや論文など「論理的に構成される文章作成」のための基礎力を培う。	
選択	日本語表現（中級）	Web記事や文献など“情報を伝える”文章を読むことで、「伝えるべき事柄を整理、要約する」などのスキル向上を図る。「正確な事柄、不明瞭な事柄などの関係性を理解」しながら、「論理的な文章表現」と、事柄を「正確に伝える」ことを修得し、レポートや論文など「論理的に構成される文章作成」のための基礎力を培う。	
選択	初級英語	ネイティブ教員（Speaking、Reading中心）と日本人教員（TOEIC、文法中心）が担当し、「読む」「聞く」「話す」「書く」という4技能を養成する演習を行う。さらに語彙テスト、文法テスト、復習テストなどが実施される。授業での積極的な参加と相当量の自習が求められる。これらを通して、「確かな英語力」を身につける。	
選択	中級英語	「初級英語」を修了した者、またはTOEICのスコアが400以上の者を対象とする。このクラスは、ネイティブ教員（Speaking、TOEIC中心）と日本人教員（Reading、文法中心）が担当し、「読む」「聞く」「話す」「書く」という4技能を養成する演習を行う。さらに語彙テスト、文法テスト、復習テストなどが実施される。	
選択	上級英語	「中級英語」を修了した者、またはTOEICのスコアが450以上の者を対象とする。「中級」に続き、読む・聞く・話す・書くという4技能を養成する演習を行う。この授業では、毎時間の英会話演習および実践的なTOEIC問題演習を通じて、英語運用能力の向上、TOEICのスコアアップを目指す。	
選択	日本語1	日本語を読む、書く、話す、聞くの四技能の基礎力を確実なものにすることを目的とする。特に読む・書くに重きを置き、レポートを作成するために必要な論理の組み立て方や独特な文章表現を学ぶ。作文課題に取り組んだ後、最終的には各自のテーマに沿ったレポートを作成する。	
選択	日本語2	先輩の発表やプレゼンテーションのVTRを見て、どのように準備するかを学ぶ。その後は前期授業で作成したレポートをもとに、発表の準備や練習を実施し、発表とフィードバックを行う。	
選択	実践英語（TOEIC）	就職、進学の際に大きな武器となるTOEICで高得点をあげる為の英語を学ぶ。「初級」「中級」「上級」「実践」との同時受講も可能で、指定された授業時間・曜日もなく、自分のペースで学習できる。学習方法の解説や進捗状況の報告等を不定期でオンラインで行うが、基本的にはe-learning教材での毎日の自主的な学習が基本スタイルとなる。	

全学

共通科目 リテラシー科目群 言語と表現	選択	実践英語 (English Academic Skill)	<p>「英語上級」を修了した者、またはTOEICのスコアが500以上の者を対象とする。</p> <p>We will cover one unit over three classes. Classes will include time to explore the topic content, familiarize with new vocabulary to understand the lecture content. There will be a section on listening strategies and note taking while watching a short 5 minute lecture. Finally, discussion strategies, group work, research and mini presentations. Homework will be research assignments and reviewing the materials both online and in the textbook.</p> <p>(和訳) この授業は、各ユニットを3週間にわたり学習していく。授業では、トピック内容の探求や英語での講義内容を理解するための単語を学習する。また、実際に5分間の講義VTRを見ながら、効果的なリスニング方法、ノートのとめ方を学習していく。ディスカッション、グループワーク、リサーチ、ミニプレゼンテーションも行う。また、リサーチ課題、オンラインや教科書内容を復習する。</p>	
	選択	実践英語 (Speaking/Writing)	<p>「英語上級」を修了した者、またはTOEICのスコアが500以上の者を対象とする。</p> <p>Lessons will include speed writing, conversational pair work, group work activities, focus on natural language, organizing ideas, presentation skills, and presentation practice culminating in a final Presentation assignment. Essays will be assigned for homework.</p> <p>(和訳) 授業では、スピードライティング、2人一組での英会話、グループワーク、日常会話表現、アイデアのとめ方、プレゼンテーションスキルを学習したり最終プレゼンテーションに向けて練習を行う。また、課題として作文を出す。</p>	
	選択	実践英語 (Listening/Reading)	<p>「英語上級」を修了した者、またはTOEICのスコアが500以上の者を対象とする。</p> <p>In class we will listen to native speaker dialogues, non-native monologues, and practice natural English listening skills and speaking activities. There will also be pair and group work. Each chapter will feature a speaker from a different country, grammar point and function to help improve student's English all round.</p> <p>(和訳) この授業では、ネイティブやノンネイティブの会話を聞き、日常会話におけるリスニングスキルや会話表現を実践する。また、ペアやグループワークを行う。異なる国の出身者をチャプター毎にとりあげ、英語力向上に役立つ文法ポイントや機能を学ぶ。</p>	
	選択	外国語特別講座	<p>イタリア語を習得することが目的の、会話・文法事項・練習問題などと進めていく本来の語学の授業とは違い、イタリアの文化を理解しながら楽しく言葉にもふれる講義形式。イタリアの文化(音楽・美術・ファッション・料理など)、人々の生活をよりわかりやすく紹介するためにDVDやCDなどの教材を多く使う。イタリアという国、イタリアの言葉に興味をわくような様々な角度からふれ親しみ、その中から日常的に用いられるごく簡単な表現も学んでいく。</p>	
	選択	体育運動学演習	<p>クルト・マイネルは、遺稿として残した「動きの感性学」の中で、動きのリズムの世界で教育された人間は、生命ある世界の感性の豊かさ、芸術の豊かさを広く、深く体験するものであると述べている。また体育で学習する運動学とスポーツの動きの感性学は、感覚に与えられた「動きのかたち」から始まるという類似した起点を持っていることも説明している。この授業では、ダンスを身体動作として、動きの対象として扱い、自らの運動を作品としてつくりだしていく。</p>	
	選択	デッサン入門	<p>鉛筆を描画素材として使いデッサンの基本となる形、明暗、質感、空間を対象のモチーフを通して、デッサンの基礎技術を習得する。課題は大きく4つの課題を制作する。1、立体と明暗を意識した描画 2、手の機能や構造を把握する描画 3、自然物を細密的に描きながら質感を捉える描写 4、複数のモチーフを構成して画面の成り立ちを考えた描画。以上の4課題によって基礎的な造形意識と描画技術を段階的に学んでいく。</p>	

全学共通科目リテラシー科目群 社会リテラシー	必修	想像力基礎ゼミナール	より豊かで深い「想像力」を身につけるために、「論理的思考能力」「文章力」「社会性」を向上するプログラムを3つのフェーズを経て身につけることができるようにデザインされている。ファーストフェーズは「他者と出会い、他者に気づく」。このフェーズでは、普段、何気なく行っている他者とのコミュニケーションを、多様な他者との対話を通して「違い」に気づき、個々人のコミュニケーションスタイルを俯瞰できる基盤を作る。セカンドフェーズは「他者を通して見えてきた「自分自身との対話」を行うことで、より自己認知力を向上させる。そしてサードフェーズは、クラス内から更に社会や未来に目を向け、これから卒業までに身に付けたい能力や知識、スキルを明確に思考し、プレゼンテーションできる力を養う。	
	必修	コンピュータ基礎演習	コンピュータとインターネットに慣れ親しみ、デザイン表現に必要な各アプリケーションを自在に使える能力を身につけるためにそれぞれの技術習得に必要な内容の課題制作を行う。具体的には、基本的なコンピュータの扱い方を始め、文書の作り方、表計算の方法、グラフィック表現、プレゼンテーション方法等について第三者への確に伝達表現できるように総合的に学ぶ。それら身につけた技術を今後の演習課題、レポート作成、表現活動に実践的に役立てられるようにする。	
	選択	デジタル表現演習	すべてのデジタル表現の基礎となるIllustrator、Photoshopの扱いを通して、ベクトル、ドロー、ビットマップデータのそれぞれの表現方法、使い分け、修整に強く適切なアウトプットを見越したデータ制作の基本を学ぶ。	
	選択	デザイン思考	デザイン思考の本質部分を説明する。特に、『観察・共感』について、心理学的アプローチによる体験型ワークショップを含みながら解説していく。	
	選択	情報リテラシー	前半～中盤は教科書に沿いながら、様々なコンピュータに関連した事項を学ぶ。後半は情報活用課題の制作を通して、情報の検索から発信まで流れのすべてを学ぶ。特に後半については、コンピュータだけでなく、書類を含めた情報の扱い方についても学ぶ。	
	選択	セルフプロデュース演習	「自己理解」、「自己肯定感」、「創造性」、「コンフォートゾーン」などを主なキーワードとして、「自分自身で自分自身を成長させていく」ことの初歩的な理解と実際を経験していく。そのプロセスや成果は、デジタル・ストーリーテリング（制作者がデジタル機器を活用して、ビジュアルとナレーションなどをつなげていく「お話し」）という表現方法でプレゼンテーションする。	
	選択	地域プロジェクト演習A	農作業と情報共有の場としての農カフェとして、畑でのフィールドワークを通して実習・ディスカッション・グループワークを展開し、思考を深め、自己を確立していく。生きるということを食べることである。毎日食べているものは、自然からの恵みである。土を耕し、植物を育て、収穫し、食べるという経験をすることで、生きるということ、自然と共生する感覚、自然のリズムを思い出す。	
	選択	地域プロジェクト演習C	「グラフィック・レコーディング」について、個人ワーク、ペアワーク、グループワークにより実技を中心に学ぶ。ペンの使い方の基礎から始め、文字情報の要約・可視化、音声情報の要約・可視化、対話の要約・可視化をステップを踏んで習得していく。	
	選択	クリエイターのための経営学	一般的な企業の経営とクリエイターの経営について、説明や事例を紹介する。あなた自身の創業や組織内でのプロジェクトマネージャー等の仕事を意識しながら、クリエイターとして社会と関わる際に、制作以外で必要となる知識を把握する。自ら計画を立て、事業として成立させるために思考する機会とする。	
	選択	実践PCスキル	Officeソフトの扱いについては、一年時コンピュータ基礎演習で学習済みだが、Officeソフトにはもっと多くの、便利で効率的な機能が用意されている。基礎だけでは学びきれなかったOfficeソフトの使い方を習得することで、よりの確なレイアウトや、情報処理を行うことが可能になり、生産性の向上が期待できる。本演習は、MOS(Microsoft Office Specialist)の資格取得を基準として学ぶ。	

全学共通科目 リテラシー科目群 キャリアデザイン	必修	キャリア形成論	自己理解をし、自己受容をしていくための手法を学ぶ。また、体験型学習となるため、各自で自発的に動き、様々な考え方を受け止め、自分を発信できるようになることを目的とする。	
	選択	仕事講座A	社会に出てから必要となる知識の習得を目的とする。労働法や税金について解説し、その後職業適性理論、企業研究方法を学ぶ。自らの進路決定に役立てる知識を習得することを目的とする。	
	選択	仕事講座B	アントレプレナー（起業家）＝自らイノベーションを起こす人材（経営者・起業家的思考を持った人材）の育成を目的として、学習していく。	
	選択	公務員講座	実際に公務員として活躍している方々をお呼びし、実際の仕事について学ぶ。また、公務員になるための学習方法や学力を知り、進路のための役立ててもらふことを目的とする。	
	選択	キャリア設計論1	キャリアにまつわる理論や体系を学び、実践することで自己理解を深めることを目的とする。	
	選択	キャリア設計論2	学生自身がキャリアにおける課題を設定した上で、その課題を達成するにはどうすべきかという点について、自律的な学習を実施する。	
	選択	自己表現講座	アドラー心理学の全体像と基礎的な知識を学ぶ。その上で、実生活にどのように生かせるかを考え、言葉にする。	
	選択	文化財保護法	最初に文化財保護法制定の経緯を学ぶ。その後各文化財の区分毎に、文化財保護のあり方について文化財保護法の内容を読み解きながら学ぶ。	
	選択	文化財保存修復入門	文化財の保存修復についての基礎的な知識を学ぶ。具体的には、実際の文化財の保存修復の現場での課題や問題点を、各分野の視点から取り上げる。	
	選択	保存科学概論	文化財保存に関する基本的なシステムに関するレクチャーを行い、文化財の劣化要因について項目ごとに講義を進める。文化財保護に関する日本や世界の考え方について紹介したのちに、温度湿度、光、空気環境、生物、災害のような文化財の劣化要因を取り上げる。事例を織り交ぜ、課題・問題を解決する提案ができるようにする。	
	選択	古典彫刻論	仏教美術の始まりから、日本に伝来してからのさまざまな仏像の種類や形、時代的特徴などを講義する。またその仏像の造像技法（例えば寄木造りや乾漆技法など）を詳しく解説する。仏像の基礎知識が身についたところで古典彫刻修復の概説をおこない、修復事例などから、具体的な仏像の損傷等の症例等解説し、その修復方法や修復材料なども含め解説していく。	
	選択	歴史遺産学総論	考古学・歴史学・民俗／人類学を中心に学んでいく。具体的には、それぞれの専門分野に基づき、具体的な歴史遺産を取り上げながら①歴史遺産とは何か、②歴史遺産の読み解き方、③歴史遺産の保存・活用といった視点から説明し、最終的にはそれらの内容と自分の興味を関連づけたレポートを作成してもらふ。	
	選択	日本史概論	戦国時代～近現代までの日本の歴史から、いくつかのテーマをとりあげながら講義をすすめる。その際、歴史資料の客観的・多角的な解釈を提示し、高校以前の日本史教育で教えられる歴史像を再考する。	
	選択	東洋史概論	前2世紀～9世紀のユーラシア大陸東部、とりわけ中国の歴史を基軸としつつ、日本との関係を織り込み、さらに朝鮮半島や北アジア・東南アジアの諸国との関係を学ぶ。時代も地域も異なる世界を扱うが、人間がその時なりの「いま」を生きていた点は同じである。古代の人間の世界認識に関する論理と実践、直面した課題や解決方法について、理解を深める。	

選択	考古学概論	考古学の研究方法と日本列島の先史時代史の概説を行う。前者では過去の遺物からどうやって時代や分布、機能・用途を明らかにするのかについて、型式学や編年、年代測定法、実験考古学、民族考古学の機能研究を紹介する。後者では主に先史時代をテーマとし、自然と人との関係、社会と人の関係、生業の視点から各時代の文化の特徴と変容のプロセス、多様な地域文化の発生について講義する。	
選択	民俗・人類学概論	民俗学・文化人類学の学史を学習する。また、民族誌・民俗誌 (ethnography) について、その具体例を学んだ上で、フィールドワークの手法についても学習する。	
選択	地理学概論	授業全体を3部に分けている。はじめは地理学の基礎概念について学ぶ。次に地図の利用法について、実際に手を動かしながら、学ぶ。最後に現代的課題について学ぶ。	
選択	世界遺産総論	考古学・歴史学・民俗/人類学の視点から、①世界遺産とは何か、②世界遺産の観方、③世界遺産の保護と活用について学ぶ。世界遺産の登録と地域に生きる人々とのかかわり方を「近代」という枠組みのなかでとらえ直し、遺跡や史跡、野生動物、文化的景観、民族遺産の観光化と政治利用、産業遺産と20世紀遺産、地域との関わり、価値観の対立、有形・無形文化遺産の保存と活用などの事例を取り上げ、世界遺産に抱える問題を提示し、世界遺産の意味について考える。	
選択	社会文化環境論	前半は、人類進化史、特に自然環境適応を、後半は社会文化環境適応を中心とした内容になる。さらに、後半は現代日本社会が抱えている感染症や野生動物問題について具体的事例を挙げ、私たちが日頃当たり前と思っている行動や癖が感染症や野生動物の問題に与える影響についても触れる。	
選択	アジア文化論	芸術文化はそれのみで自律的、単独的に存在しているのではなく、その背後には必ず作者や時代の観念的な思想文化が横たわっている。本講義では、芸術と言語・思想・デザインという両文化の間を埋めていく知性を養うことを目標とする	
選択	日本美術史	日本美術史は大きく分けると、彫刻、絵画、工芸品などの分野に分けられるが、その中でも彫刻、絵画がその中心となる。また時代的にみると古代、中世は彫刻作品が多く、それに対し絵画作品は中世以降に比重が大きくなる。ここでは古代、中世の代表的な彫刻作品、絵画作品について基礎的な講義を行う。	
選択	西洋美術史	古代からバロック期までのドイツを中心とした美術を時代を追って見て行く。それにより主要な美術作品の形態的特徴・歴史的意味・機能などを理解する。	
選択	東洋美術史	紀元前から近世までの東洋美術を概観する。対象とする地域は中国を主とするが、部分的にインド、朝鮮・韓国も扱い、日本美術との関わりについても積極的に言及する。時間的な制約からジャンルは彫刻と絵画に絞り、各時代における重要かつ代表的な作品を取り上げる。	
選択	現代美術史	モダニズムの芸術と明確に区別される現代美術(コンテンポラリー・アート)の基礎的な展開を取り上げていく。第二次世界大戦後のアメリカ抽象表現主義をモダニズムの一起点とし、以後のミニマル・アート、ポップ・アート、アース・アート、パフォーマンス、メディア・アートなどの作品や理論を紹介し、それらの時代背景についても探っていく。	
選択	美学	美学 (aesthetics) は、その研究対象に応じて「美的 (感性的) なものの哲学 (philosophy of the aesthetic)」と「芸術の哲学 (philosophy of art)」と大きく二分されるが、本講義はそのうち後者、すなわち芸術哲学への入門としてある。芸術哲学とは、芸術に関する哲学的な考察であると同時に、芸術を思索の糧とする哲学を意味するが、本講義においては、今日の視点から芸術哲学上とくに重要と見なされるいくつかの論点を取り上げ、それらを歴史的かつ体系的に考察する。	
選択	版画史	この講義では、各時代ごとの版画作品をスライドで示しながら、作品が誕生した背景などについて解説を行う。	

選択	先端的コンテンツとアートシーン	美術的な思考や技術を生かしてクリエイティブな活動をしている方をゲストとして招き、レポートや発表、ディスカッションを通して進められる講義。その為、ゲスト講師の作品を鑑賞し調べる学習から始まり、その後、考察し発表することで、単純な言葉で言い表せないカテゴリーを明確に理解し体得していく。	
選択	文芸論 3	先史から現代史まで、大きく歴史の流れを把握する。奴隷支配と反乱をひとつのテーマにしなが、世界の歴史を概観していく。	
選択	文芸論 5	批評・評論文を書くためには、まず読むことから始めなければならない。そのため教員が毎回、テキストを用意するので、それを読解し、要約作業を行う。さらには単なる受け身ではなく、テキストに書かれている内容を踏まえながら自身の考えを構築し、書いていくことも必要になる。授業内では、教員による講義だけではなく、各自が書いてきた文章を相互に読み合う作業も行っていく。	
選択	文芸論 6	毎回、世界の文学史において重要な役割を果たした文学者の作品を1つ～3つ程度選択し、文学者の生涯を紹介しつつ、作品の読解を行う。	
選択	ゲームデザイン構築	ゲームクリエイターを特別講師としてむかえ、ゲームの企画立案・発表、仕様制作に取り組んでいく。すべての作業をグループワークで行っていくが、これ自体は多くのゲーム会社ではひとりで制作体制を組んでいないためである。具体的な作業内容は、企画書の作成、およびそれを踏まえながら仕様書の制作となる。	
選択	アニメーション史	文化面や産業面、技法、タイプやコンセプトからアニメーションを時系列に沿いながら総合的・包括的に講義を行う。特に、作品や映像コンテンツを示しつつ、作品の鑑賞でのガイドライン的な説明をする。	
選択	コンテンツ文化史	コンテンツの種類と、その文化や産業の面から時系列に沿いながら総合的・包括的に講義を実施する。特に、作品や映像コンテンツを示しつつ、作品の体験や鑑賞でのガイドライン的な説明をする。	
選択	インタフェースデザイン論	コンピュータに代表されるような、いまだ進化し続けるプロダクト群は、私達の生活に欠かせなくなっているにもかかわらず、世の中を見渡すと、わかりにくく、そして使いにくいモノが溢れている。本授業では、認知科学、情報デザイン、UXデザイン (User experience) の3段階の構成で、さまざまな具体的事例も紹介しながら、より身近なデザイン領域となったUIUXデザインの考え方や手法について学修する。	
選択	西洋建築史	西洋の古代から中世、近世、近代までの長い歴史を、古い時代から順に時系列に学ぶ。各時代毎の特徴や時代性などにつき板書を交えて紹介しつつ、時代毎に、事例をまとめたスライドショーを交えながら実物の姿に触れる。単に、歴史、時代の名称を覚えるのではなく、それぞれの様式や形が発生した、あるいは転換していくきっかけ、出来事などの時代背景、西洋各国のお国柄と形や考え方の違いなどを、講義やスライドショーから体感したい。	
選択	風土形成論	風土を「地域の自然に対して人間が生活や生業を通して働きかけてきた結果」と定義する。その上で、この授業では風土をなりたいたせている大地、気象と水のめぐり、生物と生態系や、それらに応じて行われる人間の生活と生業などのそれぞれと相互の関係を、さまざまな専門研究の成果をひもときながら事例を通して読み解いてゆく。	
選択	日本建築史	わが国の建築の歴史を時代の変遷に基づく形で、具体的な建築種別を切り口にしながら通史として解説、学習していく。現在のわれわれの身の回りにある建築全ての原点というべき原始住居建築、神社建築、寺院建築、中世以後の住宅建築、茶室、城郭などの建築種別で区分解説を行い、それらが伝える意味や意義、併せて日本の生活風習や習慣などとの関係性にも触れ、より身近な視点で建築の存在を体感、実感する授業としたい。	

選択	風景の計画	「風景」は、あらゆることを理由に結果的に目の前に立ち現れている。その「風景」の解釈や評価には様々な見方がある。事例を通じて「風景」の様々な捉え方や価値観を学び、私たちを取り巻く環境や社会の課題との関連について考察を深めてゆく。最終的には、講義で得た視点や気づきを踏まえ、身近な風景の批評を行い、今後の在り方（計画）を各自が論じる。	
選択	インテリア設計論	インテリアデザインの事例について、下記のキーワードに沿ってスライドを中心に学び、インテリアデザインの全体像を把握することを目的とする。(用途 構成 素材 色 家具 光 設備 構造 施工 スケール 自然と人が集まる場所)また、各事例が持つ特性を理解し、空間として把握する。最終的には各自テーマを設定して事例を調査してレポートすることで、インテリアデザインについて自ら思考できるようになる。	
選択	建築と歴史と自然	建築は人類の歴史の中で、気候風土、民族、文化など様々な要因と結び付いて造られてきた。本講義では、そのような建築が自然素材と対峙して新たな表現を試みた、過去から現在に至る事例をスライドで紹介し、自然や建築、素材、建築にまつわる歴史に対する理解を深める。	
選択	生活とグラフィックデザイン	一般生活の中にある様々なデザインをみつめ、客観的な視点で解説する。食生活、ファッション文化、音楽メディア、情報メディアなどのデザインのありかたが、見る角度によっては関連づいてみえてくる様子をわかりやすく解説する。デザインの因子は、生活の中にこそあるという発見を愉しむ講義。	
選択	コミュニケーションデザイン	デザインとアートは社会との関わりの中で変化、進化して来た。今日の急速な情報のデジタル化や通信環境・ハードウェアの進化は、メディアの多様化や新たなメディアを生み出している。そしてこの変化は、個人にとっての情報への関わり方も大きく変えている。このような現状を考査しながら、これからのアートやデザインの役割を検証していく。	
選択	文字とグラフィックデザイン	グラフィックデザインは社会との関わりの中で変化、進化してきた。今日の急速な情報のデジタル化・通信環境の変化は、メディアの多様化や新たなメディアを生み出している。私たちは文字に囲まれて暮らしているといってもいい。文字はどのように発生し、どう変化して来たか。その多様な歴史、現状を見つめ直していく。	
選択	メディア表現とグラフィックデザイン	新しいグラフィックデザインについて講義していく。前半はメディアの世界を訪れた、1980年代のアナログからデジタルへという変革の中で、グラフィックデザインを中心としたメディアはどう変化していったか。また、その可能性はというテーマで理解を深めていく。後半は、新旧のメディア表現を紹介しながら、その可能性や意義について講義する。	
選択	世界のクリエイティブ100年史	グラフィックデザインのみならず、近代デザインとアートの辿ってきた道を深掘りする。オーディオ&ビジュアル資料を多数用意し、19世紀末の万博から20世紀末にイギリスのテクノシーンとともに台頭してきたTOMATO～現在に至るまでのグラフィックシーン全般、現在に通じるモダニズムの潮流を、場所性や歴史も絡めて考察する内容である。	
選択	映像文化史	授業で紹介された作家の上映作品を確認しながら、ドキュメンタリーと劇映画の違いについて考える。また、それぞれの作品を確認しながら、動画についても考察していく。	
選択	メディア文化史	ユネスコ創造都市と山形国際ドキュメンタリー映画祭についてリサーチを行い、授業で紹介された作家の作品を検証していく。	
選択	映像プランニング概論	映像（CM）を企画発想する上で大切なことは何か、アイデアはどのように生まれるかを、多くの実例と講義を通して学ぶ。また、広告クリエイターなどから、実際の広告制作の現場では、どのような意図やアイデアからCMがつくられるかを学習する。	
選択	映像コミュニケーション概論	毎回テーマを持って、広告的アプローチからメディア戦略・インタラクティブワークの構造を知る。常に『何故?』と問いかけるよう意識付けを行うことによって、アイデアの考え方やビジュアルの作り方なども学ぶ。	

選択	広告ビジネス入門	広告の基礎知識とトレンドを理解し、自ら考えられるようにする。「広告って面白い！」をコンセプトに、広告を様々な視点で切り取り、毎回テーマを変えて解説をし議論をする。また、広告表現だけではなく、伝える手段としてのメディア、広告ビジネスの仕組みなど、広告全体が分かる内容となる。	
選択	インターネットビジネス入門	自身をプロモーションするサイトの作成、そのための情報収集、情報の整理、文章の書き方、画像のweb化などの情報技術の知識を学ぶ。	
選択	コピーライティング入門	コピーのケーススタディを振り返りながら、名作と言われる広告コピーは、なぜ名作と言われるのか？その裏側にある狙いや目的を探りながらコピーの書き方を学んでいく。また、広告だけでなく書物や新聞などの文章も検証し、凝縮された言葉から、課題を解決する言葉とは何か？その書き方を学ぶ。	
選択	データデザイン入門	企画すること・ロジカルに考えること、それには、データの取扱い、分析が必須である。企画する上で重要なことは、(1)問題を見つけること、すなわち弱点、弱さを見つけること、(2)解決案を見つけること、すなわち社会のニーズ、トレンドを把握すること、(3)解決案の妥当性を説得すること、すなわち仮説を立て検証するためのデータを集めること、集めたデータを分かりやすくグラフ、表、チャートにまとめることである。本講座は企画から提案・プレゼンに必要なデータとの取扱い方を示す。	
選択	ブランド・マーケティング入門	フィリップ・コトラーの「マーケティングマネジメント」をベースにしたマーケティング基礎、手法を体系的に習得。市場の絞り込み、差別化、商品政策、価格政策、チャネル政策、プロモーション政策、ブランディングの各ステージに分けて実践を交えながら、学習していく。	
選択	ベンチャービジネス入門	経営者意識を持つワーカーが求められている現代を理解しながら、社会の課題、社会に必要なサービスを自ら考え、持続可能なビジネスという形に仕上げるポイントを学ぶ。そしてそれを事業計画書としてまとめる方法を学ぶ。	
選択	障害者・高齢者の心理と福祉	教員免許状取得の際に義務づけられている「介護等体験」を実施する上で必要な知識や技能・態度等を身につけるための学習を行う。特に、障害者や高齢者に関する基礎的事項について理解するとともに、よりよいかかわり方について考えることで、介護等体験における目標を設定することができるようにする。	
選択	教育学研究4（子供の学びと遊び）	まず、具体的な実践事例の紹介や文献講読、ディスカッションを通して、地域社会の中での多様な場づくりについて学ぶ。また、受講する学生それぞれの学科・コースの専門性を活かし、グループで遊びのコンテンツを開発し、実際に子どもたちに向けて実施する。	
選択	教育学研究1（子供の心理）	社会背景や家庭環境などから「不登校」「いじめ」などの中高生の問題行動について学ぶ。この学びを基礎として、以下の3点を中心に、教師としての実践力を育成する。(1)生徒の自己肯定感や人間関係づくりを向上する「教育相談を生かした生徒指導（教育的カウンセリング）」について学ぶ。(2)「問題行動の事例研究」の対応策について考え、グループワークで深め課題レポートを作成。(3)「特別活動（ホームルーム活動）」の意義を学び、ホームルーム活動（LHR）の学習指導案を作成・模擬授業に取り組む。	
選択	教育学研究2（障害者の病理・心理・教育）	特別な教育的支援を推進していくことは、発達障害を持つ児童生徒ばかりでなく、すべての児童生徒にとっても楽しく学ぶことにつながる。学校生活や学習上の困難を改善または克服するため、発達障害についての理解を深めて適切な指導および必要な支援を行うことができるようにする。	

選択	教育学研究3（児童問題）	児童問題の「児童」とは18歳未満の子どもとして、児童福祉法の法的な位置づけをして学習を行う。現代の子どもたちが抱える問題について、子どもたちの人間関係の歪みや、いじめ・不登校など、学校教育にかかわる問題だけではなく、家庭の教育力の低下、子どもの貧困、子ども虐待といったような社会的な問題にも理解を深め、これからの生徒指導のあり方について考察する。	
選択	教育学研究5（環境教育）	学校における環境教育の活動状況を理解し、学習指導案を作成して話し合うとともに地域素材とのかかわりや指導方法のポイントをふまえた授業実践力を身につける。	

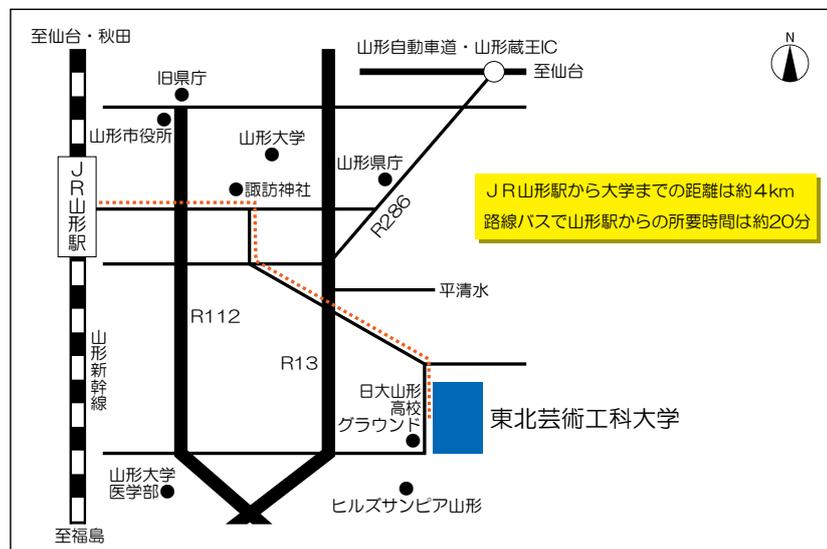
(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目であって同時に授業を行う学生数が40人を超えることを想定するものについては、その旨及び当該想定する学生数を「備考」の欄に記入すること。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。

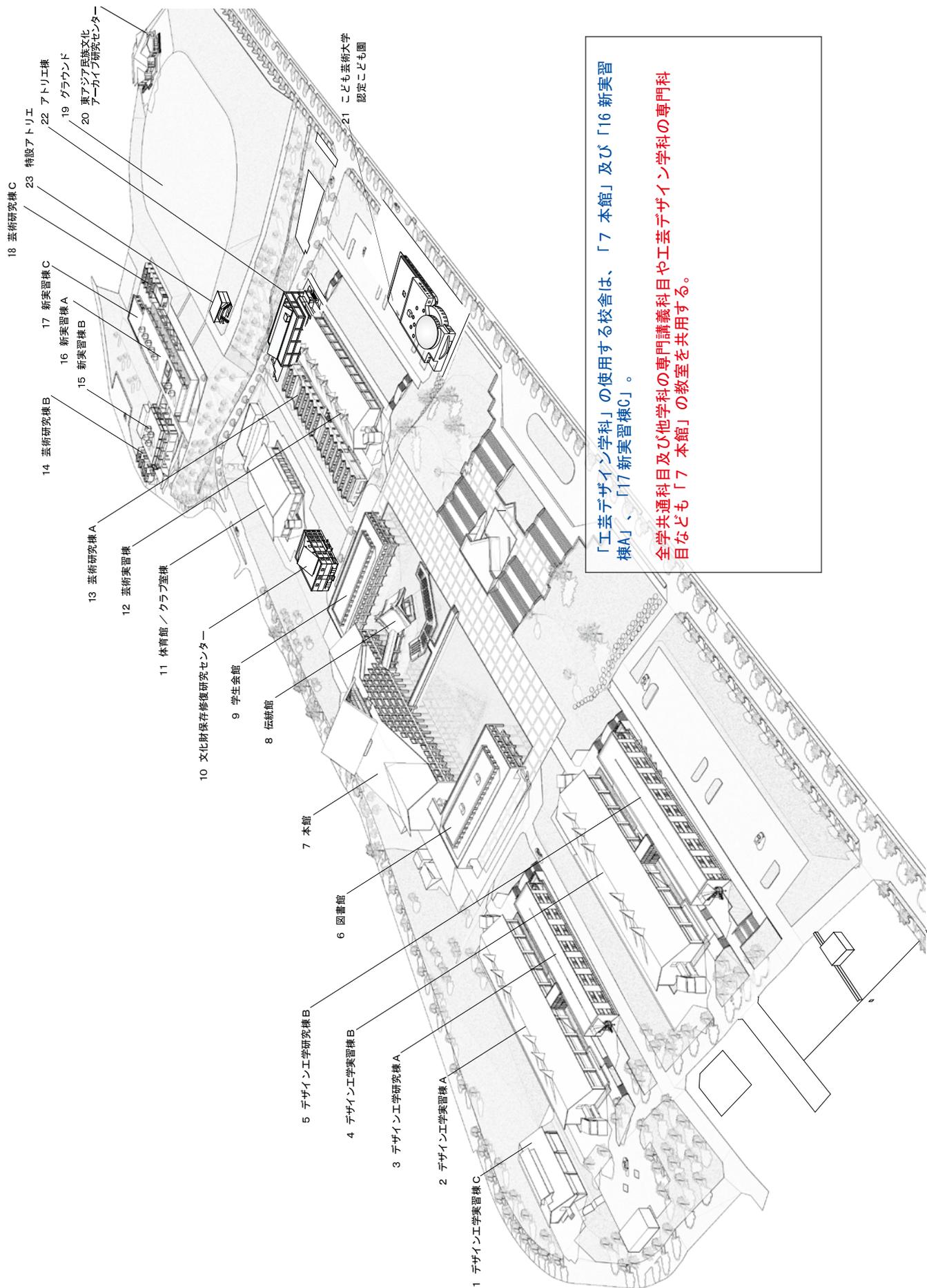
① 大学の山形県内での位置



② 最寄駅と校地の位置関係



③ 校地と校舎の図面



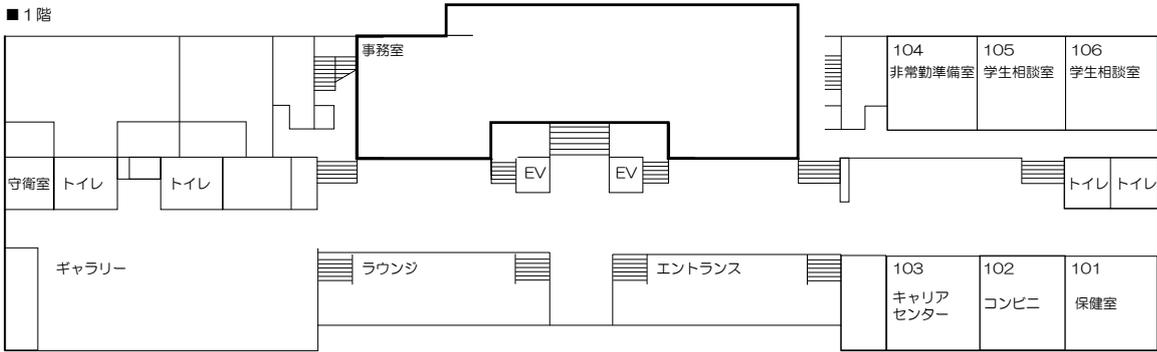
「工芸デザイン学科」の使用する校舎は、「7 本館」及び「16 新実習棟A」、「17 新実習棟C」。

全学共通科目及び他学科の専門講義科目や工芸デザイン学科の専門科目なども「7 本館」の教室を共用する。

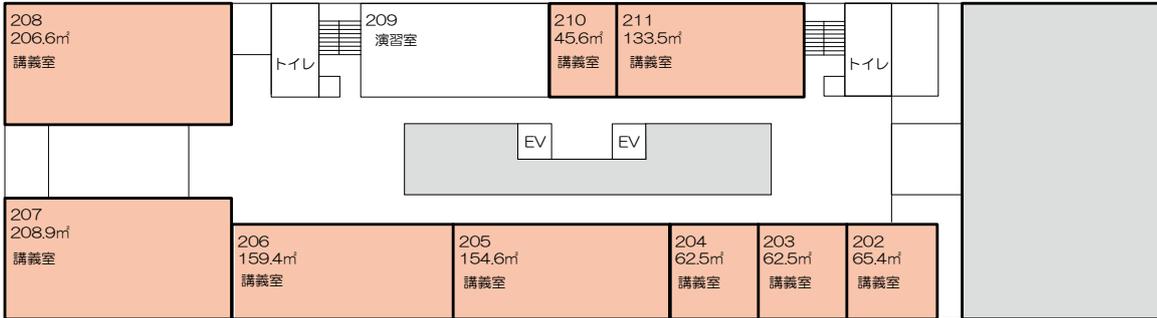
7 本館

全学共通科目、全学共通専門科目、学科専門講義・学科専門演習科目教室
 201~208・210~211・301~306・407~411 合計3,489.1㎡

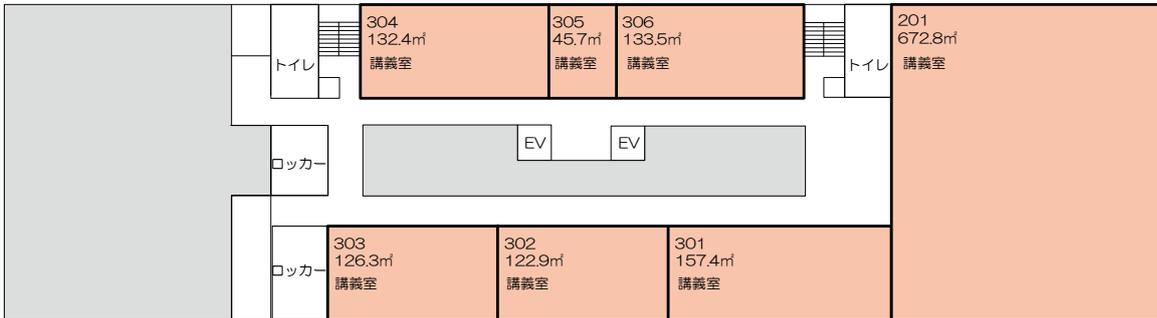
■ 1階



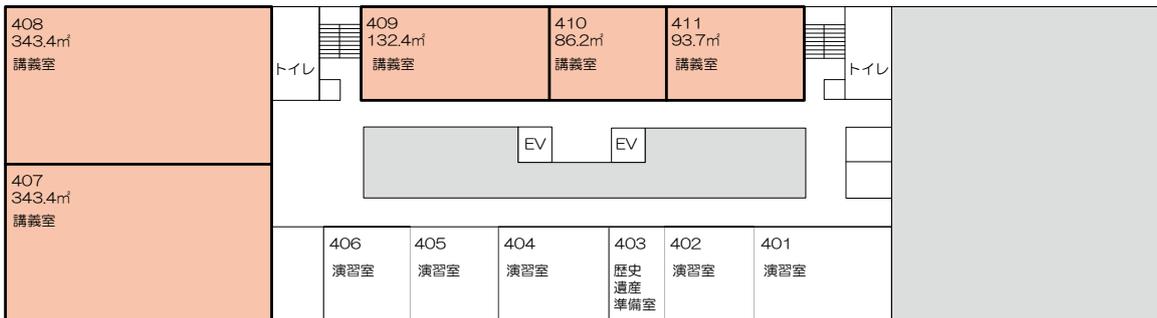
■ 2階



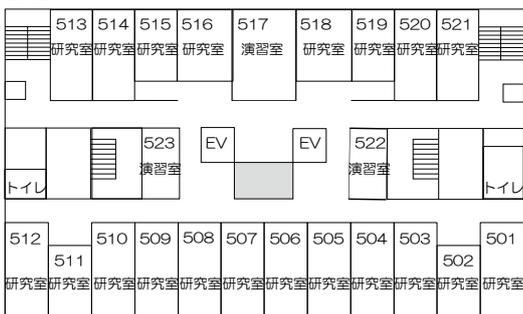
■ 3階



■ 4階

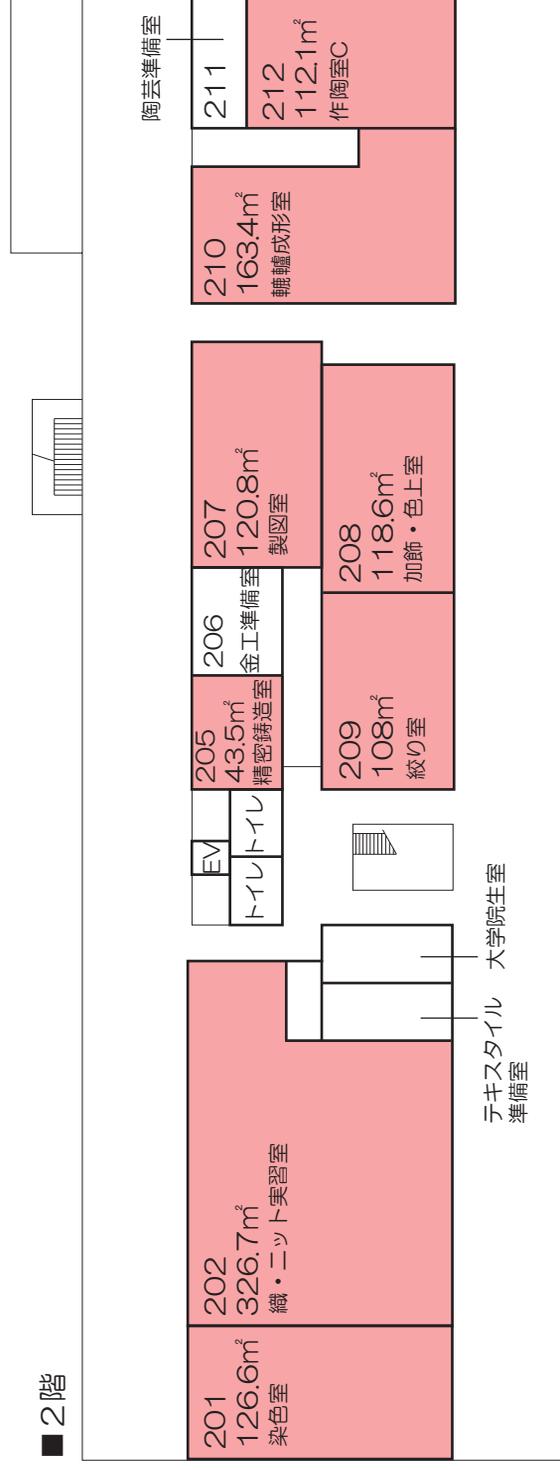
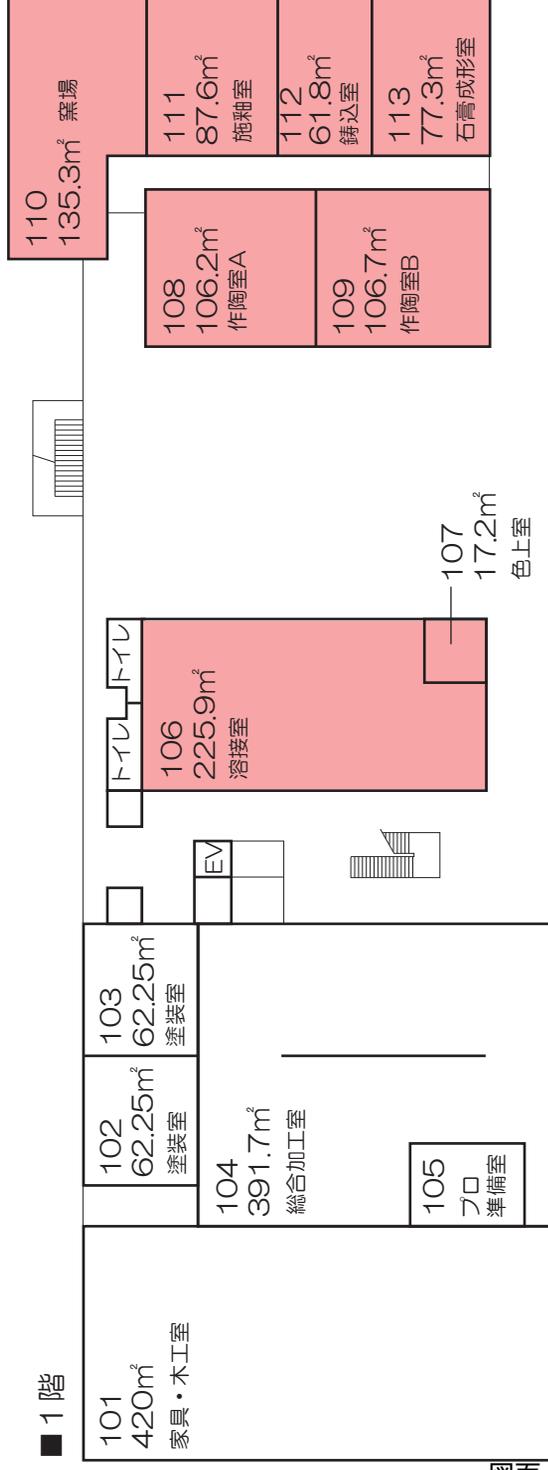


■ 5階



16 新実習棟A

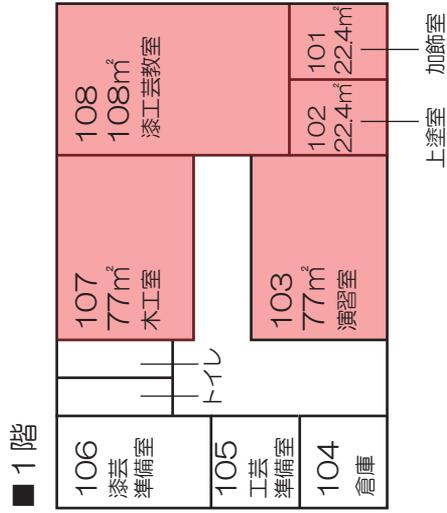
工芸デザイン学科 演習室106~113・201~202・205・207~210・212 合計1,937.7㎡



図面-4-

17 新実習棟C

工芸デザイン学科 演習室101~103・107~108 合計306.8㎡



学則の変更事項を記載した書類及び新旧対照表

1 変更事項

1) 学則第 2 条に定める入学定員を下記のとおり変更する。

芸術学部 工芸デザイン学科	入学定員 45 名 (新設)
芸術学部 美術科	入学定員 124 名 (定員減 45 名)

2 変更の時期

令和 5 年 4 月 1 日から施行する。

3 変更条文の新旧対照表

下記のとおり

改正後	改正前
<p>(学部及び学生定員)</p> <p>第 2 条 本学において設置する学部並びにその学生定員は、次の通りとする。</p> <p>芸術学部</p> <p>文化財保存修復学科 入学定員 26 名 総定員 104 名</p> <p>歴史遺産学科 入学定員 32 名 総定員 128 名</p> <p><u>美術科 入学定員 124 名 総定員 496 名</u></p> <p><u>工芸デザイン学科 入学定員 45 名 総定員 180 名</u></p> <p>文芸学科 入学定員 42 名 総定員 168 名</p> <p>デザイン工学部</p> <p>プロダクトデザイン学科 入学定員 62 名 総定員 248 名</p> <p>建築・環境デザイン学科 入学定員 52 名 総定員 208 名</p> <p>グラフィックデザイン学科 入学定員 68 名 総定員 272 名</p> <p>映像学科 入学定員 62 名 総定員 248 名</p> <p>企画構想学科 入学定員 50 名 総定員 200 名</p> <p>コミュニティデザイン学科 30 名 総定員 120 名</p> <p><u>附則</u></p> <p><u>この学則は、令和 5 年 4 月 1 日から施行する。</u></p>	<p>(学部及び学生定員)</p> <p>第 2 条 本学において設置する学部並びにその学生定員は、次の通りとする。</p> <p>芸術学部</p> <p>文化財保存修復学科 入学定員 26 名 総定員 104 名</p> <p>歴史遺産学科 入学定員 32 名 総定員 128 名</p> <p>美術科 入学定員 169 名 総定員 676 名</p> <p>文芸学科 入学定員 42 名 総定員 168 名</p> <p>デザイン工学部</p> <p>プロダクトデザイン学科 入学定員 62 名 総定員 248 名</p> <p>建築・環境デザイン学科 入学定員 52 名 総定員 208 名</p> <p>グラフィックデザイン学科 入学定員 68 名 総定員 272 名</p> <p>映像学科 入学定員 62 名 総定員 248 名</p> <p>企画構想学科 入学定員 50 名 総定員 200 名</p> <p>コミュニティデザイン学科 30 名 総定員 120 名</p>

東北芸術工科大学学則

第1章 総則

第1節 目的等

[目的]

第1条 本学は、教育基本法に則り、学術文化の中心として広く知識を授けるとともに、深く芸術学、デザイン工学に関する専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させて、「術」と「学」の一体化による「もの」を形作ることを喜びとする人材を育成し、学術文化の向上及び産業の振興に貢献することを目的とする。

[自己点検等]

第1条の2 本学は、教育研究水準の向上を図り、大学の目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動等の状況について点検及び評価を行う。これについては別に定める。

[学部の目的]

第1条の3 本学学部の教育研究上の目的は、次の通りとする。

- 1 芸術学部は、確かな造形哲学とそこから生まれる表現や文化的創造の時代や社会への関わりを観察する力、また個人の感性を育て、その観察力と感性によって他者との新たな接点を開拓し、芸術的創造によって社会に貢献できる人材の育成を目的とする。
- 2 デザイン工学部は、現代の人々の生活環境のあるべき姿を芸術の感性と工学の理性を融合する創造的思考によって考究し形作る人間の育成を教育の基本目的とし、創造的活動を通して社会に貢献する人材の育成を目的とする。

第2節 組織

[学部及び学生定員]

第2条 本学において設置する学部及び学科並びにその学生定員は、次の通りとする。

芸術学部

文化財保存修復学科 入学定員 26 人 総定員 104 人

歴史遺産学科 入学定員 32 人 総定員 128 人

美術科 入学定員 124 人 総定員 496 人

工芸デザイン学科 入学定員 45 名 総定員 180 名

文芸学科 入学定員 42 人 総定員 168 人

デザイン工学部

プロダクトデザイン学科 入学定員 62 人 総定員 248 人

建築・環境デザイン学科 入学定員 52 人 総定員 208 人

グラフィックデザイン学科 入学定員 68 人 総定員 272 人

映像学科 入学定員 62 人 総定員 248 人

企画構想学科 入学定員 50 人 総定員 200 人

コミュニティデザイン学科 入学定員 30 人 総定員 120 人

[大学院]

第3条 本学に、大学院を置く。

2 大学院に関し必要な事項は別に定める。

[図書館]

第4条 本学に、図書館を置く。

2 図書館に関し必要な事項は別に定める。

第3節 教職員組織

[教職員組織]

第5条 本学に、学長、学部長、図書館長、事務局長その他必要な教職員を置くことができる。

第4節 教授会

[教授会]

第6条 本学に、重要な事項を審議するため教授会を置く。

[教授会の構成]

第7条 教授会は、学長、教授、准教授、専任講師、助教その他学長が必要と認める者をもって組織する。

[教授会の招集等]

第8条 学長は、教授会を招集し、その議長となる。ただし、学長に事故あるときは、あらかじめ学長が指名した教授が議長となる。

2 学長は、教授会の構成員の3分の1以上から付議すべき事項を示し要求があった場合には、要求のあった日から10日以内に教授会を招集しなければならない。

[教授会の開催]

第9条 教授会は、構成員の2分の1以上の出席がなければ開催することができない。

[審議事項]

第10条 教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

(1) 学生の入学、卒業及び課程の修了

(2) 学位の授与

(3) 前二号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの

2 教授会は、前項に規定するもののほか、学長及び学部長がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ意見を述べることができる。

[運営細則への委任]

第11条 その他教授会の運営に関し、必要とする事項については別に定める。

第5節 学年、学期及び休業日

[学年]

第12条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

[授業期間]

第13条 学年中の授業期間は、35週にわたることを原則とする。

[学期]

第14条 学年は前期及び後期に分けて、各学期の期間は学年暦で別に定める。

[休業日]

第15条 休業日は、次の通りとする。

(1) 日曜日及び国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日

(2) 春季、夏季、及び冬季の休業期間は学年暦で別に定める。

2 前項の規定にかかわらず、学長は、臨時に休業日を設け、又は休業日を変更することができる。

第2章 学部通則

第1節 修業年限及び在学年限

[修業年限]

第16条 本学の修業年限は、4年とする。

[在学年限]

第17条 学生は、8年を超えて在学することはできない。ただし、第25条第1項の規定により入学した者は、同条第2項の規定により定められた在学すべき年数の2倍に相当する年数を超えて在学することができない。

2 留学期間は、在学期間に算入する。第

2 節 入学、再入学、編入学、転入学

[入学の時期]

第 18 条 入学の時期は、毎学年の始めとする。ただし、編入学、転入学及び再入学の場合は、10 月とすることがある。

[入学資格]

第 19 条 本学に入学することのできる者は、次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 高等学校又は中等教育学校を卒業した者
- (2) 通常の課程による 12 年の学校教育を修了した者又は通常の課程以外の課程により、これに相当する学校教育を修了した者
- (3) 外国において、学校教育における 12 年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
- (4) 文部科学大臣が高等学校の課程に相当する課程を有するものとして指定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- (5) 文部科学大臣の指定した者
- (6) 高等学校卒業程度認定試験規則により文部科学大臣の行う高等学校卒業程度認定試験に合格した者（旧課程による大学入学資格検定に合格したものを含む）
- (7) その他本学において、相当の年齢に達し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者

[入学志願の手続]

第 20 条 本学に入学を志願する者は、本学所定の書類等に所定の入学検定料を添えて、本学が指定する期日までに、学長に提出しなければならない。

[入学志願者の選考]

第 21 条 前条の入学志願者については、別に定めるところにより選考を行う。

[入学手続及び入学許可]

第 22 条 前条の選考の結果に基づき合格の通知を受けた者は、本学の指定する期日までに、誓約書、身元保証書の提出その他所定の手続きを行わなければならない。

2 学長は、前項の入学の手続きを完了した者に入学を許可する。

[保証人]

第 23 条 前条に規定する身元保証書の保証人は、入学を許可された者に関し一切の責任を負うことのできる保護者でなければならない。

2 保証人を変更したとき、又は保証人が転居したときは直ちに届出なければならない。

[再入学]

第 24 条 学則第 45 条の規定により本学を退学した者又は第 46 条の規定（第 1 号を除く）による除籍者が再入学を希望するときは、選考のうえ入学を許可することがある。

2 前項の規定による入学は、退学又は除籍時の所属学科等への入学のみとする。

3 再入学を許可された者の既に履修した授業科目及び単位数の取り扱い並びに在学すべき年数及び学年については、教授会の議を経て学長が決定する。なお、在学すべき年数は、退学又は除籍前の在学年数を算入して、学則第 17 条で規定する 8 年を超えることはできない。

4 再入学の場合の入学検定料及びその他必要な手続きは、別に定める。

[編入学、転入学]

第 25 条 次の各号のいずれかに該当する者で、本学に編入学又は転入学を希望するものがあるときは、欠員のある場合に限り選考のうえ入学を許可することがある。

- (1) 学士の称号を有する者
- (2) 他の大学に在学中の者又は在学したことのある者
- (3) 短期大学若しくは高等専門学校を卒業した者又は教員養成学部 2 年制課程を修了した者

(4) 修業年限が2年以上でかつその他文部科学大臣の定める基準を満たす専修学校の専門課程を修了した者。

(5) 学校教育法施行規則（昭和22年文部省令11号）第92条の3に定める従前の規定による学校の課程を修了し、又は卒業した者。

2 前項の規定により入学を許可された者の既に履修した授業科目及び単位数の取り扱い並びに在学すべき年数については、教授会の議を経て、学長が決定する。

3 編入学、転入学の場合の入学検定料及びその他の必要な手続きは、別に定める。

第3節 教育課程及び履修方法

[授業科目]

第26条 開設する授業科目及びその単位数は別表1の通りとする（別表第1省略）。

2 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技又はこれらの併用により行うものとする。

3 前項の授業は、文部科学大臣が定めるところにより、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

4 第2項の授業の一部を、本学の教室等以外の場所で行うことができる。

5 各授業科目の授業は、15週にわたる期間を単位として行う。ただし、必要と認められる場合は、この期間より短い特定の期間において授業を行うことができる。

6 前5項に定めるもののほか、授業の方法に関し必要な事項は、別に定める。

[教育職員免許取得及び学芸員資格取得のために必要な授業科目]

第27条 前条に定めるもののほか、教育職員免許及び学芸員資格並びに社会教育主事資格の取得のために必要な授業科目、単位数及び履修方法は、別表第2及び第2の2並びに第2の3の通りとする。

[履修の方法]

第28条 本学において開設する授業科目の履修の方法については、本学則に定めるもののほか、別に定める。

[履修の上限]

第29条 学生が各学年にわたり適切に授業科目を履修するため、卒業要件として学生が履修すべき単位数について、1学期に履修科目として登録することができる単位数の上限を定めることができる。

2 履修登録単位数の上限については、別に定める。

[履修すべき科目の登録]

第30条 学生は、毎学年の各期の当初に、当該学期において履修すべき授業科目を登録しなければならない。

2 学生は、前項により登録した授業科目以外の授業科目を履修し、また単位を取得することはできない。

[単位取得の認定]

第31条 授業科目を履修した者に対しては、試験の上単位を与えるものとする。

[入学前の既修得単位の認定]

第32条 学生の入学前の次の各号の学修について教育上有益と認めるときは、本学の授業科目の履修において修得した単位として認定することができる。

(1) 大学又は短期大学における学修

(2) 高等専門学校の専攻科における学修

(3) 文部科学大臣が別に定める学修

(4) 外国の大学又は短期大学における学修

2 前項において認定の対象となる授業科目は、前項各号で修得したすべての授業科目とする。

3 前2項により認定することができる単位数は、編入学及び転入学等の場合を除き合わせて60単位を超えないものとする。

[他大学における単位修得認定]

第 33 条 本学との協定による他の大学又は短期大学において、特定の授業科目を履修しようとする者は、許可を得なければならない。

2 前項の規定により修得した単位は、60 単位を超えない範囲で本学の単位として認定することができる。

3 前 2 項の規定は、学生が外国の大学又は短期大学に留学する場合に準用する。

4 学生が休学期間中に第 2 項の規定により修得した単位を、本学の単位として認定することができる。

[試験の時期]

第 34 条 試験の時期は、学年末又は学期末とする。ただし、必要があると認めるときは、その他の時期においても行うことができる。

[学習の評価]

第 35 条 試験等の評価は、A、B、C、D、F をもって表示し、D 以上を合格とする。合否判定科目については、P または F をもって表示し、P を合格とする。

2 成績評価の判定基準等については、別に定める。

[単位の計算方法]

第 36 条 各授業科目の単位数は、1 単位の授業科目を 45 時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、次の基準により計算する。

(1) 講義及び演習については、15 時間から 30 時間までに範囲で大学が定める時間の授業をもって 1 単位とする。

(2) 実験、実習又は実技については、30 時間から 45 時間までの範囲で大学が定める時間の授業をもって 1 単位とする。

2 前項の規定にかかわらず、卒業研究、卒業制作等の授業科目については、それぞれ 6 及び 8 単位とする。

[卒業に必要な単位]

第 37 条 各学科の卒業に必要な単位は、124 単位とする。

[教育職員の免許状]

第 38 条 教育職員の免許状を受けようとする者は、教育職員免許取得のために必要な単位を修得しなければならない。

2 教育職員の免許状を受けようとする者の学部及び学科は、別表第 2 の 4 の通りとする（別表第 2 省略）。

[学芸員の資格]

第 39 条 学芸員の資格を取得しようとする者は、学芸員資格取得のために必要な単位を修得しなければならない。

2 学芸員の資格を取得しようとする者の学部及び学科は、別表第 2 の 5 の通りとする（別表第 2 省略）。

[社会教育主事の資格]

第 40 条 社会教育主事の資格を取得しようとする者は、社会教育主事資格取得のために必要な単位を修得しなければならない。

2 社会教育主事の資格を修得しようとする者の学部及び学科は、別表 2 の 6 の通りとする。

第 4 節 休学、転学、留学、退学及び除籍

[休学]

第 41 条 疾病その他やむを得ない事情により修学することのできない者は、保証人連署のうえ、学長に休学を願い出、その許可を得なければならない。

2 前項の休学のうち疾病による場合は、医師の診断書を添付しなければならない。

3 学長は、第 1 項の規定にかかわらず、修学が不相当と認められる者に対し、休学を命ずることができる。

4 1 回の休学期間は、6 か月間又は 1 年間とし、開始時期は、前期または後期の始めとする。ただし、原則として入学後最初の学期は休学することができない。

5 休学の期間は 1 年を超えることはできない。ただし、特別の理由があると認められた者にあつては引き続きさらに 1 年まで延長することができる。

6 休学期間は、通算して 4 年を超えることができない。

7 休学の期間は在学年数に通算しない。

[復学]

第 42 条 休学期間満了のとき又は休学期間であってもその事由が消滅したときは、学長の許可を得て復学することができる。

2 学期内の復学の期間は、在学年数に通算しない。

3 修業年限を超過して在籍している学生が、休学期間中に本学との協定による他の大学又は短期大学において修得した単位を、本学の単位として認定され卒業要件を満たした場合は、単位認定時の月末をもって休学事由が消滅したものとみなす。

[転学]

第 43 条 他の大学に転学を希望する者は、保証人の署名捺印のうえ、学長に願い出、その許可を得なければならない。

[留学]

第 44 条 本学との協定又は教授会の認定による外国の大学又は短期大学に留学しようとする者は、学長に願い出、その許可を得なければならない。

[退学]

第 45 条 退学しようとする者は、その事由を詳記し、保証人の署名捺印のうえ、学長に願い出、その許可を得なければならない。

2 学長は、所定の成績評価を得られない者又は著しく学業を怠り成業の見込みがないと認められる者に対し、退学を勧告することができる。

[除籍]

第 46 条 次の各号の一に該当する者は、教授会の議を経て、学長が除籍する。

- (1) 第 17 条に規定する在学年数を超えた者
- (2) 病気その他の理由で成業の見込みがない者
- (3) 催告を受けたにもかかわらず授業料を納入しない者
- (4) 正当な理由なく履修登録をしない者

第 5 節 卒業及び学位授与

[卒業]

第 47 条 本学に 4 年（第 25 条第 1 項により入学した者については、同条第 2 項により定められた在学すべき年数）以上在学し、第 37 条に定める単位を修得した者については、教授会の議を経て、学長が卒業を認定する。

2 第 1 項の規定による卒業に必要な単位数のうち、第 26 条の第 3 項および第 4 項に規定する授業の方法により修得した単位数は、60 単位を超えないものとする。

[学位授与]

第 48 条 本学は、卒業した者に学士の学位を授与する。

2 本学において授与する学位の名称は次のとおりとする。

学部	学位
芸術学部	学士（芸術）
デザイン工学部	学士（デザイン工学）

第 6 節 賞罰

[表彰]

第 49 条 学生として表彰すべき行為があったときは、学長は、教授会の議を経てその者を表彰する。

[罰則]

第 50 条 本学の学則に違反し、又は本学の学生としてあるまじき行為があったときは、学長は教授会の議を経てその者を懲戒する。

2 前項の懲戒は退学、停学及び訓告とする。

3 前項の退学は、次の各号の一に該当する学生に対して行う。

- (1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者
- (2) 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者
- (3) 正当の理由なくして出席常でない者
- (4) 本学の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

第7節 福利厚生施設

[福利厚生施設]

第51条 本学に、福利厚生のための施設を置くことができる。

2 前項の施設に関し必要な事項は別に定める。

第8節 研究生、科目等履修生、聴講生及び外国人留学生

[研究生]

第52条 本学に研究生を置くことができる。

2 研究生について必要な事項は、別に定める。

[科目等履修生]

第53条 本学において開設する授業科目のうち、1科目または数科目を選んで受講を希望するものがあるときは、当該科目の授業に支障がない限りにおいて、選考のうえ科目等履修生として入学を許可することがある。

2 科目等履修生で当該科目の試験に合格した者には単位が与えられ、希望者には当該科目の科目修得証明書を交付する。

3 科目等履修生について必要な事項は、別に定める。

[聴講生]

第54条 本学において開設する授業科目のうち、1科目または数科目を選んで聴講を希望するものがあるときは、当該科目の授業に支障がない限りにおいて、選考のうえ聴講生として入学を許可することがある。

2 聴講生について必要な事項は、別に定める。

[外国人留学生]

第55条 外国人で本学において教育を受ける目的をもって入国し、本学に入学を希望する者があるときは、選考の上、外国人留学生として入学を許可する。

2 外国人留学生について必要な事項は、別に定める。

第9節 入学検定料、入学金、授業料

[入学検定料、入学金、授業料]

第56条 入学検定料、入学金及び授業料の額は、別表第3の通りとする（別表第3省略）。

2 本学において対象と認めた者について、検定料の一部を減免することができる。

3 入学金は、第22条第1項に規定する合格通知に際し指定する期日までに納付しなければならない。

4 授業料は、毎年これを前期、後期の2回に分けて次の期間に納入しなければならない。

前期 4月1日から4月20日まで

後期 9月1日から9月20日まで

[入学金又は授業料の免除、徴収の猶予又は分納]

第57条 本学において特別の事情があると認めた者については、入学金又は授業料の全部又は一部を免除し、徴収を猶予し、又は分納を許可することがある。

[退学時等の場合の授業料]

第58条 退学した者、転学した者又は除籍された者は、当該期の授業料を全額納入しなければならない。

2 協定大学への留学又は停学の場合は、その期間中の授業料は納付しなければならない。

[休学の場合の授業料の取扱い]

第59条 休学した者の休学期間中の授業料は全額免除する。但し、当該休学期間中は、本来納入すべき授業料の1/5を在籍料として

納入しなければならない。

[入学検定料、入学金及び授業料の不還付]

第60条 既納の入学検定料、入学金及び授業料は、前条に定める場合を除き、還付しない。

第10節 公開講座

[公開講座の開設]

第61条 本学において必要があると認められるときは、公開講座を設けることがある。

2 公開講座に関し必要事項は、別に定める。

附 則

この学則は、平成4年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成4年10月13日から施行し、平成5年4月1日から適用する。

附 則

この学則は、平成6年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成7年4月1日から施行する。

附 則

1 この学則は、平成7年9月28日から施行し、平成8年4月1日から適用する。

2 改正後の別表第3の規定にかかわらず、平成7年度以前の入学者にかかる授業料は、次の表の通りとする（別表省略）。

附 則

1 この学則は、平成8年4月1日から施行する。

2 平成4年4月1日の入学者のうち、卒業研究又は卒業制作の授業科目を平成7年度に履修した者については、改正後の学則の第25条、第34条及び第35条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

3 平成4年4月1日の入学者のうち第2項以外の者及び平成5年4月1日から平成7年4月1日までの入学者（以下、「平成7年度以前の入学者」という。）が、平成8年3月31日まで修得した単位は、別に定めるところにより改正後の学則において修得した単位とする。

4 平成7年度以前の入学者については、改正後の学則の第25条、第34条及び第35条の規定にかかわらず、第25条の履修方法及び第35条については第1表に、第25条の単位数及び第34条については従前の例によるものとする。

5 平成4年4月1日から平成7年4月1日までの入学者（以下、「平成7年度以前の全入学者」という。）が教育職員免許状取得及び学芸員資格取得のために平成8年3月31日までに修得した単位（以下、「平成7年度以前の教職等単位」という。）は、改正後の学則において修得した単位とし、授業科目名、単位数及び科目区分は平成7年度以前の教職等単位と同じものとする。また、平成7年度以前の全入学者の単位数及び履修方法については、改正後の学則の第26条の規定にかかわらず、従前の例による。

6 平成7年度以前の全入学者の経過措置については、この附則に定めるもののほか、学長が別に定める。

附 則

1 この学則は、平成9年4月1日から施行する。

(別表第1の経過措置)

2 この学則による改正後の別表第1は、平成9年4月1日以降の入学生から適用し、平成8年4月1日以前の入学生については従前の例による。

3 前項の規定にかかわらず、この学則による改正後の別表第1芸術学科授業科目の博物館資料論、博物館概論及び博物館学各論並びに教養科目については、平成8年4月1日以前の入学生にも適用する。ただし、博物館概論は博物館学Ⅰの、博物館学各論は博物館学Ⅱの単位を修得した者については、この限りではない。

(別表第2の2の経過措置)

4 この学則の施行の日前に、改正前の別表第2学芸員資格取得のために必要な授業科目、単位数及び履修方法の博物館に関する科目

の項に掲げる科目（以下「旧科目」という。）の単位の全部を修得した者は、改正後の別表第2の2博物館に関する科目の項に掲げる科目（以下「新科目」という。）の単位の全部を修得したものとみなす。

5 この学則の施行の日前に、次の表の左欄に掲げる旧科目を修得した者は、右欄に掲げる新科目を修得したものとみなす（別表省略）。

6 この学則の施行の日前に、この学則による改正前の別表第2学芸員資格取得のために必要な授業科目、単位数及び履修方法において修得した油彩画修復概論の単位は、改正後の別表第2の2において修得した関連科目の単位とみなす。

（平成4年4月入学者の履修方法の経過措置）

7 平成4年4月1日入学者のうち、卒業研究又は卒業制作の授業科目を平成7年度に履修した者については、改正後の学則の第25条、第34条及び第35条の規定にかかわらず、第25条の履修方法及び第35条については第1表により、第25条の単位及び第34条については従前の例によるものとする。

附 則

1 この学則は、平成9年9月30日から施行し、平成10年4月1日から適用する。

2 改正後の別表第3の規定にかかわらず、平成9年度以前の入学者にかかる授業料は、次の表の通りとする（別表省略）。

附 則

1 この学則は、平成11年4月1日から施行する。

2 平成7年度以前の芸術学科の入学者については、改正後の学則の別表第1の規定にかかわらず、従前の例による。

3 平成8年4月1日から平成10年4月1日までの芸術学科の入学者が、平成10年3月31日までに修得した単位は、別に定めるところにより改正後の学則において修得した単位とする。

4 平成10年度以前の全入学者の経過措置については、この附則に定めるもののほか、学長が別に定める。

附 則

1 この学則は、平成11年4月1日から施行する。

2 学則第26条別表第2に定める教育職員免許取得のための履修方法等は、平成11年4月1日からの入学者に適用することとし、適用日前の入学者に対しては従前の規定によることとする。

附 則

1 この学則は、平成12年4月1日から施行する。

2 平成11年度以前の全入学者の経過措置については、学長が別に定める。

附 則

1 この学則は、平成13年4月1日から施行する。但し、平成12年度以前の入学生については、従前の定めによるものとする。

2 前項の規定にかかわらず、改正前の学則（以下「旧学則」という。）別表に規定する授業科目の内容が改正後の学則（以下「新学則」という。）別表に規定する授業科目の内容と同一のとき、又はそれに代わるものと認められるとき、その他相当の理由があると認められるときは、新学則別表に規定する授業科目の履修により、旧学則別表に規定する授業科目の履修とみなす。この場合における授業科目の履修方法については、学長が別に定める。

附 則

1 この学則は、平成14年4月1日から施行する。但し、平成13年度以前の入学生については、従前の定めによるものとする。

2 前項の規定にかかわらず、改正前の学則（以下「旧学則」という。）別表に規定する授業科目の内容が改正後の学則（以下「新学則」という。）別表に規定する授業科目の内容と同一のとき、又はそれに代わるものと認められるとき、その他相当の理由があると認められるときは、新学則別表に規定する授業科目の履修により、旧学則別表に規定する授業科目の履修とみなす。この場合における授業科目の履修方法については、学長が別に定める。

附 則

1 この学則は、平成15年4月1日から施行する。但し、平成14年度以前の入学生については、従前の定めによるものとする。

2 前項の規定にかかわらず、改正前の学則（以下「旧学則」という。）別表に規定する授業科目の内容が改正後の学則（以下「新

学則」という。)別表に規定する授業科目の内容と同一のとき、又はそれに代わるものと認められるとき、その他相当の理由があると認められるときは、新学則別表に規定する授業科目の履修により、旧学則別表に規定する授業科目の履修とみなす。この場合における授業科目の履修方法については、学長が別に定める。

附 則

- 1 この学則は、平成16年4月1日から施行する。但し、平成15年度以前の入学生については、従前の定めによるものとする。
- 2 前項の規定にかかわらず、改正前の学則(以下「旧学則」という。)別表に規定する授業科目の内容が改正後の学則(以下「新学則」という。)別表に規定する授業科目の内容と同一のとき、又はそれに代わるものと認められるとき、その他相当の理由があると認められるときは、新学則別表に規定する授業科目の履修により、旧学則別表に規定する授業科目の履修とみなす。この場合における授業科目の履修方法については、学長が別に定める。

附 則

- 1 この学則は、平成17年4月1日から施行する。但し、平成16年度以前の入学生については、従前の定めによるものとする。
- 2 前項の規定にかかわらず、改正前の学則(以下「旧学則」という。)別表に規定する授業科目の内容が改正後の学則(以下「新学則」という。)別表に規定する授業科目の内容と同一のとき、又はそれに代わるものと認められるとき、その他相当の理由があると認められるときは、新学則別表に規定する授業科目の履修により、旧学則別表に規定する授業科目の履修とみなす。この場合における授業科目の履修方法については、学長が別に定める。
- 3 改正後の別表第3の規定にかかわらず、平成16年度以前の入学者にかかる授業料は、次の表の通りとする(別表省略)。

附 則

- 1 この学則は、平成18年4月1日から施行する。但し、平成17年度以前の入学生については、従前の定めによるものとする。
- 2 この学則施行の際、デザイン工学部生産デザイン学科及び環境デザイン学科は、平成18年3月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。
- 3 第1項の規定にかかわらず、改正前の学則(以下「旧学則」という。)別表に規定する授業科目の内容が改正後の学則(以下「新学則」という。)別表に規定する授業科目の内容と同一のとき、又はそれに代わるものと認められるとき、その他相当の理由があると認められるときは、新学則別表に規定する授業科目の履修により、旧学則別表に規定する授業科目の履修とみなす。この場合における授業科目の履修方法については、学長が別に定める。

附 則

この学則は、平成19年4月1日から施行する

附 則

- 1 この学則は、平成21年4月1日から施行する。但し、平成20年度以前の入学生については、従前の定めによるものとする。
- 2 この学則施行の際、デザイン工学部情報デザイン学科及びメディア・コンテンツデザイン学科は、平成21年3月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。
- 3 第1項の規定にかかわらず、改正前の学則(以下「旧学則」という。)別表に規定する授業科目の内容が改正後の学則(以下「新学則」という。)別表に規定する授業科目の内容と同一のとき、又はそれに代わるものと認められるとき、その他相当の理由があると認められるときは、新学則別表に規定する授業科目の履修により、旧学則別表に規定する授業科目の履修とみなす。この場合における授業科目の履修方法については、学長が別に定める。

附 則

この学則は、平成21年4月1日から施行する。但し、第25条、第34条、及び第35条に関しては、平成20年度以前の入学生については、従前の定めによるものとする。

附 則

平成22年6月23日から施行する。第54条別表第3に関しては、平成22年度以前の入学生については、従前の定めによるものとする。

附 則

この学則は、平成24年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成25年4月1日から施行する。第54条別表3に関しては、平成24年度以前の入学生については、従前の定めによるものとする。

附 則

この学則は、平成26年4月1日から施行する。第54条別表3に関しては、平成25年度以前の入学生については、従前の定めによるものとする。

附 則

この学則は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成28年4月1日から施行する。第54条別表3に関しては、平成27年度以前の入学生については、従前の定めによるものとする。

附 則

この学則は、平成30年4月1日から施行する。

附則

この学則は、平成31年4月1日から施行する。

附則

この学則は、令和2年1月1日から施行する。

附則

この学則は、令和2年4月1日から施行する。

附則

この学則は、令和3年4月1日から施行する。

附則

この学則は、令和4年4月1日から施行する。

附則

この学則は、令和4年4月20日から施行する。

附則

この学則は、令和5年4月1日から施行する。

(別表第1)

履修区分		科目名		単位		
全学共通科目	理念科目	芸術平和学		2		
		美術史		2		
	自然・社会と芸術	社会系	選択必修	デザイン史	2	
				色彩学	2	
				芸術と心理	2	
				社会と政治	2	
				倫理と哲学	2	
		自然系		選択必修	グローバル社会論	2
					知的所有権	2
					日本国憲法	2
					科学技術と未来	2
					地球環境論	2
	生物と自然	2				
	環境と心理	2				
	健康科学論	2				
	生活の中の経済学	2				
	アート・デザインのための数理	2				
	実践統計学	2				
	地域社会と環境	2				
	地域の文脈	選択必修	東北文化論	2		
			文化遺産マネジメント論	2		
			まちづくり論	2		
			サステイナブルコミュニティ	2		
			クリエイティブ経済論	2		
			地域ブランド論	2		
			地域ツーリズム論	2		
	都市空間デザイン	2				
	言語と表現	日本語	選択必修	日本語表現(初級)	2	
				日本語表現(中級)	2	
				日本語表現(上級)	2	
		英語	選択必修	初級英語	2	
				中級英語	2	
				上級英語	2	
		留学必修	選択必修	日本語1	2	
				日本語2	2	
				実践英語(TOEIC)	1	
				実践英語(English Academic Skill)	1	
	社会リテラシー	汎用力基礎	選択必修	実践英語(Speaking/Writing)	1	
				実践英語(Listening/Reading)	1	
				外国語特別講座	2	
				体育運動学演習	1	
				デッサン入門	1	
想像力基礎ゼミナール				2		
コンピュータ基礎演習				2		
ビジネススキル	選択必修	デジタル表現演習	1			
		デザイン思考	1			
		情報リテラシー	1			
		セルフプロデュース演習	1			
キャリアデザイン	選択必修	地域プロジェクト演習A	1			
		地域プロジェクト演習B	1			
		地域プロジェクト演習C	1			
		地域プロジェクト演習D	1			
		クリエイターのための経営学	2			
		起業会計の基礎	1			
		実践PCスキル	1			
		必修	キャリア形成論	2		
		仕事講座A	1			
		仕事講座B	1			
公務員講座	1					
公務員教養	1					
インターンシップA	1					
インターンシップB	1					
キャリア設計論1	1					
キャリア設計論2	1					
自己表現講座	1					
存文 野 修化 復財 分保	選択必修	文化財保護法	2			
		文化財保存修復入門	2			
		保存科学概論	2			
		古典彫刻論	2			
		歴史遺産学総論	2			

全学共通専門科目	歴史遺産分野	日本史概論	2
		東洋史概論	2
		西洋史概論	2
		考古学概論	2
		民俗・人類学概論	2
		地理学概論	2
		世界遺産総論	2
		社会文化環境論	2
		アジア文化論	2
	美術分野	日本美術史	2
		西洋美術史	2
		東洋美術史	2
		現代美術史	2
		美学	2
		版画史	2
	先端的コンテンツとアートシーン	2	
	分工分野芸	工芸デザイン入門	2
		工芸デザイン論	2
	文芸分野	文芸論 3	2
		文芸論 5	2
		文芸論 6	2
		アニメーション史	2
		コンテンツ文化史	2
		ゲームデザイン構築	2
	トポグラフィ	プロダクトデザイン入門	2
		インテリアデザイン論 1	2
		応用人間工学	2
		インタフェースデザイン論	2
	建築・環境デザイン分野	日本建築史	2
		西洋建築史	2
		風土形成論	2
		風景の計画	2
		インテリア設計論	2
		建築と歴史と自然	2
	グラフィック分野	生活とグラフィックデザイン	2
		コミュニケーションデザイン	2
		文字とグラフィックデザイン	2
		メディア表現とグラフィックデザイン	2
		世界のクリエイティブ100年	2
	映像分野	映像文化史	2
		メディア文化史	2
		映像プランニング概論	2
		映像コミュニケーション概論	2
企画構想分野	広告ビジネス入門	2	
	インターネットビジネス入門	2	
	コピーライティング入門	2	
	データデザイン入門	2	
	ブランド・マーケティング入門	2	
	ベンチャービジネス入門	2	
文化財保存修復学科	必修科目	芸術鑑賞の喜び	2
		文化財保存修復入門	2
		保存科学概論	2
		古典彫刻論	2
		日本美術史	2
		西洋美術史	2
		東洋絵画修復論	2
		西洋絵画修復論	2
		東洋絵画修復演習	2
		西洋絵画修復演習	2
		絵画・立体基礎演習 1	2
		絵画・立体基礎演習 2	2
		立体修復・技法演習 1	2
		立体修復・技法演習 2	2
		保存修復調査演習 1	2
		保存修復調査演習 2	2
		保存修復応用演習 1	4
		保存修復応用演習 2	4
		保存科学演習	2
		キャリア課題研究	2
		専門調査演習	2
		専門応用演習	2
		卒業研究（文化財保存修復）	6

	選 択 科 目	文化財保護法	2
		文化財基礎物理学	2
		文化財基礎化学	2
		文化財有機化学	2
		埋蔵文化財保存学	2
		日本近世近代美術史	2
		現代美術史	2
		東洋美術史	2
		美学	2
		文化財機器分析法	2
		文化財環境・材質特講	2
		保存修復技法特講	2
		日本美術史特講	2
		西洋美術史特講	2
		歴史遺産学科	必 修 科 目
歴史遺産学総論	2		
日本史概論	2		
考古学概論	2		
民俗・人類学概論	2		
歴史遺産基礎演習 1	2		
歴史遺産基礎演習 2	2		
歴史遺産基礎演習 3	2		
歴史遺産基礎演習 4	2		
フィールドワーク 1	2		
フィールドワーク 2	2		
フィールドワーク 3	2		
現代社会解剖学 1	2		
現代社会解剖学 2	2		
歴史遺産文献講読 1	2		
歴史遺産文献講読 2	2		
歴史遺産調査演習A	2		
歴史遺産調査演習B	2		
歴史遺産研究	2		
卒業研究 (歴史遺産)	6		
選 択 必 修 科 目	考古学応用演習 1		2
	歴史学応用演習 1		2
	民俗・人類学応用演習 1		2
	考古学応用演習 2		2
	歴史学応用演習 2		2
民俗・人類学応用演習 2	2		
選 択 科 目	世界遺産総論		2
	東洋史概論		2
	西洋史概論		2
	地理学概論		2
	地誌	2	
	社会文化環境論	2	
	アジア文化論	2	
	社会学	2	
	民俗・人類学特講	2	
	考古学特講	2	
	歴史学特講	2	
	生涯学習概論	2	
	社会教育概論	2	
	コミュニティ論	2	
	社会教育実習	2	
	社会教育経営論 1	2	
	社会教育経営論 2	2	
生涯学習支援論 1	2		
生涯学習支援論 2	2		
全 コ ー ス	芸術鑑賞の喜び	2	
	美術基礎演習 (平面)	2	
	美術基礎演習 (立体)	2	
	美術と実践力 1	2	
	美術と実践力 2	2	
	ポートフォリオ研究	1	
	ポートフォリオ作成	1	
	日	日本画考 1	2
		日本画考 2	2
		日本画基礎演習 1	2
		日本画基礎演習 2	3
		日本画基礎演習 3	3
	素材学 (日本画)	2	

美術科	必修	本画コース	日本画演習 1	4
			日本画演習 2	3
			日本画演習 3	3
			日本画演習 4	3
			日本画演習 5	3
			日本画演習 6	3
			日本画演習 7	3
			日本画演習 8	2
			卒業制作 (日本画)	8
		洋画コース	洋画入門	2
			洋画概論	2
			洋画基礎演習 1	2
			洋画基礎演習 2	3
			洋画基礎演習 3	3
			洋画演習 1	4
			洋画演習 2	3
			洋画演習 3	3
			洋画演習 4	3
			洋画演習 5	3
			洋画演習 6	3
			洋画演習 7	3
			洋画演習 8	2
		卒業制作 (洋画)	8	
		版画コース	版画入門	2
			洋画概論	2
			素材学 (版画)	2
			洋画基礎演習 1	2
			洋画基礎演習 2	3
			洋画基礎演習 3	3
			版画演習 1	4
			版画演習 2	3
			版画演習 3	3
			版画演習 4	3
			版画演習 5	3
			版画演習 6	3
			版画演習 7	3
		版画演習 8	2	
		卒業制作 (版画)	8	
		彫刻コース	彫刻作法	2
			彫刻基礎演習 1	2
			彫刻基礎演習 2	3
			彫刻基礎演習 3	3
			彫刻演習 1	4
			彫刻演習 2	3
彫刻演習 3	3			
彫刻演習 4	3			
彫刻演習 5	3			
彫刻演習 6	3			
彫刻演習 7	3			
彫刻演習 8	2			
卒業制作 (彫刻)	8			
総合美術コース	生涯学習概論	2		
	社会教育概論	2		
	総合美術基礎演習 1	2		
	総合美術基礎演習 2	3		
	総合美術基礎演習 3	3		
	社会教育経営論 1	2		
	社会教育経営論 2	2		
	総合美術演習 1	4		
	総合美術演習 2	4		
	総合美術演習 3	2		
	生涯学習支援論 1	2		
	生涯学習支援論 2	2		
	社会教育演習	2		
	社会教育実習	2		
	社会教育実践演習 1	4		
	社会教育実践演習 2	4		
	卒業研究 (総合美術)	6		
	選択必	美術科共通演習 (絵画A)	2	
美術科共通演習 (工芸A)		2		
美術科共通演習 (総合A)		2		
美術科共通演習 (絵画B)		2		

	修 科 目	美術科共通演習（工芸B）	2	
		美術科共通演習（総合B）	2	
		アーティストマネジメント	2	
		キャリアマネジメント	2	
	選 択 科 目	芸術思考論	2	
		版画史	2	
		素材学（日本画）	2	
		素材学（洋画）	2	
		素材学（版画）	2	
		素材学（彫刻）	2	
		先端的コンテンツとアートシーン	2	
	美術の見方	2		
	工 芸 デ ザ イ ン 学 科	必 修 科 目	工芸デザイン入門	2
			プロダクトデザイン入門	2
			工芸デザイン論	2
			インテリアデザイン論1	2
			近現代美術史	2
伝達方法論			2	
応用人間工学			2	
造形基礎演習			4	
表現基礎演習			4	
工芸素材基礎演習 1			4	
工芸素材基礎演習 2			4	
デザインコンピュータ演習1			4	
工芸素材基礎演習 3			4	
工芸素材基礎演習 4			4	
デザインコンピュータ演習2			4	
工芸デザイン基礎演習 1			4	
工芸デザイン基礎演習 2			4	
ポर्टフォリオ実習			4	
工芸デザイン応用演習 1			4	
工芸デザイン応用演習 2			4	
工芸デザイン実習1		2		
工芸デザイン実習2		2		
工芸デザイン研究制作		2		
卒業制作（工芸デザイン）		8		
選 択 科 目		東北工芸・産業論	2	
		プロフェッショナルスキル1	2	
		プロフェッショナルスキル2	2	
		東北工芸実践	2	
文 芸 学 科		必 修 科 目	芸術鑑賞の喜び	2
			創作概論	2
			編集概論	2
			作品読解 1	2
			作品読解 2	2
	日本語表現基礎 1		2	
	日本語表現基礎 2		2	
	日本語表現 1		2	
	日本語表現 2		2	
	原文講読 1		1	
	原文講読 2		1	
	創作演習 1		2	
	創作演習 2		2	
	創作演習 3		2	
	創作演習 4		2	
	社会研究		1	
	セルフポートレート研究		1	
	クリエイティブ演習 1		2	
	クリエイティブ演習 2		2	
	文芸研究		2	
	卒業制作（文芸）	8		
	選 択 必 修 科 目	ライティング演習 1	1	
		ライティング演習 2	1	
		エディトリアル演習 1	1	
		エディトリアル演習 2	1	
		視覚表現と文字表現1	1	
		視覚表現と文字表現2	1	
		プロジェクト演習 1	1	
		プロジェクト演習 2	1	
		文芸論 3	2	
文芸論 5		2		
文芸論 6	2			

所属学科専門科目	選択科目	表現論 3	2		
		表現論 4	2		
		表現論 5	2		
		表現論 6	2		
		表現論 7	2		
		表現論 8	2		
		現代文学 1	2		
		現代文学 2	2		
		DTP演習 (初級)	2		
		DTP演習 (上級)	2		
		ゲームデザイン構築	2		
		プロダクトデザイン学科	必修科目	材料加工技術論	2
				プロダクトデザイン論 1	2
				プロダクトデザイン論 2	2
				応用人間工学	2
				インタフェースデザイン論	2
				プロダクトデザイン入門	2
				デッサン・スケッチ	2
				素材・造形 1	2
素材・造形 2	2				
コンピュータ演習	2				
表現伝達演習 1	2				
表現伝達演習 2	2				
思考・構想演習	2				
プロダクトデザイン演習 1	2				
プロダクトデザイン演習 2	2				
プロダクトデザイン演習 3	4				
プロダクトデザイン演習 4	4				
プロダクトデザイン演習 5	4				
プロダクトデザイン演習 6	4				
UXデザイン演習1	2				
UXデザイン演習 2	2				
プロダクトデザイン研究	4				
卒業研究 (プロダクトデザイン)	6				
選択科目	教育美術史 (プロダクトデザイン)		2		
	絵画・デッサン (プロダクトデザイン)		2		
	インテリアデザイン論1		2		
	インテリアデザイン論2		2		
	建築計画		2		
	建築設備		2		
	構法デザイン		2		
	建築法規		2		
	建築施工		2		
	建築材料		2		
	プロフェッショナルワークショップ 1	1			
	プロフェッショナルワークショップ 2	1			
	プロフェッショナルワークショップ 3	1			
	プロフェッショナルワークショップ 4	1			
プロフェッショナルワークショップ 5	1				
プロフェッショナルワークショップ 6	1				
建築	必修科目	建築・環境概論	2		
		西洋建築史	2		
		都市計画	2		
		風土形成論	2		
		建築構法	2		
		建築・環境基礎演習	2		
		図学製図演習	2		
		CAD演習	2		
		建築・環境施工演習	2		
		インテリア基礎演習	2		
		デジタル表現演習	2		
		建築設計論	2		
		エコロジカル建築論	2		
		エコロジカル地域論	2		
		建築設計演習 1	3		
		建築設計演習 2	3		
		環境計画演習 1	3		
		環境計画演習 2	3		
		建築・環境デザイン研究 1	2		
		建築・環境デザイン研究 2	2		
		卒業研究 (建築・環境デザイン)	6		
		建築設計演習 3	3		

環境デザイン学科	選択必修科目	建築設計演習4	3	
		建築設計演習5	3	
		建築設計演習6	3	
		環境計画演習3	3	
		環境計画演習4	3	
		環境計画演習5	3	
		環境計画演習6	3	
	選択科目	建築デザイン論	2	
		日本建築史	2	
		建築計画	2	
		風景の計画	2	
		インテリア設計論	2	
		建築と歴史と自然	2	
		生態学基礎	2	
		建築設備	2	
		構法デザイン	2	
		建築構造力学	2	
		建築構造力学演習	2	
		職業指導	2	
		リノベーション建築論	2	
		建築法規	2	
		環境基盤学	2	
		建築施工	2	
		建築材料	2	
		測量学	2	
		測量演習	2	
		地誌	2	
		線形代数学	2	
		グラフィックデザイン学科	必修科目	生活とグラフィックデザイン
	コミュニケーションデザイン基礎1			2
	コミュニケーションデザイン基礎2			3
	コミュニケーションデザイン基礎3			3
	コミュニケーションデザイン応用1			3
	コミュニケーションデザイン応用2			3
	デジタル表現演習1			2
	UIデザイン概論			2
	タイポグラフィ			2
	エディトリアルデザイン			2
	表現基礎			2
写真基礎	2			
イラストレーション基礎	2			
ビジュアルデザイン基礎	3			
UIデザイン基礎	2			
コミュニケーションデザイン実践	3			
グラフィックデザイン研究	2			
卒業研究(グラフィックデザイン)	6			
選択必修	ビジュアルデザイン応用1		2	
	ビジュアルデザイン応用2		2	
	ビジュアルデザイン応用3		2	
	ビジュアルデザイン応用4		2	
	ビジュアルデザイン応用5		2	
	ビジュアルデザイン応用6		2	
	ビジュアルデザイン応用7		2	
	ビジュアルデザイン応用8		2	
	ビジュアルデザイン実践1		2	
	ビジュアルデザイン実践2		2	
選択科目	教育美術史(グラフィックデザイン)		2	
	絵画・デッサン(グラフィックデザイン)	2		
	デジタル表現演習2	2		
	コミュニケーションデザイン	2		
	文字とグラフィックデザイン	2		
	メディア表現とグラフィックデザイン	2		
	世界のクリエイティブ100年	2		
	映像文化史	2		
	メディア文化史	2		
	映像制作基礎演習1	2		
	映像制作基礎演習2	2		
	映像制作基礎演習3	2		
	デジタル表現演習	2		
	コミュニケーション基礎演習1	2		
	コミュニケーション基礎演習2	2		
	コミュニケーション基礎演習3	2		

映像学科	必修科目	コミュニケーション基礎演習 4	2
		コミュニケーション実践 1	2
		コミュニケーション実践 2	2
		映像制作演習 1	2
		映像制作演習 2	2
		映像制作演習 3	2
		映像制作演習 4	2
		コミュニケーション研究 1	2
		コミュニケーション研究 2	2
		映像制作応用 1	2
		映像制作応用 2	2
		映像制作応用 3	2
		映像制作応用 4	2
		映像研究	2
		卒業研究 (映像)	6
	選択科目	教育美術史 (映像)	2
		絵画・デッサン (映像)	2
		映像プランニング概論	2
		映像コミュニケーション概論	2
		映像表現技法	2
		映像表現技法演習 1	2
		映像表現技法演習 2	2
企画構想学科	必修科目	企画の哲学 1	2
		企画の哲学 2	2
		プロモーション入門	2
		WEB企画制作入門	2
		メディアリテラシー入門	2
		企画書表現入門	2
		ソーリズム&ホスピタリティ入門	2
		インターネットビジネス入門	2
		ロジカルライティング入門	2
		プロモーションディレクション実践	2
		アイデア発想演習	2
		企画書表現演習	2
		グラフィックデザイン演習	2
		フィールドワーク演習	2
		プロモーションディレクション演習	2
		プレゼンテーション演習	2
		企画制作演習 1	2
		企画制作演習 2	2
		企画制作演習 3	2
		企画制作演習 4	2
	企画構想研究 1	2	
	企画構想研究 2	2	
	企画構想研究 3	2	
	プロデュース演習 1	2	
	プロデュース演習 2	2	
	キャリアデザイン演習	2	
	卒業研究 (企画構想)	6	
	選択必修科目	広告ビジネス入門	2
		文章・コミュニケーション入門	2
		ブランド・マーケティング入門	2
		コピーライティング入門	2
		データデザイン入門	2
		地域・文化研究入門	2
		ディスカッション入門	1
生活者行動入門		1	
ベンチャービジネス入門		2	
イノベーション理論		2	
コミュニケーションデザイン実践		2	
マーケティング&ブランディング実践		2	
ソーリズム&ホスピタリティ実践		2	
地域・文化研究実践		2	
PR広報実践	2		
プロデュースデザイン実践	2		
ベンチャービジネス実践	2		
クリエイティブ発想演習	2		
	コミュニティデザイン基礎	2	
	コミュニティデザイン応用	2	
	コミュニティデザイン事例研究	2	
	コミュニケーション演習 1	2	
	コミュニケーション演習 2	2	

コミュニティデザイン学科	必修科目	コミュニティデザイン演習1	2	
		コミュニティデザイン演習2	2	
		コミュニティデザイン演習3	2	
		コミュニティデザイン演習4	2	
		コミュニティデザイン演習5	2	
		デザイン思考演習1	2	
		デザイン思考演習2	2	
		デザイン思考演習3	2	
		デザイン思考演習4	2	
		情報デザイン演習1	2	
		情報デザイン演習2	2	
		情報デザイン演習3	2	
		地域実習1	3	
		地域実習2	3	
		地域実習3	3	
		地域実習4	3	
		地域実習5	3	
		地域実習6	3	
		地域留学	4	
		キャリアデザイン演習1	2	
		キャリアデザイン演習2	2	
		コミュニティデザイン研究1	2	
		コミュニティデザイン研究2	2	
		卒業研究(コミュニティデザイン)	6	
		選択科目	ファミリーデザイン基礎	2
			コミュニティ論	2
			現代幸福論	2
			生涯学習概論	2
	社会教育概論		2	
	地域プロジェクト演習		1	
	公共セクター論		2	
	環境共生型コミュニティ論		2	
	社会教育計画	2		

(別表第2)

学科	学科	科目区分	科目	単位			
教科及び教科の指導法に関する科目	歴史遺産学科	教科に関する専門的事項	日本史	日本史概論	2		
				歴史遺産学総論	2		
				考古学応用演習 1	2		
				考古学概論	2		
				歴史学特講	2		
				考古学特講	2		
				歴史遺産文献講読 1	2		
				歴史遺産文献講読 2	2		
				民俗・人類学概論	2		
				歴史遺産基礎演習 1	2		
				歴史遺産基礎演習 2	2		
				歴史遺産基礎演習 3	2		
				歴史遺産基礎演習 4	2		
				民俗・人類学特講	2		
				東洋史概論	2		
			西洋史概論	2			
			アジア文化論	2			
			地理学概論	2			
			歴史遺産調査演習A	2			
			世界遺産総論	2			
			社会文化環境論	2			
			地誌	2			
			社会と政治	2			
			グローバル社会論	2			
			日本国憲法	2			
	「社会学、経済学」	社会学	2				
	「哲学、倫理学、宗教学」	倫理と哲学	2				
	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	社会科教育法 1	2				
		社会科教育法 2	2				
		社会科教育法 3	2				
		社会科教育法 4	2				
	美術科	教科に関する専門的事項	絵画（映像メディア表現を含む。）	美術科共通演習（絵画A）	2		
				美術科共通演習（絵画B）	2		
				ポートフォリオ作成	1		
				ポートフォリオ研究	1		
				日本画基礎演習 1	2		
				日本画基礎演習 2	3		
				日本画基礎演習 3	3		
				洋画基礎演習 1	2		
				洋画基礎演習 2	3		
				洋画基礎演習 3	3		
			彫刻	美術基礎演習（立体）	2		
				彫刻基礎演習 1	2		
				彫刻基礎演習 2	3		
				彫刻基礎演習 3	3		
				素材学（彫刻）	2		
		デザイン（映像メディア表現を含む。）	デザイン演習（教職）	2			
			総合美術演習 1	2			
			工芸（中一種取得希望者のみ）	美術科共通演習（工芸A）	2		
				美術科共通演習（工芸B）	2		
				総合美術基礎演習 1	2		
		総合美術基礎演習 2	3				
		総合美術基礎演習 3	3				
		工芸デザイン論	2				
		工芸デザイン入門	2				
		美術理論・美術史（鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。）	美術の見方	2			
			美術史	2			
			現代美術史	2			
			素材学（日本画）	2			
			素材学（洋画）	2			
			素材学（版画）	2			
			日本画考 1	2			
			日本画考 2	2			
			洋画入門	2			
			洋画概論	2			
		版画入門	2				
		芸術鑑賞の喜び	2				
		デザイン史	2				
		色彩学	2				
		各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	美術科教育法 1	2			
			美術科教育法 2	2			
			美術科教育法 3	2			
			美術科教育法 4	2			
		工芸デザイン学科	教科に関する専門的事項	絵画（映像メディア表現を含む。）	表現基礎演習	4	
					ポートフォリオ実習	4	
					彫刻	造形基礎演習	4
	デザイン演習（教職）					2	
	伝達方法論					2	
	デザイン（映像メディア表現を含む。）			工芸素材基礎演習 1		4	
				工芸デザイン基礎演習 1		4	
				工芸デザイン基礎演習 2	4		
				プロフェッショナルスキル 1	2		
				プロフェッショナルスキル 2	2		
	工芸（中一種取得希望者のみ）			東北工芸・産業論	2		
				工芸デザイン論	2		
				工芸デザイン入門	2		
				近現代美術史	2		
				美術史	2		
	現代美術史		2				
	デザイン史		2				
	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		美術科教育法 1	2			
			美術科教育法 2	2			
			美術科教育法 3	2			
			美術科教育法 4	2			
	プロダクトデザイン学科		教科に関する専門的事項	絵画（映像メディア表現を含む。）	絵画・デッサン（プロダクトデザイン）	2	
					表現伝達演習 2	2	
					彫刻	彫刻作法	2
						素材学（彫刻）	2
		デザイン（映像メディア表現を含む。）				素材・造形 1	2
				素材・造形 2		2	
プロダクトデザイン演習 2				2			
コンピュータ演習				2			
プロダクトデザイン演習 1				2			
プロダクトデザイン演習 3		2					
プロダクトデザイン演習 4		2					
プロダクトデザイン演習 5		4					
表現伝達演習 1		2					
工芸（中一種取得希望者のみ）		工芸デザイン論		2			
		工芸デザイン入門		2			
		美術理論・美術史（鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。）	教育美術史（プロダクトデザイン）	2			
			美術科教育法 1	2			
			美術科教育法 2	2			
美術科教育法 3			2				
美術科教育法 4			2				
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		建築・環境概論	2				
		建築・環境施工演習	2				
		図学製図演習	2				

(別表2の3)

学科	区分	科目名	単位
歴史遺産学科	生涯学習概論	生涯学習概論	2
		社会教育概論	2
	生涯学習支援論	生涯学習支援論1	2
		生涯学習支援論2	2
	社会教育経営論	社会教育経営論1	2
		社会教育経営論2	2
	社会教育特講	現代社会解剖学1	2
		民俗・人類学特講	2
歴史遺産学総論		2	
社会教育実習	社会教育実習	2	
社会教育演習・社会教育実習・社会教育課題研究のうち一以上の科目	歴史遺産調査演習A	2	
美術科総合美術コース	生涯学習概論	生涯学習概論	2
		社会教育概論	2
	生涯学習支援論	生涯学習支援論1	2
		生涯学習支援論2	2
	社会教育経営論	社会教育経営論1	2
		社会教育経営論2	2
	社会教育特講	社会教育実践演習1	4
		社会教育実践演習2	4
社会教育実習	社会教育実習	2	
社会教育演習・社会教育実習・社会教育課題研究のうち一以上の科目	社会教育演習	2	
コミュニティデザイン学科	生涯学習概論	生涯学習概論	2
		社会教育概論	2
	生涯学習支援論	コミュニティデザイン演習1	2
		コミュニティデザイン演習2	2
	社会教育経営論	地域実習1	3
		地域実習3	3
	社会教育特講	公共セクター論	2
		ファシリテーション基礎	2
環境共生型コミュニティ		2	
社会教育実習	現代幸福論	2	
社会教育演習・社会教育実習・社会教育課題研究のうち一以上の科目	地域実習5	3	
	地域実習6	3	

(別表2の4)

学部	学科	免許状の種類	教科
芸術学部	歴史遺産学科	中学校教諭一種免許状	社会
		高等学校教諭一種免許状	地理歴史
	美術科	中学校教諭一種免許状	美術
		高等学科教諭一種免許状	美術
	工芸デザイン学科	中学校教諭一種免許状	美術
		高等学科教諭一種免許状	美術
デザイン工学部	プロダクトデザイン学科	中学校教諭一種免許状	美術
		高等学科教諭一種免許状	美術
	環境・環境デザイン学科	高等学科教諭一種免許状	工業
		中学校教諭一種免許状	美術
	グラフィックデザイン学科	中学校教諭一種免許状	美術
		高等学科教諭一種免許状	美術
映像学科	中学校教諭一種免許状	美術	
	高等学科教諭一種免許状	美術	

(別表2の5)

学部	学科	資格
芸術学部	文化財保存修復学科	学芸員
	歴史遺産学科	
	美術科	
	工芸デザイン学科	
	文芸学科	
デザイン工学部	プロダクトデザイン学科	学芸員
	建築・環境デザイン学科	
	グラフィックデザイン学科	
	映像学科	
	企画構想学科	
	コミュニティデザイン学科	

(別表2の6)

学部	学科・コース
芸術学部	歴史遺産学科
	美術科 総合美術コース
デザイン工学部	コミュニティデザイン学科

(別表第3)

入学検定料	総合型選抜入試[専願体験型] 総合型選抜入試[併願型] 一般選抜入試[専願型] 一般選抜入試[前期] 一般選抜入試[面接型] 帰国生特別選抜試験 外国人留学生特別選抜試験 社会人・シニア特別選抜試験 編入学試験	33,000円
	大学入学共通テスト利用入試[1科目利用] 大学入学共通テスト利用入試[2科目利用 前期] 一般選抜入試[後期] 大学入学共通テスト利用入学試験[2科目利用 後期]	15,000円
入学金		275,000円
授業料	文化財保存修復学科、美術科、 <u>工芸デザイン学科</u>	1,200,000円
	歴史遺産学科、文芸学科	1,135,000円
	デザイン工学部	1,220,000円

○東北芸術工科大学教授会運営細則

(目的)

第1条 この細則は、東北芸術工科大学学則（以下「学則」という。）第11条の規定により、教授会の運営に関し、必要とする事項を定めるものとする。

(代表教授会及び教授会部会)

第2条 教授会は、代表教授会と教授会部会とする。

2 教授会部会は、教授会芸術学部会及び教授会デザイン工学部会とする。

3 代表教授会は学長が、教授会芸術学部会及び教授会デザイン工学部会は各学部長が主宰する。

(招集及び開催)

第3条 代表教授会及び教授会部会の招集及び開催については、学則第8条及び第9条の規定を準用する。

(構成)

第4条 代表教授会は、学長、副学長、各学部長、基盤教育研究センター長、教務部長、学生部長、入試部長及び各学科長をもって構成する。

2 教授会部会は、芸術学部又はデザイン工学部の教授、准教授、専任講師及び助教をもって構成する。

3 前2項の規定にかかわらず、必要に応じて、代表教授会又は教授会部会には事務局長、事務局次長、事務局部長及び事務局各課長が出席の上意見を述べるができる。

(審議事項)

第5条 代表教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

(1) 学生の入学、卒業及び課程の修了

(2) 学位の授与

(3) 前2号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの

2 代表教授会は、前項に規定するもののほか、学長及び学部長がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ意見を述べるができる。

3 教授会部会は、前2項に規定する事項以外の当該部会に属する事項を審議する。

4 代表教授会の議事及び教授会部会の議事は出席者の過半数で決し、可否同数のときは議長が決するところによる。

(諮問事項)

第6条 東北芸術工科大学学則第10条1項第3号の規定により、学長は以下のことを諮問する。

(1) 教育課程及び授業に関する事項

(2) 学則及び学内諸規程に関する事項

(3) 学生の退学、転学、休学、賞罰その他身分に関する重要事項

(4) 学生の福利厚生に関する事項

(5) 教員の教育研究の業績等に関する事項

(6) その他教育研究上必要と思われる重要事項

(議事録)

第7条 代表教授会又は教授会部会は、その開催の都度議事録を作成し、議長が署名捺印する。

2 代表教授会又は教授会部会の決議事項は、代表教授会にあっては理事長に、教授会部会にあっては学長に報告しなければならない。

(雑則)

第8条 この細則に定めるもののほか、代表教授会又は教授会部会の運営に関し必要な事項は、学長が別に定める。

附則

この細則は、平成 4 年 4 月 1 日から施行する。

附則

この細則は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

附則

この細則は、平成 25 年 8 月 28 日から施行する。

附則

この細則は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

附則

この細則は、令和 4 年 4 月 1 日から施行する。

－ 設置の趣旨等を記載した書類 目次 －

1. 設置の趣旨及び必要性	p. 2
2. 学部・学科等の特色	p. 4
3. 学部・学科等の名称及び学位の名称	p. 5
4. 教育課程の編成の考え方及び特色	p. 6
5. 教育方法、履修指導方法及び卒業要件	p. 11
6. 取得可能な資格	p. 14
7. 実習の具体的計画	p. 15
8. 入学者選抜の概要	p. 17
9. 教員組織の編制の考え方及び特色	p. 19
10. 施設、設備等の整備計画	p. 20
11. 管理運営	p. 22
12. 自己点検・評価	p. 23
13. 情報の公開	p. 24
14. 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等	p. 25
15. 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制	p. 26

設置の趣旨等を記載した書類

1. 設置の趣旨及び必要性

(1) 設置の理由及び必要性

市場が一度縮小し、その後活況となった国内の伝統工芸、伝統産業の現場では、必ずといっていいほどデザインの力が結びついている。

東北でも老舗がクリエイターとパートナーシップを結び、成功に結びつけている事例が出始めている。山形では鋳物老舗が工業デザイナーと、絨毯製造会社は、ブランディングデザイナーを開発ブレーンとして商品展開を行っている。

伝統工芸は今後、素晴らしい技術はそのままに、一般家庭でも日常的に使ってもらうホームユースラインの生産に力を入れていくことが求められる。そうした意味でも商品戦略、流通等のデザインスキルを併せ持つ人材を地方の伝統工芸産業界に行き渡らせることで、地方創生に貢献できる。

本学は日本で初めてデザインを冠した学部を開設した大学として、地域の課題、地方企業・自治体の様々な課題解決にデザイン力で貢献してきた。そして、今後、工芸の領域にもデザインのもつ問題解決力を実装すべく「工芸デザイン学科」を届け出設置することとした。

(2) 卒業認定・学位授与の方針

本学では「芸術立国」を基本理念とし、各学位プログラムの課程を修め、124単位の単位取得と必修等の条件を充たしたうえで、教育理念に定める「人と自然を思いやる想像力と社会を変革する創造力を見につけ、困難な課題を克服しようとする強い意志とともに、芸術の力を社会のために用いることのできる人材の育成」を目的としている。その実現のために、下記の4つの力と10の能力要素を身につけるべき力としてその修得をめざす。

1. 本質を見ようとする姿勢、純粋な目「想像力」

幅広い知識、多様な視点、豊かな美意識を持ち、世界に内在する様々な課題を発見し、説明できる。

2. 想いを形にできる「創造力」

発想・直感から創り上げたイメージを、具体的に表現し伝えることができる。

3. 問題提起と解決への強い意志「意志」

工芸デザイン学科を含む芸術学部においては、自立した「個」の確立を目指し、その強い意志と芸術の力によって、社会に向けて新鮮で本質的な価値観を提起できる。

デザイン工学部においては、社会のためにデザインの力を用いる姿勢と強い意志を身につけ、困難な問題に対する解決策を提案できる。

4. 社会的・職業的自立のための能力・態度「社会性」

職業観、勤労観を培い、社会人としての基礎的資質を形成し、積極的に社会参加できる。

(3)教育課程編成・実施の方針

まず、芸術・デザインを学ぶ基礎となる全学共通科目においては、大学理念の理解を目的とした「芸術平和学」をはじめとして、「自然・社会と芸術」、「地域の文脈」において、芸術・デザインを社会に活かすための基本的姿勢について学び、「言語と表現」、「社会リテラシー」においては、社会で共通して求められる汎用能力としての語学、コンピュータ、デジタル表現、情報などに関する基礎力を修得する。

次に、専門教育においては、工芸デザイン学科における各分野の素材加工や技術など、専門的知識と作法の修得を目的とした講義と実習による基礎課程と、より実践的 PBL 演習を中心とした専門課程によって構成され、特に、専門課程では、実社会との関わりを意識させる地域・産業との連携演習を常態化することで、学生の能動的姿勢と取組を高いレベルで要求する教育を行う。

そして、進路教育においては、工芸デザイン学科の実践的なカリキュラムを通して、クリエイティブな資質を身につけた人材を育成することが、「芸術立国」を理念とする本学にとっては、極めて重要な教育との位置づけをしており、本学で学んだ芸術・デザインを、自らの人生と社会のためにどう活かすのか、きめ細かく指導する。

【資料1：工芸デザイン学科カリキュラムツリー】

(4)組織として研究対象とする学問分野

本学の「工芸デザイン学科」は、「陶磁」、「金属」、「繊維」、「漆・木工」の各分野で構成しており、工芸デザイン学科に所属予定の専任教員が中心になって素材加工やその技術を総合的に学ぶことができる教育・研究体制を整える。その中でも、各分野は、工芸デザインを修得する上で必要不可欠なものであり、かつ中核を成すものである。

工芸デザイン学科では、各教員・各分野における専門性の追究に加えて、分野や教員間での連携も重要であると考え、分野の垣根を超えた学際的な研究が可能となり、各分野の領域外にも教育・研究の範囲が及ぶような専門性と柔軟性を備えた専任教員で構成している。

(5)教育上の数量的・具体的な到達目標

・就職率 95%

大学院への進学を除き、就職希望者については就職率 95%を目指す。現状、85%の進路決定率を目標とする芸術学部において、既存の工芸コース、テキスタイルコースの就職率は、90%以上と他の学科・コースと比較しても高い数値にあることから、新学科においては、全体の就職率を更に高めつつ、工芸デザイナーや生活工芸作家、職人といった専門分野へ進む人材の比率を高めることにも注力していく。

2. 学部・学科等の特色

(1)「工芸デザイン学科」の特色

教育上の目的

工芸デザインとは、プロダクトデザインのうちでも作者自身の手で作るものを工芸と言い、金属工芸、木竹工芸、陶芸、染織、ガラス工芸、装身具など、「量産できない工芸品のデザイン」を意味する。したがってこの分野では、デザイナーが同時に工芸家でもある。「アート」と「デザイン」の領域を行き来し、日本の工芸に新たな潮流を生み出すことのできる人材＝工芸(モノ)を用いてコトをデザインする人材＝を育成する。

工芸デザインには「現代美術＝アート」と「問題解決＝デザイン」の2つの側面がある。社会が成熟し、機能やステータスとしてのモノを求める時代から、多様な価値観、自己実現を大切にする時代へと世の中が変遷してきているなかで、アートとデザインを分けて考えるのではなく、双方を理解し創作に臨むことがこれからの工芸には必要であると考えられる。

伝統的な技術や技法を知り、現代的な表現も取り入れながら作品として昇華させることのできる力と、産業、生活に付する課題を解決し、その価値を的確に伝えることのできる力、すなわちアートとデザインの領域をまたいだ力を身につけ、社会に新たな価値を生み出すことのできるハイブリッドな人材を育成する。

ただし、デザイナーである前に、自らが工芸作家として、素材別に卓越した技術を必要とするため、新学科を芸術学部におき、美術科と教育面での連携に重心をおく。

特色① アートとデザインの領域をまたいだハイブリットな能力を身につけた人材の育成

これまでの工芸、テキスタイルコースは、しっかり素材に向き合い確かな技術を身につけ高いクオリティの作品を完成させることによって、教育の質を社会に示してきた。

工芸デザイン学科では、個としての「技術力」はもちろん、素材や技術の背景にある歴史的・文化的文脈を読み解き、自身の制作に組み込むことのできる「思考力」、特長を明確に伝えるための「プレゼンテーション力」、加えて、「企画力」、「マーケティング力」を身につけた、デザイナーが同時に工芸家という新しいクリエイター像を確立する。

勿論、卒業時には、自らがつくりたい作品を創造する、いわゆるプロダクトアウト型としての工芸家と、顧客が求めているものを調査し、それに基づいた作品(商品)を企画開発していこうとするマーケットイン型のデザイナーにと進路は分かれていく。

特色② 伝統工芸産業との教育連携

デザイン工学部が自治体や産業界と行ってきた産官学連携教育のノウハウを活用し、新学科では東北の伝統工芸産業との教育連携に組み込んでいく。素材ごとの職人の技を現場で体験し自らの創作の幅を広げつつ、素材の可能性を知る者として、「作品」を顧客の課題を満足させる「製品」(プロダクト、サービス)とし、それが適切な市場に受け入れられている状態(プロダクトマーケットフィット)をつくり出せる人材を地域に輩出していくこと

で、地方の伝統工芸産業の価値を高めていく。

3. 学部、学科等の名称及び学位の名称

「工芸デザイン学科」は、芸術学部において多様な造形表現の理論と実践を基盤に、多角的な視野と柔軟な発想を身につけ、表現力・創造力で社会に貢献できる人材を育成するとともに、その理念を地域産業活性化・再生の分野で自立して活動にあたる人材を養成する教育目標において命名するものである。

学位については、芸術学部美術科と同様に、素材別に卓越した技術修得を教育の基盤にとするため、芸術学部美術科と並列する学科として、「学士(芸術)」とする。

- ・ 学科の名称 工芸デザイン学科 (英語: Department of Craft Design)
- ・ 学位の名称 学士(芸術) (英語: Bachelor of Art)

4. 教育課程の編成の考え方及び特色

(1) 科目区分の設定及びその理由

工芸デザイン学科の科目区分は、「全学共通科目」、「学科専門科目」、「全学共通専門科目」の3つに大別される。「全学共通科目」は、芸術やデザインに必要なものの見方、考え方、基礎知識を学ぶ「基盤科目群」と、芸術やデザインに必要な基礎能力を養い基本的なスキルを修得する「リテラシー科目群」によって構成される。

「全学共通科目」と「学科専門科目」を設置する理由は、工芸デザインが目指す、個としての「技術力」だけでなく、「思考力」や「プレゼンテーション力」、「企画力」や「マーケティング力」など、幅広い技術や教養を統合的に学修できるようにするためである。また、「全学共通専門科目」は、学科における専門性をより効果的に学ぶ為に、分野を超えて幅広い知識を修得する目的で他学科において開講している科目も学ぶことができるよう設定された科目となる。卒業要件では、それぞれの科目区分に一定の習得単位数を設定することで、履修科目の分野的な偏りをなくし、且つ、段階的に学修できるようにしている。これらの設定によって、基盤的な「全学共通科目」と専門性の高い「学科専門科目」、「全学共通専門科目」との相関学修を促し、相乗効果が期待できると考える。

「全学共通科目」が、芸術やデザインを学ぶ上で必要なものの見方や考え方、基本的な能力やスキルを身につける科目であるのに対して、「学科専門科目」は、工芸デザインの専門性を高めるために習得する科目としてある。これらの科目は、内容や学修レベルにおいて相互に関連させた配当年次を設けており、基礎から応用に至るまで段階的に学べるよう工夫し設定している。

(2) 各科目区分の科目構成とその理由

1) 全学共通科目

① 基盤科目群

芸術やデザインに必要なものの見方、考え方、基礎知識を学ぶことを目標としており、工芸デザイン学科の専門科目を相互に照らし合わせながら学ぶことができるよう1年次～4年次までの科目を設定している。1年次には、芸術やデザインの基本理念を学ぶ「芸術平和学」を配置しており、他にも、1年次～4年次までを対象年次として、「美術史」や「デザイン史」、「芸術と心理」や「東北文化論」など、自然や社会と芸術との関係性について導入的に学ぶ科目が配置されている。また、2年次～4年次には、より踏み込んだ内容についても学ぶことを目的として、「地域ブランド論」や「地域ツーリズム論」、「サステイナブルコミュニティ」などを配置している。

② リテラシー科目群

芸術やデザインに必要な基礎能力を養いスキルを修得することを目標としている。まず、言語力に関しては、1年次～4年次までを対象年次科目として、「初級英語」、「中級英

語」などを配置しており、社会リテラシーとしての汎用力基礎を学ぶ科目として、「想像力基礎ゼミナール」、「コンピュータ基礎演習」を1年次に、2年次～4年次には「デザイン思考」や「情報リテラシー」などを配置している。また、芸術やデザインを社会や人生でどう活かしていくのかというキャリアデザインを学ぶ「キャリア形成論」を2年次に配置しており、3年次～4年次には、キャリアに関する理論を理解した上で論理的表現力を身につける「キャリア設計論」などを配置している。

2) 学科専門科目

工芸デザインの技術力や思考力など専門性を高めることを目標としており、基礎から応用に至るまで段階的に学べるよう、1年次～4年次にかけて以下の科目を配置している。

①工芸デザイン基礎科目：(1～2年次)

工芸デザインを学ぶ上で必要な平面造形と立体造形の基礎知識を学び、さらには、アイデアを形にするための能力を身につける。「工芸デザイン入門」、「工芸デザイン論」、「造形基礎演習」、「表現基礎入門」、「デザインコンピュータ演習1」、「デザインコンピュータ演習2」などを配置している。

②工芸素材基礎科目：(1～2年次)

工芸デザインを構成する「陶磁」、「金属」、「繊維」、「漆・木工」の4つの分野の特色を学びながら各素材の扱い方を修得した上で、それぞれが専門として扱う専門素材を2素材選択する。さらに、選択した素材については、居住空間に配置されるモノをテーマに、素材、技法、サイズ、構造などを習得する。「工芸素材基礎演習1」、「工芸素材基礎演習2」、「工芸素材基礎演習3」、「工芸素材基礎演習4」などを配置している。

③工芸デザイン基礎科目：(2年次)

4つの分野から各自が選択した素材を駆使して、クラフト作品やファッション、インテリアなどの作品を制作しながら、素材・技法と表現の可能性を追求する。「工芸デザイン基礎演習1」、「工芸デザイン基礎演習2」を配置している。

④キャリアアップ科目：(2～3年次)

キャリアアップ科目として、各素材の高度や伝統技法の習得や東北の地域産業の問題を工芸デザインの力で解決する為の手法を習得する。「プロフェッショナルスキル1」、「プロフェッショナルスキル2」、「東北工芸・産業論」、「東北工芸実践」などを配置している。

⑤工芸デザイン応用科目：(3年次)

業界内のマーケティングや市場調査などを行いながら、プレゼンテーション能力やプロ

モーション能力を身につけ、より理論的な工芸デザインの社会活用法を習得する。「工芸デザイン応用演習 1」、「工芸デザイン応用演習 2」、「工芸デザイン実習 1」、「工芸デザイン実習 2」などを配置している。

⑥工芸デザイン研究制作科目：(4年次)

4年次には、集大成として各自が選択した方法論で工芸デザインにおける地域・産業の諸問題を解決するための研究を行い提案力、分析力、表現力などを習得する。「工芸デザイン研究制作」、「卒業制作(工芸デザイン)」を配置している。

また、上記以外にも、学科以外の幅広い知識を修得し、専門性をより効果的に学ぶ目的で、「学科専門共通科目」というものが設定されている。

【資料1：工芸デザイン学科カリキュラムツリー】

【資料2：工芸デザイン学科 学科専門科目履修の流れ】

(3)学科の趣旨等を実現するための科目の対応関係

「工芸デザイン学科」の設置の趣旨に対応した人物像を「アートとデザインの領域をまたいだ力を身につけ、社会に新たな価値を生み出すことのできるハイブリッドな人材」としている。「工芸デザイン学科」では、その人物像を育成するための「10の能力要素」を設定し、それらを身につけられるよう各授業科目のカリキュラムを組み立て、学科の趣旨等と科目が相互対応、相互補完するように構成している。

①知識・理解

人間や社会、自然に関する体系的知識の習得と理解。

②思考力

正しい情報をもとに、物事を論理的・体系的に考え抜く力。

③課題発見力

対象の本質や成り立ちを探求し、その課題を考えぬく力。

④発想・構想力

豊かな感性から直感を、概念・イメージなどにまとめあげる力。

⑤表現力

概念・イメージなどを、適切な技術・技法を用いて様々な媒体によって視覚化する力。

⑥倫理性

自らの良心に従い、社会のために芸術の力を用いる姿勢。

⑦実行力

主体性を持って粘り強く課題に取り組み、周囲を動かし確実に実行する力。

⑧基礎学力

読み・書き・計算・コンピュータリテラシー、情報リテラシーなど、工芸デザインを学ぶ上で基礎となる力。

⑨自己管理力

自らを律し、将来の成長のために主体的に学ぼうとする力。

⑩人間関係形成力

多様な他者を理解し、自分の考えを正確に伝えつつ、他者と協力・協働して社会に参画する力。

(4)必修科目・選択科目・自由科目の構成とその理由

必修科目の構成は、学科専門科目の分野別に以下の通り設定する。

①工芸デザイン基礎科目（30単位）

1年次前期：「工芸デザイン入門」、「プロダクトデザイン入門」、「工芸デザイン論」、「インテリアデザイン論1」、「造形基礎演習」、「表現基礎演習」

1年次後期：「近現代美術史」、「デザインコンピュータ演習1」

2年次前期：「デザインコンピュータ演習2」

2年次後期：「伝達方法論」、「応用人間工学」

②工芸素材基礎科目（16単位）

1年次前期：「工芸素材基礎演習1」

1年次後期：「工芸素材基礎演習2」

2年次前期：「工芸素材基礎演習3」、「工芸素材基礎演習4」

③工芸デザイン基礎科目（8単位）

2年次後期：「工芸デザイン基礎演習1」、「工芸デザイン基礎演習2」

④工芸デザイン応用科目（16単位）

3年次前期：「工芸デザイン応用演習1」、「工芸デザイン応用演習2」、「ポートフォリオ実習」

3年次後期：「工芸デザイン実習1」、「工芸デザイン実習2」

⑤工芸デザイン研究制作科目（10単位）

4年次前期：「工芸デザイン研究制作」

4年次後期：「卒業制作（工芸デザイン）」

選択科目の構成は、学科専門科目の分野別に以下の通り設定する。

①キャリアアップ科目（8単位）

2年次前期：「プロフェッショナルスキル1」

2年次後期：「プロフェッショナルスキル2」、「東北工芸・産業論」

3年次後期：「東北工芸実践」

(5)履修順序(配当年次)の考え方

履修順序の考えとして、低学年時から高学年時にかけて、基礎から応用へと段階的に学修できることを各専門科目の共通事項として確認した上で配置している。また、科目内容が相互に連動するよう配置を工夫している。

具体例として、1年次においては、「工芸デザイン入門」や「工芸デザイン論」と「工芸素材基礎演習1」、「工芸素材基礎演習2」を関連させ、座学で学んだ内容を演習で実践・展開できるような構成としている。また、2年次における「工芸素材基礎演習3」、「工芸素材基礎演習4」においては、各自が選んだ素材に関して、それまでと違ったテーマで技法や構造を学ぶことによって、工芸作品をデザインする上での幅広い知識や基礎力を総合的に理解し構想・表現ができるよう工夫している。

さらに2年次から3年次においては、4つの分野から各自が選択した素材を駆使して、実際にクラフト作品やファッション、インテリアなどの作品を制作しながら、素材・技法と表現の可能性を追求することができるよう段階的かつ相関的に科目を配置している。

5. 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

(1)教育方法

①授業の方法

工芸デザイン学科における授業方法は、知識の理解を目的とする教育内容については原則として講義形式の授業形態をとる。また、学んだ知識の定着を目的とする教育内容や技術技能の習得を目的とする教育内容については、演習形式の授業形態とする。そして、卒業研究・制作の指導については、少人数グループのゼミ形式による学習や個別指導などの形態をとる。

②学生数の設定

「工芸デザイン入門」や「工芸デザイン論」など工芸デザインの基礎科目においては、全員（45名）が一緒にて授業を行う。2年次以降の「工芸デザイン基礎演習1、2」や「工芸デザイン応用演習1、2」においては、それぞれが選択した素材にあわせて授業を行う。また、「工芸デザイン研究制作」、「卒業制作（工芸デザイン）」では、少人数（8名程度）ずつ各教員に配置してきめ細かい指導を行うとともに、学生の主体的な学修を促す。

③配当年次

1年次から2年次前期の低学年には、基礎的な科目として「工芸デザイン入門」や「工芸素材基礎演習1～4」などの科目群を配置し、2年次後期には、基幹的・応用的な科目として、「工芸デザイン基礎演習1」や「工芸デザイン基礎演習2」などの科目群を配置する。また、3年次には「工芸デザイン応用演習1、2」や「工芸デザイン実習1、2」を配置しており、学年進行につれて基礎的、導入的な科目から応用的な科目へ進むよう配置されている。さらに、4年次には集大成として、「工芸デザイン研究制作」と「卒業制作（工芸デザイン）」を配置して、クラフト作品やファッション、インテリアなどの作品を制作しながら、素材・技法と表現の可能性を追求することで課題解決を図る能力を養う。

④CAP 制の考え方

単位制度の実質化の観点を踏まえ、学生の主体的な学習を促し、教室における授業と教室外の学習を合わせた充実した授業を展開することによって学習効果を高めていくために、1年前期のみ履修登録の上限は20単位とし、その後は、各自のGPAに応じて、1.5未満の場合は18単位、1.5～3.0未満の場合は24単位、3.0以上の場合は28単位という上限を設定している。

(2)履修指導方法

学生に対する履修指導については、各学期の授業開始前1週間を、オリエンテーション期間として学年暦に明示し、各種ガイダンスを実施している。具体的には、事務局が実施

する学年別のガイダンスをはじめ、学科・コースガイダンス、資格課程ガイダンス及びキャリアガイダンスなどがある。特に、新入生に対しては、キャンパスモバイルシステム（構内無線LANシステム）や教学情報システム「NETBUS」など、本学独自のシステムの利用方法について少人数のクラスに分けて説明を行うガイダンスを実施している。また、履修相談については、各学期のガイダンス期間から履修登録手続き期間において、教学事務室で常時、対応している。さらに、全ての専任教員は、週に1時限（80分）以上のオフィスアワーを設けており、学生の適性或能力・希望進路に応じた履修科目の選択に関する助言や相談など、きめ細かなサポートを行っている。

(3)卒業要件

工芸デザイン学科における卒業要件は、全学共通科目 35 単位、学科専門必修科目 80 単位、学科専門選択科目及び、全学共通専門科目より 9 単位以上修得し、合計 124 単位以上を修得することを卒業要件とする。【資料 3：工芸デザイン学科履修モデル】

科目区分		卒業要件		
		小計	合計	総計
全学共通科目	基盤科目群	14	29	35 ※各区分の単位以上を満たし、かつ総計 35 単位以上を修得すること
	リテラシー科目群	15		
学科専門科目	選択必修科目/必修科目			80
	選択科目			9 ※学科専門選択科目、全学共通専門科目より 9 単位以上修得すること。
全学共通専門科目	各学科分野			
合計				124

(4)他大学における授業科目の履修等

本学では、以下に示す大学や短大などと協定を結んでおり、特定の授業を履修することができる。なお、修得した単位は、「単位互換科目」として反映される。

1. 京都芸術大学との単位互換と交換留学

姉妹校である京都芸術大学で開講される単位を取得することができる。また、交換留学制度により、毎年数名の本学学生が京都芸術大学で、また、同じく京都芸術大学の学生が東北芸術工科大学で学んでおり、文化や歴史が異なる環境での学修や、学生相互の交流など、制作・研究活動に十分活かされる機会を相互に設けている。

2. 大学コンソーシアムやまがた

平成 16 年 4 月に設立された、山形県内の大学・短期大学・高等専門学校・放送大学等の教育機関と山形県の連合組織に加盟している。加盟機関が相互に連携し交流を推進することにより、山形県内の高等教育の充実・発展を図るとともに、各大学の知的資源を有効に活用して地域社会に貢献することを目的としており、現在、山形県内 13 の高等教育機関の授業を受けることができる単位互換科目事業を推進している。

3. 学都仙台単位互換ネットワーク

本学では、県境を越えて、学都仙台単位互換ネットワークにも加盟している。令和元年度時点で、大学 16 校・短期大学 5 校・高等専門学校 1 校が参加しており、各大学等の開講科目の一部が単位互換ネットワークの科目として提供されている。これにより、各校が提供する専門性の高い科目、特色のある科目の受講が可能となり、意欲のある学生の学習機会が大きく広がっている。

6. 取得可能な資格

「工芸デザイン学科」において取得可能な資格とその取得条件は以下となっている。

資格・免許の種類	取得条件等 ア：国家資格若しくは民間資格 イ：資格取得可若しくは受験資格取得可能 ウ：取得の要件
中学校教諭一種免許状（美術）	ア：国家資格 イ：受験資格取得可能 ウ：指定科目の単位を取得し、卒業要件単位に含まれる科目の他、教職関連科目の履修が必要。
高等学校教諭一種免許状（美術）	ア：国家資格 イ：受験資格取得可能 ウ：指定科目の単位を取得し、卒業要件単位に含まれる科目の他、教職関連科目の履修が必要。
学芸員	ア：国家資格 イ：資格取得可能 ウ：博物館に関する科目及び関連科目の取得により資格を得られる。

7. 実習の具体的計画

工芸デザイン学科では、中学・高等学校教員一種免許状(美術)の免許が取得可能であり、その具体的な計画は下記のとおりである。

(1)実習の目的

大学において修得した教科や教職に関する理論や技術を、実際の学習活動に適用させながら、学習指導や生徒指導についての実践的な能力を育てることを目的とする。教育実習を通して、学校教育における多面的な活動について体験的、総合的な理解を深め、教育実践に関する研究的な態度や問題解決能力向上を目指す。また、教職の専門性やその職責について理解し、教員としての能力や適性についての自覚を深める。

(2)実習先の確保の状況

実施前年度、学生自身が実習先を探して教育実習の申し込みを行い、内諾を得られたのち正式に本学から受入依頼書を各学校宛に送付している。自身での実習先確保が難しい場合は、本学と協定を結んでいる上山市教育委員会および寒河江市教育委員会、山辺町教育委員会へ実習の依頼をしている。

(3)実習先との契約内容

受入先へ本学より受入依頼書を送付し、先方より内諾書を提出していただいている。また、実習生へは、実習期間中に知り得た個人情報等の取扱いについての守秘義務等について、事前の指導を徹底して行っている。

(4)実習水準の確保の方策

教育実習は、次の要件を充足し、教職課程会議において履修適格者と認定された者だけが対象となる。

- ① 3年次終了時まで、4年次開講科目を除く、教育の基礎的理解に関する科目等および各教科の指導法に関する科目をすべて修得しなければならない。
- ② 3年生前期終了時の全履修科目の累積 GPA 値がおおむね 2.0 以上であること。

(5)実習先との連携体制

教職課程担当教員及び教職課程担当の事務職員が窓口となり、実習先や実習生との連携を行う。

(6)実習前の準備状況(感染予防策・保険等の加入状況)

本学では、すべての学生を対象に毎年度、定期健康診断を実施している。また、教職課程の履修者すべてに麻疹のワクチンの接種状況の確認を行っており、必要な場合は学生へ医

療機関の受診を勧めている。なお、大学が保険料を負担し、学研災付帯賠償責任保険への加入を義務付けている。

(7)事前・事後における指導計画

『教育実習事前事後指導』科目を、3年次後期から4年次前・後期にかけて15コマ分にて実施する。3年次後期には、教育実習を終えた4年生の総合実習報告会への参加を義務づけ、意識付けをしている。事前指導では、学習指導案の作成準備や希望者の模擬授業を通して学びを深め、実習日誌の書き方など、現場で役に立つことの演習などを実施する。また、事後指導では、先述の総合実習報告会にて自らの教育実習経験を整理してまとめ発表し、教育実習の振り返りを促す指導を行う。

(8)教員及び助手の配置に関する巡回指導計画

協定を締結している自治体の学校については、教職課程担当の専任教員が巡回指導を行うが、母校で実習をしている学生への巡回指導については、実習校から希望があった場合のみ、所属学科コースの指導教員が巡回指導を行う。

学生が担当する授業の参観と指導教員との情報交換を行い、実習生に対して授業をはじめとする実習全般の指導を行う。巡回指導の日程調整については、実習生を介して行い、研究授業が行われる日を目安に依頼を行う。

(9)成績評価体制及び単位認定方法

実習校からの成績評価や実習日誌の記載内容、巡回指導担当教員からの評価を総合的に判断して評価する。

8. 入学者選抜の概要

本学では、「芸術立国」という理念の下、開学以来、“人と自然を思いやる想像力と、社会を変革する創造力を身に付け、自らの意思で未来を切り開くことができる人材の育成”を教育目標として「芸術家魂」を持った人材を輩出してきた。「工芸デザイン学科」では、芸術学部のアドミッションポリシーを基本としながら、これに基づき入学選抜を実施する。

(1)入学者受け入れの方針(アドミッションポリシー)について

「工芸デザイン学科」は、本学及び芸術学部にある以下のアドミッションポリシーを基本として、これを求める学生の人材像として定める。

○アドミッションポリシー

芸術学部及びデザイン工学部の入学者選抜においては、それぞれの専門領域に即して多面的・総合的に評価するために、次の観点から入学希望者を募集している。

- (1) 芸術やデザインに興味と熱意を持つ人
- (2) 高等学校までの学習および経験により培われた基本的な知識を持ち、主体的に学修できる人
- (3) 社会に興味を持ち、仲間とともに切磋琢磨して成長できる人

[芸術学部]

芸術は、美を求める純粋な心と知に基づくものであり、人々に夢や希望を与え、新たな価値を生み出す力がある。多様性を学び取る柔軟な姿勢と、自らの創造力や感性を粘り強く磨き続ける意志を身に付け、芸術の力を社会の真の豊かさに向けて生かそうとする入学希望者を求めている。従って、入学者選抜方法も「表現すること」のみにとらわれず、その力を社会の豊かさに繋げるための発想力やコミュニケーション能力も測ることができるよう、多様な選抜方法を実施している。

(2)選抜方法

本学では、アドミッションポリシーに基づき、以下の入学選抜試験を行い、入試区分別の達成基準を満たしているかを評価し、多様な学生を受け入れる。「工芸デザイン学科」では、入学定員を45名とした上で、下記の4つの入試を柱として学生の選抜を行う。

1. 総合型選抜入学試験 [専願体験型] : 22名 (募集割合 : 50%)

本学の教育内容に理解を示し、本学での学修に強い意欲を持っている専願者を対象とする。模擬授業を通じた制作体験や口頭発表等と、丁寧な面接により、受験生の特性や将来性等を多角的に判断したうえで合格者を決定する。

2. 総合型選抜入学試験 [併願型] : 9名 (募集割合 : 20%)

高等学校における幅広い教科科目の基礎学力が身につけている者や、特定の科目(絵画・デッサン・小論文)に秀でている者で、本学への入学を強く希望している者を対象とし、面接ならびに調査書等の書類審査結果と併せて合格者を決定する。

3. 一般選抜入学試験：7名（募集割合：15%）

本学への入学を希望している者で、高等学校の段階において基礎的な学習を積み重ねてきた者や、豊かな感性や創造性を持ち合わせている者を対象とする。英語、国語、数学といった教科科目や小論文を課し、幅広い選択科目の中から受験生の多様な能力や適性を測ることができる受験パターンにより合格者を決定する。

4. 大学入学共通テスト利用入学試験：7名（募集割合：15%）

大学入学共通テストを受験している者を対象とし、この中から基礎的な学力を有し、且つ、豊かな感性や創造性を持ち合わせている者を大学入学共通テストの教科科目の成績や本学で実施する論述・実技系専門試験の結果により選抜する。

(2)選抜体制

本学では、入学者選抜実施体制の充実・強化のため、募集要項の内容検討に当たっては、専任教員及び専任職員から成るアドミッションオフィサーが、入試・学生募集に係る全学的な企画立案及び入学者選抜の評価に参画し、入試広報課の職員とともに原案を策定し、学長会の議を経て学長が決定する。試験問題の作成については、試験科目ごとに学長に委嘱された問題作成委員が作成する。試験の実施については、実施責任者である学長の下で入試広報課が総括する。また、採点及び合否判定については、学長、学部長、学科・コース長、事務局長、アドミッションオフィサーらで組織される「全体合否判定会議」の審議を経て学長が決定する。

(4)正規学生以外の受け入れについて

研究生や科目等履修生・聴講生などについては、本学学則に基づいて、選考のうえ入学を許可することがある。

9. 教員組織の編制の考え方及び特色

工芸デザイン学科が開講する主要科目を担当する教員は全て専任教員であり、十分な教育・研究・実務経験を有する者で構成されている。

専任教員は、工芸デザイン学科の母体となる芸術学部美術科工芸コースとテキスタイルコースの専任教員を中心とした7名（教授3名、准教授3名、専任講師1名）であり、これらの教員によって工芸デザインの教育と研究を展開する。専任教員の年齢構成は、学部開設時点において、60歳代1名、50歳代4名、40歳代1名、30歳代1名であり、中・長期的な視点に立って継続的、かつ安定的な学科運営と教育・研究が可能となるよう、バランスの取れた構成としている。

なお、本学の定年年齢は65歳であるが、本法人の組織規程および定年規程に基づき、理事会が特に認めたときは1年毎の更新により定年を延長することができる。定年を延長する予定の教員が受け持つ分野の後任についても、都度、補充（採用）の計画を進めており、教育研究に支障をきたすことのないよう十分に配慮しているため、教員組織の継続性に問題はない。

【資料4：学校法人東北芸術工科大学定年規程】

10. 施設、設備等の整備計画

(1)校地、運動場の整備計画

本学は、蔵王の雄大な自然を背景に山形の市街地に向かって開かれた丘陵地帯に設置され、20haを超える敷地の中で、大学設置基準のおよそ1.1倍にあたる約167,000㎡の校地面積を有している。

運動場としては、400mトラックが優に収まる全面芝生のグラウンド(35,282㎡)とテニスコート(2面)が整備されており、いずれも授業やサークル活動などに供している。また、大学正面には約2,000㎡の池が広がっており、滝下に設置された風と水で動く彫刻作品「フォンテーヌ」とともに、親水空間として学生や市民の憩いの場として親しまれている。

さらに、本学の東側傾斜地には、山形県が管理する「悠創の丘」(約30ha)が広がり、同敷地内に芸術作品の展示施設「悠創館」が設置され、本学との連携による作品の展示も定着している。

このように、本学では芸術創造の原点である良質の自然に囲まれた環境の中で、学生たちの創作活動が日々展開されている。

(2)校舎等施設の整備計画

新設する工芸デザイン学科の施設については、工芸デザイン学科の母体となる芸術学部美術科工芸コースとテキスタイルコースで使用している新実習棟A、Cの教室をそのまま利用する為、新たな施設の整備計画はない。また、学生の卒業研究等を担当する専任教員については、それぞれに研究室が割り当てられている。

大学全体として、基本的に午前中には講義系科目や共通演習などを本館講義室及び新実習棟で開講し、午後の4限、5限は各実習棟にて専門演習を開講する形態となっており、工芸デザイン学科においても、他の学科が各実習棟で専門演習を展開する4限、5限に、空き教室となる本館講義室や前述の専用教室を使って専門演習を展開する計画である。

なお、学科の設備については、既存設備の有効活用による対応を基本としながら、必要に応じて整備していく予定である。

(3)図書等の資料及び図書館の整備計画

今回設置する工芸デザイン学科のための図書等の資料については、これまで計画的に収集整備されてきた造形教育等の区分のものを引き続き活用できると判断される。また、今後の図書等の整備については地域振興、社会教育関係の図書、雑誌、視聴覚資料を重点的に収集し、教育内容の充実化に努めていく予定である。

また、本学図書館では開学当初から全ての蔵書目録を電子化しており、蔵書の検索は全て「OPAC」で行うことが可能である。このシステムは学内で定着しており、利用者が本学蔵書に要求するものがない場合には、OPAC画面から速やかに所蔵依頼や文献取寄せ依頼を

提出できるように整備されている。なお、他の所蔵機関を検索するために「CiNii（国立情報学研究所が提供する学術情報検索サービス、全国大学図書館の検索）」、「NDL ONLINE（仙台の国立国会図書館の検索）」へリンクを設定し利便性を高めている。

なお、本学図書館では、238席の閲覧席数を有するほか、2階には視聴覚資料の閲覧用として7席の視聴ブースを設けている。さらに、授業や学生の創作発表・展示の場として、セミナールーム、AVルームギャラリー、多目的ホールも整備されており、積極的に活用されている。

11. 管理運営

本学では、教授会として代表教授会と教授会部会が設置されている。

代表教授会は学長が主宰し、学長、副学長、各学部長、基盤教育研究センター長、就職部長、学生部長、入試部長及び各学科長をもって構成される。代表教授会は、原則毎月第1、第3水曜日に開催し、教育に関する以下の項目の意思決定を行うよう審議している。

- (1) 教育課程及び授業に関する事項
- (2) 学則及び学内諸規程に関する事項
- (3) 学生の退学、転学、休学、賞罰その他身分に関する重要事項
- (4) 学生の福利厚生に関する事項
- (5) 教員の教育研究の業績等に関する事項
- (6) その他教育研究上必要と思われる重要事項

教授会部会は、教授会芸術学部会と教授会デザイン工学部会の二部会があり、それぞれの各学部長が主宰する。これらの教授会部会は、当該学部に属する事項を審議し、いずれも所属する教授、准教授、専任講師及び助教をもって構成される。

なお、代表教授会又は教授会部会の決議事項は、代表教授会においては理事長に、教授会部会においては学長に報告しなければならないこととしている。

【資料5：学校法人東北芸術工科大学教授会運営細則】

12. 自己点検・評価

(1)実施方法

本学では、学則及び規則に基づき、学長会の下に「東北芸術工科大学自己点検・自己評価委員会」を設置し、評価事業の基本方針策定や、自己点検・評価の実施、評価結果の公表の他、評価事業そのものに関する評価と改善を行っている。

また、本学では、公益財団法人日本高等教育評価機構による大学機関別認証評価を受け、平成20年度の第1回目につき、平成27年度の第2回目についても、同機構が定める大学評価基準に適合していると認定された。現在は、第3回目の認証評価に向けて、教育研究活動等のさらなる改善と発展に向けた努力をしている。

(2)実施体制

自己点検・評価を行う体制の基本規程として、「東北芸術工科大学自己点検・自己評価に関する規程」を設けており、学長、学部長、学科長、研究科長、専攻長、理事及び事務局職員のうち学長が指名する者から構成される自己点検・自己評価委員会が実施・運営にあたり、以下の事項について審議している。

- (1) 本学の自己点検評価の総括及び評価に関すること。
- (2) 自己点検評価項目の設定に関すること。
- (3) 自己点検評価の実施及び結果の公表に関すること。
- (4) 認証評価機構の評価に関すること。
- (5) その他、自己点検評価に関すること。

(3)結果の活用・公表

自己点検・評価の結果については、学内の教職員を対象に公表され、毎年の事業運営における改善計画に活用されている。また、外部評価機関による機関認証結果については、本学のホームページ上に掲載し、外部へも公表するとともに、学内における結果の共有と改善に活用している。

(4)評価項目

本学の自己点検・評価は、「東北芸術工科大学自己点検・自己評価に関する規程」第1条において定められている、教育、研究、組織、運営、施設、設備などの項目について実施している。

13. 情報の公開

本学では、学校法人としての公共性に鑑み、社会的説明責任を果たし、公正かつ透明性高い運営を実現することを目的として、下記のホームページアドレスにて、「教育研究上の基礎的な情報」、「修学上の情報」、「財務情報」、「教育研究活動および財務の状況」を公表しているほか、各ポリシーや研究や地域貢献活動などについても情報公開を行っている。

https://www.tuad.ac.jp/about/disclosure/public_info_2021/

教育研究上の基礎的な情報	教育研究上の目的、専任教員数、校地・校舎等の施設、校舎耐震化率、授業料、入学料その他の大学等が徴収する費用 等
修学上の情報等	教員組織、学位、入学者に関する受入方針、入学者数、収容定員、在学者数、卒業（修了）者数、進学者数、就職者数、授業科目、授業の方法及び内容、年間の授業計画、学修の成果、卒業認定基準、学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援 等
財務情報	財産目録、貸借対照表、資金収支計算書、活動区分資金収支計算書、事業活動収支計算書、事業報告、監査報告書 等
教育研究活動および財務の状況	教員・学生数比、収容定員充足率、学位授与率、資格取得率、主な就職先、就職率（含む留学生就職率）、就職率推移、大学間連携、産学官連携、教育力向上のための取り組みの概要 等

14. 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

(1)教育内容及び方法の改善のための取組(FD)

本学では、全学的な組織として、学長会の下に FD 委員会設置しており、教務部長や各学科及び基盤教育研究センターに所属する教員の中から学長が委嘱した者、事務職員等の中から学長が委嘱した者によって構成されている。委員会においては、本学の学生の学びを活性させ、主体的な学びを引き出すための教育や手法を研究し向上させることを目的として、月 1 回の定例委員会を開催しながら下記の事項に関して審議している。

- ・ 教員の能力開発全般に関する事項
- ・ 授業方法の改善に関する事項
- ・ 高等学校との接続教育に関する事項
- ・ 学習成果及び授業評価に関する事項
- ・ 学生の学修・生活指導全般に関する事項
- ・ その他 FD に関する重要事項

また、2020 年度からは、新たに学生 FD 委員を任命し意見聴取をする場を設けており、学生からの授業改善に向けた意見を学内に共有することによって、教員の指導方法や教授法を見直す手掛かりにもつなげている。

【資料 6：2020 年度 FD 事業報告】

(2)大学職員の能力及び資質の向上のための取組(SD)

本学では、職員一人ひとりの成長意欲を大切にしながら、個人の成長を東北芸術工科大学の繁栄に、また東北芸術工科大学の繁栄が個人の成長へと連動させることで「人」を育て、「人」が育つ組織となることを目指し、SD研修を実施している。

具体的には、職員全員が受講する研修、昇格者研修、新規採用職員研修の3つのカテゴリーにて実施している。全職員に対しては、事務局の職位毎に設定された期待役割に応じて個々の育成テーマを定め、「(1)講師派遣による集合研修」、「(2)外部における公開講座への出席」、「(3)通信教育」、「(4)等級に応じた診断テスト」の4つの研修形式を基本に、年度ごとの方針により実施している。昇格者に対しては、昇格後の等級基準に並び、通信による研修を実施する。また、新規採用職員に対しては、新規採用教員と合同にて、大学の成り立ちや学生募集、学生指導、進路指導の4分野について、教学部門執行部の教員から集合形式での研修を行っている。これらの研修プログラムを通じて、事務職員の能力及び資質の向上に努めている。

【資料 7：2020 年度 SD 研修概要】

15. 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

本学では、「勤労・職業観等の価値観」と「キャリアプランニング能力」などの育成のため、また学生からの相談支援体制を強化するため、「キャリアセンター」を設置している。日々の進路に関する個別面談に加え、3年次からは通年でキャリアガイダンスや履歴書添削セミナー、マナー講座などの就活支援講座を実施し、学生たちは就活スキルを身につけていく。また、3年生後期には業界合同セミナーを実施し、就活本番を間近に控えた学生たちが業界・企業研究を本格的に行なう場を提供している。上記の取組を通じ、学生一人ひとりが納得した進路を選択し、大学で学んだ専門能力を社会の多様な分野で発揮できる人材として卒業していくことを目標として指導している。

(1)教育課程内の取組について

教育課程内においては、カリキュラムポリシーにもあるように、進路教育はクリエイティブな資質を身につけた人材を育成し、世の中に送り出すことで、社会の変革を目指す「芸術立国」を理念とすることから、極めて重要な教育と位置づけている。具体的には、2年次の必修科目として「キャリア形成論」を実施している。この授業では、大学生活において、どのように学び、どのように生きていくのかを理解するとともに、社会性の習得と確立をするために、何が必要なのかを見極める目を身につけてさせている。また、その他にも3年次の「キャリア設計論」をはじめ、「仕事講座」、「公務員講座」などの科目も開講し、進路目的の達成に向け様々な教育を実施している。

(2)教育課程外の取組について

教育課程外の取組としては、大きく以下の3つの支援を行っている。

① 進路定期面談

3年生全員の学生と指導教員（場合によってはキャリアセンター職員も加わり）による進路定期面談を行っている。具体的には、6月、10月、1月の計3回実施。まず、6月の面談では、進路希望の確認及び、インターンシップ参加予定の確認・指導を、また、10月の面談では、インターンシップ参加状況の把握および振り返りを、そして、1月の面談では、進路希望の最終確認及び就職活動進捗状況を把握し、活動の遅れのある学生に対してはフォローを行う形で実施している。

② 進路セミナーおよび各種講座

1年生の後期には、4年間を見据えて目的意識を持ち、主体的な学びを促すために「1年生ガイダンス」を実施。さらには1～3年生を対象に「キャリアカフェ」を年数回開催し、企業の本学OB、OGを含む若手社員を招いたカフェ形式の対話を通して、「働くこと」などについて考える機会を提供している。また、3年次対象に、通年で「キャリアガイダンス」やその他各種セミナーを複数回実施し、学生の就職活動への意欲向上を図っている。

③ 学内合同企業セミナー・合同企業説明会および個社説明会

本学では就職活動を行う学生を対象に、合同企業セミナーや、合同企業説明会などを年に複数回開催している。また、本学学生の採用意欲のある企業や、本学後援会企業等が、学内にて単独で行う個社説明会も年間 70 回程度開催し、学生の進路決定に大きく寄与している。

(3)適切な体制の整備について

本学の就職支援体制は、各学科やゼミ単位による教員側の支援とキャリアセンターを中心とする事務局側の 2 つがある。まず、教員体制についてであるが、本学では、進路についての指導も教育の一環であるとの方針を示し、教員が学生の進路に対して責任を持つことが義務づけられている。ゼミ単位での教員による進路指導はもとより、学科・コース毎に「インターンシップ報告会」や「就活キックオフ」等を実施するなど進路支援を積極的に行い、学生の意識の醸成を図っている。次に、事務局体制についてであるが、こちらについては、キャリアセンターに専属のスタッフを配し、学生の個別相談や、学内での進路セミナーおよび各種講座、企業説明会の実施運営、学生への求人情報の提供など、教員と連携して学生の進路支援全般を担っている。さらに、これら 2 つの支援体制の強化及び、円滑な運営を行う目的で、教員側には就職部長を配置し、キャリアセンターとの学生情報の共有を実施している。これらの体制により、本学では、教員と職員が一体となって全学的な進路・就職支援事業を推進できる体制が整備されている。

【資料1：工芸デザイン学科カリキュラムツリー】

DP	想像力		創造力		意志		社会性		
	知識・理解	思考力	発想・構想力	表現力	倫理性	実行力	基礎学力	自己管理能力	人間関係形成力
4年	後期	卒業制作（工芸デザイン）							
	前期	工芸デザイン研究制作							
3年	後期				工芸デザイン実習2				
	前期				工芸デザイン実習1			東北工芸実践	
	後期				工芸デザイン応用演習2				
	前期				工芸デザイン応用演習1				
2年	後期	伝達方法論			工芸デザイン基礎演習2				
	前期	応用人間工学			工芸デザイン基礎演習1				
	後期	東北工芸・産業論							
	前期	プロフェッショナルスキル2							
	後期	プロフェッショナルスキル1							
	前期	デザインコンピュータ演習2			工芸素材基礎演習4				
1年	後期	近現代美術史			工芸素材基礎演習3				
	前期	デザインコンピュータ演習1							
	後期	工芸デザイン論			工芸素材基礎演習2				
	前期	インテリアデザイン論1			工芸素材基礎演習1				
	後期	プロダクトデザイン入門			造形基礎演習				
	前期	工芸デザイン入門			表現基礎演習				

必修科目

選択科目

【資料2：工業デザイン学科専門科目履修の流れ】

工業デザイン学科専門科目		1年		2年		3年		4年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
工業デザイン基礎科目 工業デザインを学ぶ上で必要な平面造形と立体造形の基礎知識を学び、さらには、アイデアを形にするための能力を身に付ける。	工業デザイン入門（講義/2単位）	近現代美術史（講義/2単位）	デザインコンピュータ演習2（演習/4単位）	伝達方法論（講義/2単位）					
	プロダクトデザイン入門（講義/2単位）	デザインコンピュータ演習1（演習/4単位）		応用人間工学（講義/2単位）					
	工業デザイン論（講義/2単位）								
	インテリアデザイン論1（講義/2単位）								
工業素材基礎科目 工業デザインを構成する陶磁「金剛」「繊維」「漆・木工」の4つの分野の特色を学びながら、各素材の扱い方を修得した上で、それぞれが専門として扱う専門素材を2素材選択する。	造形基礎演習（演習/4単位）								
	表現基礎演習（演習/4単位）								
	工業素材基礎演習1（演習/4単位）	工業素材基礎演習2（演習/4単位）	工業素材基礎演習3（演習/4単位）						
		工業素材基礎演習4（演習/4単位）							
工業デザイン基礎科目 4つの分野から各自が選択した素材を駆使して、クラフト作品やファッション、インテリアなどの作品を制作しながら、素材・技法と表現の可能性を追究する。									
キャリアアップ科目 各素材の高度な伝統技法の修得や東北の地域産業の問題を工業デザイン力で解決するための手法を習得する。									
工業デザイン応用科目 業界内のマーケティングや市場調査などを行いながら、プレゼンテーション能力やプロモーション能力を身に付け、より理論的な工業デザインの社会活用方法を習得する。									
工業デザイン研究制作科目 集大成として各自が選択した方法論で工業デザインにおける地域・産業の諸問題を解決するための研究を行い、提案力、分析力、表現力などを習得する。									

【資料3:工芸デザイン学科履修モデル】

区分	小区分	1年次	2年次	3年次	4年次	計	卒業要件						
全学共通科目	選択必修科目	大学の理念	芸術平和学	2			2	2					
		基盤科目群	自然・社会と芸術	美術史 デザイン史	2 2	色彩学 芸術と心理	2 2	環境と心理	2	10	8	14	
			地域の文脈	東北文化論	2	地域ツーリズム論 クリエイティブ経済論	2 2	地域ブランド論	2	8	4		
	リテラシー科目群	言語と表現	初級英語 日本語表現	2 2					4	4	15		
		社会リテラシー	想像力基礎ゼミナール	2		情報リテラシー	1	デザイン思考	1	8		7	
			コンピュータ基礎演習	2		クリエイターのための経営学	2						
		キャリアデザイン		キャリア形成論	2	キャリア設計論1	1	キャリア設計論2	1	4		4	
	選択必修科目計			10	8	12	6	36	35				
	学科専門必修科目	必修科目	工芸デザイン学科必修科目	工芸デザイン入門	2	伝達方法論	2	ポートフォリオ実習	4	工芸デザイン研究制作	2	80	80
				プロダクトデザイン入門	2	応用人間工学	2	工芸デザイン応用演習1	4	卒業制作（工芸デザイン）	8		
工芸デザイン論				2	工芸素材基礎演習3	4	工芸デザイン応用演習2	4					
インテリアデザイン論1				2	工芸素材基礎演習4	4	工芸デザイン実習1	2					
近現代美術史				2	デザインコンピュータ演習2	4	工芸デザイン実習2	2					
造形基礎演習				4	工芸デザイン基礎演習1	4							
表現基礎演習				4	工芸デザイン基礎演習2	4							
工芸素材基礎演習1				4									
工芸素材基礎演習2				4									
デザインコンピュータ演習1				4									
必修科目計			30	24	16	10	80	80					
選択科目	工芸デザイン学科専門選択科目			プロフェッショナルスキル1	2	東北工芸実践	2			10	9		
				プロフェッショナルスキル2	2								
	全学共通専門科目			東北工芸・産業論	2			ブランド・マーケティング入門	2				
選択科目計			0	6	2	2	10	9					
合計			40	38	30	18	126	124					

※表中の数字は単位数を表す。

○学校法人東北芸術工科大学定年規程

(目的)

第1条 この規程は、学校法人東北芸術工科大学（以下「学校法人」という。）に常時勤務する職員の定年に関し必要な事項を定めるものとする。

(定義)

第2条 この規程において「教育職員」とは、学校法人に勤務する職員のうち、教育に直接従事し常時勤務する職員をいい、「研究職員」とは教育研究のうち主として研究に従事し常時勤務する職員をいい、「一般職員」とは教育職員以外の常時勤務する職員をいう。

(定年による退職)

第3条 特に定める場合を除き、職員は定年に達した日以後における最初の3月31日に退職する。

(再雇用)

第3条の2 前条の規定に基づき定年による退職となった研究職員及び一般職員が引き続き勤務を希望した場合は、定年退職日の翌日から1年毎の雇用契約により、65歳まで再雇用する。

2 前項の規定にかかわらず、平成25年3月31日までの間の再雇用の年齢は、高齢者雇用安定法附則第4条に規定する次の年齢までとする。

- | | |
|-----------------------------|-----|
| (1) 平成18年4月1日から平成19年3月31日まで | 62歳 |
| (2) 平成19年4月1日から平成22年3月31日まで | 63歳 |
| (3) 平成22年4月1日から平成25年3月31日まで | 64歳 |

3 再雇用の手続き及び身分上の取り扱い等については、別に定める。

(定年)

第4条 職員の定年は、次のとおりとする。

- | | |
|----------------|------|
| (1) 教育職員 | 満65歳 |
| (2) 研究職員及び一般職員 | 満60歳 |

(定年延長)

第5条 教育職員のうち、学校法人東北芸術工科大学組織規程第10条に定める教授の職にあるもの（以下「教授」という。）が定年により退職する場合で、理事会が特に認めたときは1年毎の更新により定年を延長することができる。

2 前項の規定に基づき、定年を延長された教育職員の給与は、理事長が別に定めるものとする。

附則

(施行日)

1 この規程は、平成3年12月27日から施行する。

(設立当初在籍者の定年に関する経過措置)

2 第4条の規定にかかわらず、平成4年度から平成6年度採用者で平成4年4月1日現在の年齢が満61歳以上の教授（平成4年4月1日現在の年齢が満61歳以上の教育職員がこの定年規程の施行の日以後、昇任により教授となるものを含む。）の定年の年齢及び定年退職の日は、次表のとおりとする。ただし、これらの教育職員であっても、第4条に定める定年の年齢以上に達して退職するものについては、定年退職として扱う。

平成4年4月1日満年齢	定年の年齢	定年退職の日
77歳	満81歳	平成8年3月31日
～	～	～
66歳	満70歳	平成8年3月31日
65歳	満69歳	平成8年3月31日
64歳	満69歳	平成9年3月31日
63歳	満69歳	平成10年3月31日
62歳	満68歳	平成10年3月31日
61歳	満68歳	平成11年3月31日

(適用除外)

- 3** 第4条の規定にかかわらず、満60歳に達してから研究職員及び一般職員として採用されたものの定年については、理事長が別に定める。

附則

この規程は、平成12年4月1日から施行する。

附則

(施行期日)

- 1** この規程は、平成18年4月1日から施行する。

(経過措置)

- 2** 改正後の第4条第1項第1号の規定にかかわらず、平成18年3月31日以前に有期契約制により採用された教育職員以外の教育職員の定年は満67歳とする。

○東北芸術工科大学教授会運営細則

（目的）

第1条 この細則は、東北芸術工科大学学則（以下「学則」という。）第11条の規定により、教授会の運営に関し、必要とする事項を定めるものとする。

（代表教授会及び教授会部会）

第2条 教授会は、代表教授会と教授会部会とする。

2 教授会部会は、教授会芸術学部会及び教授会デザイン工学部会とする。

3 代表教授会は学長が、教授会芸術学部会及び教授会デザイン工学部会は各学部長が主宰する。

（招集及び開催）

第3条 代表教授会及び教授会部会の招集及び開催については、学則第8条及び第9条の規定を準用する。

（構成）

第4条 代表教授会は、学長、副学長、各学部長、基盤教育研究センター長、教務部長、学生部長、入試部長及び各学科長をもって構成する。

2 教授会部会は、芸術学部又はデザイン工学部の教授、准教授、専任講師及び助教をもって構成する。

3 前2項の規定にかかわらず、必要に応じて、代表教授会又は教授会部会には事務局長、事務局次長、事務局部長及び事務局各課長が出席の上意見を述べることができる。

（審議事項）

第5条 代表教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

(1) 学生の入学、卒業及び課程の修了

(2) 学位の授与

(3) 前2号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの

2 代表教授会は、前項に規定するもののほか、学長及び学部長がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ意見を述べることができる。

3 教授会部会は、前2項に規定する事項以外の当該部会に属する事項を審議する。

4 代表教授会の議事及び教授会部会の議事は出席者の過半数で決し、可否同数のときは議長が決するところによる。

（諮問事項）

第6条 東北芸術工科大学学則第10条1項第3号の規定により、学長は以下のことを諮問する。

(1) 教育課程及び授業に関する事項

(2) 学則及び学内諸規程に関する事項

(3) 学生の退学、転学、休学、賞罰その他身分に関する重要事項

(4) 学生の福利厚生に関する事項

(5) 教員の教育研究の業績等に関する事項

(6) その他教育研究上必要と思われる重要事項

（議事録）

第7条 代表教授会又は教授会部会は、その開催の都度議事録を作成し、議長が署名捺印する。

2 代表教授会又は教授会部会の決議事項は、代表教授会にあっては理事長に、教授会部会にあっては学長に報告しなければならない。

（雑則）

第8条 この細則に定めるもののほか、代表教授会又は教授会部会の運営に関し必要な事項は、学長が別に定める。

附則

この細則は、平成 4 年 4 月 1 日から施行する。

附則

この細則は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

附則

この細則は、平成 25 年 8 月 28 日から施行する。

附則

この細則は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

附則

この細則は、令和 4 年 4 月 1 日から施行する。

2020 年度 FD 事業報告

FD 委員会 委員長 玉井建也(文芸学科准教授)

1. FD 事業推進のポイント

- (1)本学生の学びを活性させ、主体的な学びを引きだすための教育や手法を研究、協議、向上させる。
 (2)FDの他大学・機関と連携、共同し、培ってきた観点での事業展開も目指す。
 (3)授業を担当する専任教員・研究員がFD事業に取組む。 ※大学改革総合支援補助事業等関連。

2. 2020 年度学内 FD 事業実績

<p>(1)FD 研修 1 9月29日(火) 10:30~12:00 共愛学園前橋国際大学学長 大森昭生氏講演 「誰の何のための教学マネジメントか」 ▶グランドデザイン答申と教学マネジメント指針について ▶学修成果の可視化の視点と取り組み ▶誰の何のための教学マネジメントか</p>
<p>(2)FD 研修 2 12月16日(水)17:20~ 「ループリックについて」(青野・山畑) ▶山形大学橋爪准教授より、「山形大学の事例にみるループリック作成に際してのポイント、苦労する点、工夫など」と題して講演をいただき、その後、講義系科目におけるループリック作成のワークを実施。評価項目や達成基準など、ループリック作成の難しさを感じながらも、教員それぞれが、グループ毎の発表や意見交換など通じて、ループリック作成における多角的な学びが出来た。</p>
<p>(3)学生 FD 意見交換会 後期 12月18日(金) 17:10~ 学生の授業改善に資する意見聴取事業(末永・米田) ▶学内の全学科から学生 FD 委員を選出し授業に対する意見交換を行った。リモート授業における出席方法の統一、学期末に課題が重複することでの負担、異なる科目名で同じ内容の授業、テキストや教材を購入させて活用しない、取りたい授業の時間が重複して履修できない、学生委員たちから忌憚のない貴重な意見を収集することができた。ほとんどの教員は、自身が担当している講義以外の内容や形態の情報を持っておらず、シラバスだけの情報では分らない問題点が浮き彫りになった。</p>
<p>(4)年度事業『新任教員のための授業ガイド』をバージョンアップし、2021年4月就任の教員ガイダンスで活用予定。 (檀上・石沢)</p>

3. 2020 年度外部 FD 研修参加実績

<p>(1) 8/24 データサイエンス教育における先行事例共有会「武蔵野大学データサイエンス学部の取組」オンライン 柚木泰彦教授、小林敬一教授、古藤浩教授</p>
<p>(2)9/4 山形大学基盤教育ワークショップ 古藤浩教授、柳川教授、吉田朗教授、栗野准教授、寒河江教授、吉田卓哉准教授、高田講師</p>
<p>(3)帝京大学高等教育開発センター主催ブラッシュアッププログラム「大学授業の成績評価について考える」への参加 11月研修会 玉井准教授、吉田朗教授</p>
<p>(4)大学コンソーシアムやまがたFD研修会への参画(山形大学) 2月研修会 古藤教授、参加者玉井准教授</p>
<p>(5)3/2 FD ネットワークつばさ協議会・教育事例報告会 吉田朗教授、栗野准教授、寒河江教授</p>

今年度は、教務委員会と連携しながらのループリック研修、学生FDの任命や意見交換会、新任教員のための授業ガイドの改定など、その全ては3つのポリシー(アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー)の推進のために実施された。ループリックに関する研修では、参加者により講義授業のループリック作成が行われ、各授業における問題点だけでなく評価軸の設定などが認識された。また学生FDとの意見交換会ではオンライン授業に対するさまざまな意見が寄せられた。否定的な一面だけでなく好意的な意見も寄せられ、学生の多様な考えを確認することができた。これら研修会および学生FDとの意見交換会に関しては報告書を作成し、全学で共有する予定である。

他大学との連携では既述の学生FDの意見が山形大学での大学コンソーシアムやまがたFD研修会「オンライン授業の更なる質の向上を目指して」において古藤浩教授による報告の中で活用された。またループリックに関する知見を得るため帝京大学のループリック研修会に参加した。

今後はループリック導入に向けて講義授業だけではなく演習授業での活用を視野に入れ、芸工大の特性を活かしたループリック構築のために研修を行う。また多様な学生が高度な知識と技能を得る授業構築のために、さらには昨年度から実施されているオンライン授業の活用のためにも学生たちとの意見交換などを重点的に取り組んでいく。現代社会を捉え、これから生きる学生のための授業開発を専門分野にとらわれず協働で行うことにより、本学の独自性を活かした教育を実現できるFDとしていきたい。

2020年度事務局職員 SD 研修概要

今年度の事務局職員 SD 研修を以下のとおり実施しますのでお知らせいたします。

1. SD 研修の理念

・職員一人ひとりの成長意欲を大切にしながら、個人の成長を大学の繁栄に、また大学の繁栄が個人の成長へと連動させることで「人」を育て、「人」が育つ組織となることを目指す

・人事給与制度の3つの柱【①成長を促す育成制度／②基準が明確な評価制度／③頑張りに報いる処遇（報酬）制度】の一つである「育成制度」における人材育成プログラムを『SD 研修』として位置付ける

2. 2020年度 SD 研修内容

全専任職員に対して、(株) インソース主催の公開講座（本学以外の企業等も参加）にオンラインで1人一回受講し、学びを深める機会とする。2019年度策定の2か年計画をもとに、今年度は2019年度の研修で明らかになった組織課題を解決するための研修を受講ラインナップの中心に揃えている。

更に、昇格者については、該当する職位に応じ通信教育で研修を受講する。

3. 2019年度 SD 研修の成果と課題

(1)実施内容

- (研修内容) ・L～M3 … 「管理職に必要なマネジメントの基本を習得する」
- ・R2～R3 … 「一般職層としてそれぞれの業務レベルをより高める土台をつくる」
- ・R1 … 初任者研修を別途開催

(2)成果

研修レポートから抜粋

- ・研修前の診断テスト受検にて、自己の強みや弱みが明らかになり、今後意識して取り組むことができる
- ・研修を通し他課の職員と交じり合っコミュニケーションをとることでの気づきが多い
- ・他課の職員の考えに触れることでの学びや、具体的な他課の業務を知ることに繋がった
- ・異なるポジションの職員の意見を聞くことで、互いの考えを知ることができた
- ・コミュニケーションの重要性を学んだが、当該研修自体がその機能を果たしていた
- ・事務局職員が一堂に会して同じ研修を受けることで、課題の解決方法を共有することができた
- ・具体的な事例を取り上げ、共有することで実践可能なスキルを獲得し、自己または課の課題解決に役立てられる

(3)課題

①研修を担当した産業能率大学総合研究所講師からのコメント

学びへの意欲や創造力が高く、グループワークも活発である。一方で、それを他者と共有し、巻き込んでいく際に戸惑いも見られた。今後必要な組織の課題は、自己の思考を整理したうえで、物事の本質を見極め（コンセプチュアルスキル）、他者に伝えるべき方法やスキル（言語化能力）を高めること。それにより組織課題等の共有が図られ、問題解決が進み、組織力が向上すると考えられる。

②管理職層においては、部下の育成指導に対する関心が高く、多様な部下の育成について苦慮している様子が伺える。日常業務を通して部下育成を行うためのコツやポイントをつかみ、育成する習慣とスキルを付けることが望ましい。

③一般職層においては、自己に求められる役割を明確にししながら、周囲との関わりを持ち、論理的思考力（論理的に文章を作成することや話すことなど）を高めることが求められる。

4. 2020年度SD研修概要

(1)研修形式

全専任職員に対しては、オンライン形式による公開講座をそれぞれ1回受講する。

加えて、昇格者に対しては通信教育にて昇格研修を実施する。

■研修形式(参考)

- | | |
|----------------------|-------------------------|
| 【A】講師派遣による集合研修(学内開催) | 【B】公開講座への出席(学外派遣→オンライン) |
| 【C】通信教育(各自学習) | 【D】等級に応じた診断テストの実施(学内受検) |

(2)オンライン形式による公開講座の受講(専任職員それぞれ1回受講)

①受講内容及び選択について

株式会社インソース主催の公開講座を仙台市の会場にて受講予定であったが、コロナウイルスの影響を避けるため、同社研修のオンラインでの受講とする。

本事務局の課題に即した講座群【オンライン公開講座受講リスト】を参照し、各職員が上長と相談のうえ選択し、9月から11月末までの期間で受講する。オンライン講座はZoomにて行われ、おおよそ7時間の講義となる。

②申し込み

8月18日(火)まで、申込様式【オンライン講座申込様式】に課員分を第2希望まで記載の上、所属長を通してメールにて総務課に提出いただく。講座の定員を超過した場合や講座日程が変更になった場合再調整を依頼する可能性あり。

③振り返り

・研修は、受講するだけでは行動や記憶への定着がされにくく、すぐに忘れてしまう傾向にある。

研修内容を自分の知識やスキルとして定着させるため、受講後に別紙様式【SD研修振り返りシート】に記録する。

・受講した(インプット)内容を誰かに伝える(アウトプット)ことで学びが深まるため、各自、受講内容を、研修シートをもとに各課の打合せ等で報告していただきたい。個人の知識を組織の知識に広げ、研修内容の定着を図りたい。

※参考 課題から見たオンライン講座内容

- ①話し方や聴き方を学び、コミュニケーション力を向上する … 8, 9, 10, 11
- ②自己の思考を整理し、考え方の幅を広げる … 19, 20
- ③伝えるための方法やスキルを獲得する … 12, 13, 14, 15
- ④問題の本質を探り、課題を解決する … 16, 21, 22
- ⑤部下育成の方法を獲得する … 6, 7、
- ⑥自己の役割に対する思考・姿勢を明確し、スキルを高める … 1, 2, 3, 4, 5
- ⑦組織の課題を探り、合意形成につなげる … 17, 18、

※各講座の到達目標については、別紙【各講座の到達目標】を参照のこと

(3)昇格者研修(昇格者受講)

産業能率大学総合研修所による通信研修を受講する。対象職員に対しては、テキストと配布の上、就労時間のうちの16時間を用い自己研修に充てることとする。それ以外は、各自時間を確保し、学習する。学んだ内容を確認するためのレポート課題がある。終了後に別紙様式【SD研修振り返りシート】に記載し、所属長に提出する。

(1)R3→L 『仕事エキスパート』

自律的に業務を遂行し、リーダーとしてグループを統率するための基礎を身に付ける

(2)R2→R3 『ケースで学ぶ中堅職員』

※中堅職員の職場での現状をもとに、仕事のスキルの向上を目指す

学生確保の見通し等を記載した書類(本文)

目次

- (1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況・・・・・・・・・・・・・・・・ P 2
 - ①学生確保の見通し
 - ア 定員充足の見込み
 - イ 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要
 - ウ 学生納付金の設定の考え方
 - ②学生確保に向けた具体的な取組状況

- (2) 人材需要の動向等社会の要請・・・・・・・・・・・・・・・・ P 3
 - ①人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的(概要)
 - ②上記①が社会的、地域的な人材需要の動向を踏まえたものであることの客観的根拠

(1)学生確保の見通し及び申請者としての取組状況

①学生確保の見通し

ア 定員充足の見込み

1)定員設定の考え方

入学定員は、教員1人あたり約7～8名の少人数指導の充実を図るため45名とする。

2)定員を充足する見込みについて

新学科の基礎となる美術科工芸コースとテキスタイルコースの募集定員合計は41名としていたことから、ほぼ従来の志願者数を確保していくことになる。そして現在、定員は確保できている。

過去5年の2コースの延べ志願状況を見ていくと、工芸の2017年度入試～2021年度入試の延べ志願者平均は131.2名。これに同68.2名のテキスタイルが加わることから、十分、学生確保できる見通しである。【資料1】

イ 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

【資料1】のとおり、届出する学科の基礎となる既存コース合計の過去5年間の志願者平均は、入学定員の約4倍を超えている。このように実績あるコースの統合と、デザイン分野へアウトリーチする再編で、より志願者を集められると考える。

ウ 学生納付金の設定の考え方

学生納付金は、使用する施設・設備がほぼ同じであることから、学科の基礎となる美術科工芸コース、テキスタイルコースと同額とし、初年度納付金は、入学金を含め1,475,000円、2年次以降は1,200,000円とする。届出する学科と領域として競合すると思われる武蔵野美術大学工芸工業デザイン学科の学生納付金は、年間合計1,870,900円～1,906,900円（2年次以降1,570,900円～1,606,900円）となっており、4年間合計では、大きな差額となる。

② 学生確保に向けた具体的な取組状況

本学が工芸コースをスタートさせた27年前とは、工芸（クラフト）を取りまく環境（市場）は大きく変化した。追い風となるのが、昨今の「クラフト」、「ハンドメイド」のEC市場の動向である。

「ハンドメイド」の世界は、インターネット上で拡張するクラフト・ハンドメイドEC市場は、8673億円（2020年）である。あるハンドメイド・マーケットプレイス運営企業のサイトには、約7万人のクリエイターが出店し、商品流通額は100億円。そして、これに競合する企業が複数、成長を続けているという市場である。そして、顧客の中心は若年層であり、潜在的ニーズは高いと思われる。学生募集においては、マーケットプレイスWEB上での情報流通戦略を企画・実行する予定である。

また、本学が主催する地域現代芸術祭「山形ビエンナーレ」では、オンラインで工芸作品を出品、販売している。芸術祭のwebサイトには、約11万件のアクセス数を記録した。直接のステークホルダーである受験生の周囲に対する広報戦略ではあるが、「新学科開設」の情報を全国に行き渡らせる力を有しているとともに、新学科が露出するイベントを自ら設計・実施できる環境をすでに確立していることが強みで

ある。

(2)人材需要の動向等社会の要請

① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的(概要)

「アート」と「デザイン」の領域を行き来し、日本の工芸に新たな潮流を生み出すことのできる人材＝工芸(モノ)を用いてコトをデザインする人材＝を育成する。

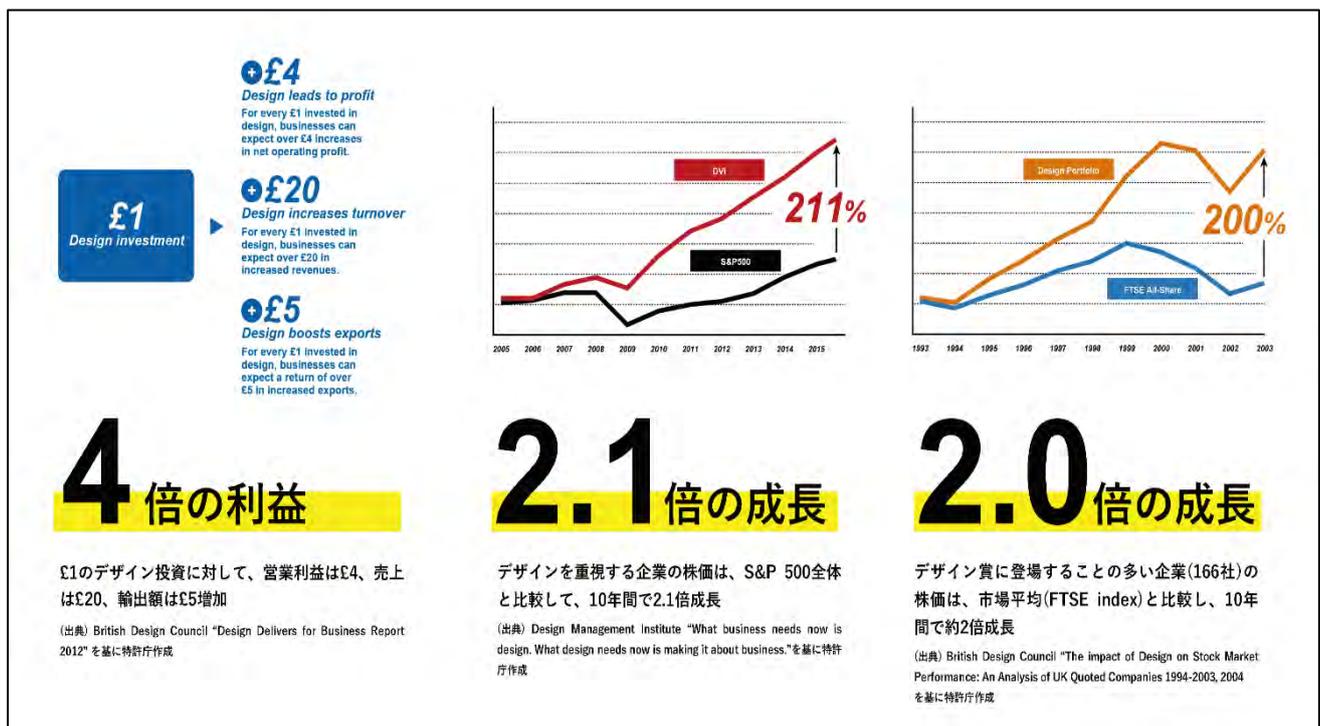
工芸デザインには「現代美術＝アート」と「問題解決＝デザイン」の2つの側面がある。社会が成熟し、機能やステータスとしてのモノを求める時代から、多様な価値観、自己実現を大切にする時代へと世の中が変遷してきているなかで、アートとデザインを分けて考えるのではなく、双方を理解し創作に臨むことが、これからの工芸には必要であると考えられる。

伝統的な技術や技法を知り、現代的な表現も取り入れながら作品として昇華させることのできる力と、産業、生活に付する課題を解決し、その価値を的確に伝えることのできる力、すなわちアートとデザインの領域をまたいだ力を身につけ、社会に新たな価値を生み出すことのできるハイブリッドな人材を育成する。

② 上記①が社会的、地域的な人材需要の動向を踏まえたものであることの客観的根拠

上記①で養成するとした人材に関する社会的、地域的な人材需要については、事例をもとに説明する。

経済産業省・特許庁は2018年5月、「デザイン経営宣言」を提言した。そこでは「デザインの投資効果」として、欧米のデザインへの投資を行う企業パフォーマンスの研究結果を報告している。例えば、ブリティッシュ・デザイン・カウンシルは、€1のデザイン投資に対して、営業利益は€4、売上は€20、輸出額は€5増加など、4倍の利益が得られると発表した。(引用) デザイン経営宣言：経済産業省・特許庁



これを裏づける日本の工芸デザインに近い産業に事例をみていく。

デザイン宣言とともに特許庁が報告した下記の「デザイン経営の課題と解決事例」で紹介されている(株)アサヒ興洋の「椀」(食器)。



ライフスタイルの変化により多様化する日本の食卓に、食器産業が追いついておらず、デザイン会社とデザイン思考でユーザーニーズに応える製品開発に取り組み、現代の日本の子育て家族のためのオリジナル製品(器)を開発し、年間約40万個を売り上げた。

また、山形県の絨毯メーカーのオリエンタルカーペット(株)では、インテリアの主流がフローリングになるなどの市場の変化により売上が減少。外部のデザイナーと連携し、従来の絨毯柄をリ・デザインし、流通のデザイン(建築に納品するBtoBからBtoCへ)を進めた結果、2019年のブランド製品の売上は、リニューアル前の2013年時と比較して約400%増加、プライシングも改善し、2019年まで8期連続黒字決算を続けた。以上のような貢献ができる人材を育成するのが、新学科の教育上の目標である。

企業	課題	デザイン会社の戦略	成果
アサヒ興洋	ライフスタイルの変化による売上減	外部のデザイナーと組み、デザイン思考によるマーケットインによる製品開発に移行、ターゲット戦略の成功	・新製品開発で約40万個の売上を記録 ・特許庁のハンドブック事例集掲載による広報効果
オリエンタルカーペット	市場変化による売上減	・製品と会社のブランディング ・商品の絞りこみ ・流通デザイン戦略 ・絨毯柄のリデザイン ・プロモーション戦略の徹底	・売上400%増 ・8期連続黒字決算 ・V字回復による取材→露出という副次的効果

学生確保の見通し等を記載した書類(資料)

目次

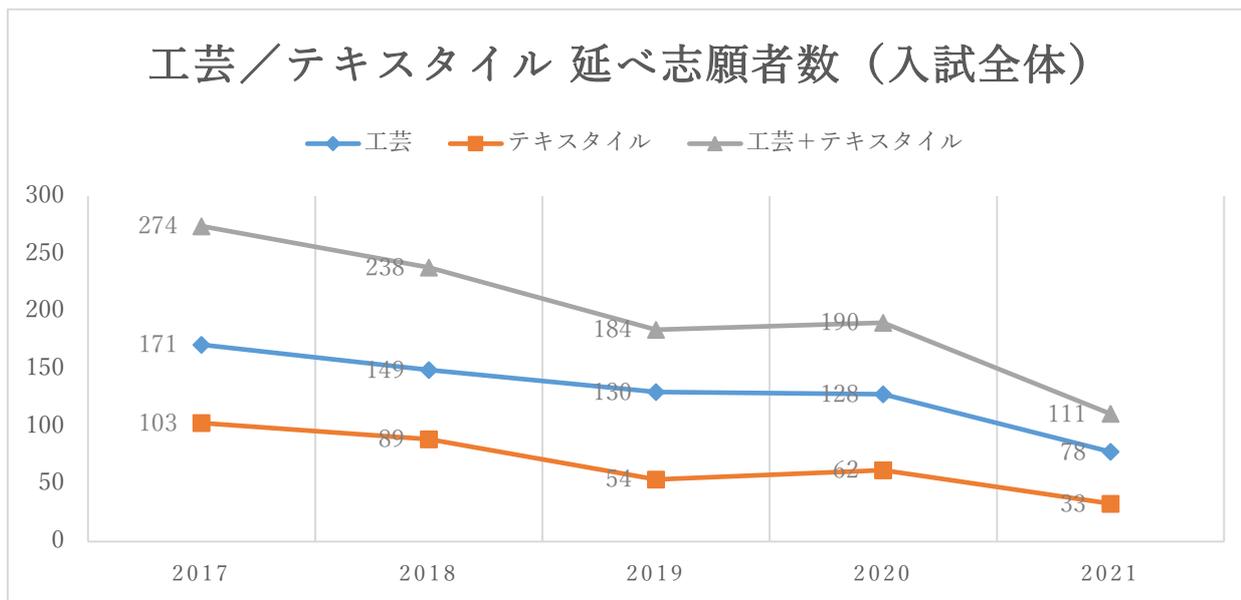
【資料1】新学科の基礎となる既存学科（コース）合計の過去5年間の志願者推移・・・・・・・・・・ P 2

【資料1】新学科の基礎となる既存学科（コース）合計の過去5年間の志願者推移

学科名	項目	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	5ヶ年平均
		2017	2018	2019	2020	2021	2022	
美術科（工芸）	志願者数	171	149	130	128	78	—	131.2
	受験者数	167	148	128	128	77	—	129.6
	合格者数	43	86	58	65	51	—	60.6
	入学者数(A)	35	34	28	31	27	—	31
	入学定員(B)	29	29	29	29	29	29	29
	入学定員充足率 (A/B)	120.7%	117.2%	96.6%	106.9%	93.1%	—	106.9%
美術科（テキスタイル）	志願者数	103	89	54	62	33	—	68.2
	受験者数	103	89	54	62	33	—	68.2
	合格者数	17	27	28	25	20	—	23.4
	入学者数(A)	13	17	11	13	12	—	13.2
	入学定員(B)	12	12	12	12	12	12	12
	入学定員充足率 (A/B)	108.3%	141.7%	91.7%	108.3%	100.0%	—	110.0%
美術科（工芸+テキスタイル）	志願者数	274	238	184	190	111	—	199.4
	受験者数	270	237	182	190	110	—	197.8
	合格者数	60	113	86	90	71	—	84
	入学者数(A)	48	51	39	44	39	—	44.2
	入学定員(B)	41	41	41	41	41	41	41
	入学定員充足率 (A/B)	117.1%	124.4%	95.1%	107.3%	95.1%	—	107.8%

※令和3年度入試では、国の入試制度改革に伴い、本学の入試区分・方法にも変更が生じたため、延べ志願者数に大きく変動が生じている。

■延べ志願者数（入試全体）グラフ



教 員 名 簿

学 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
28	学長	ナカヤマ ダイスケ 中山 ダイスケ (中山 大輔) <平成30年4月>		高校卒		東北芸術工科大学 デザイン工学部教授 (平成19年4月)

(注) 高等専門学校にあつては校長について記入すること。

教 員 の 氏 名 等													
(芸術学部工芸デザイン学科)													
調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配 年	当 次	担 単 位 数	年 間 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等の 職務に従事する 週当たり平均日数
1	専	教授 (学科長)	フジタ ケン 藤田 謙 <令和5年4月>		修士(美術)		工芸素材基礎演習1 工芸素材基礎演習2 工芸素材基礎演習3 工芸素材基礎演習4 工芸デザイン基礎演習1 工芸デザイン応用演習1 工芸デザイン応用演習2 工芸デザイン研究制作 卒業制作(工芸デザイン)	1前 1後 2前 2後 3前 3後 4前 4後		4 4 4 4 4 4 2 2 8	1 1 1 1 1 1 1 1 1	東北芸術工科大学 芸術学部教授 (令和2年4月)	4日
2	専	教授	フカイ ソウイチロウ 深井 聡一郎 <令和5年4月>		修士(造形)		工芸デザイン論 近現代美術史 造形基礎演習 工芸素材基礎演習1 工芸素材基礎演習2 工芸素材基礎演習3 工芸素材基礎演習4 工芸デザイン実習1 工芸デザイン実習2 工芸デザイン研究制作 卒業制作(工芸デザイン) 東北工芸実践	1前 1後 1前 1後 2前 2後 3後 4前 4後 3後		2 2 2 4 4 4 4 2 2 2 8 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東北芸術工科大学 芸術学部教授 (令和2年4月)	4日
3	専	教授	トビタ マサヒロ 飛田 正浩 <令和5年4月>		学士(芸術)		工芸素材基礎演習1 工芸素材基礎演習2 工芸素材基礎演習3 工芸素材基礎演習4 デザインコンピュータ演習1 デザインコンピュータ演習2 伝達方法論 工芸デザイン研究制作 卒業制作(工芸デザイン)	1前 1後 2前 2後 1後 2前 2後 4前 4後		4 4 4 4 4 4 2 2 8	1 1 1 1 1 1 1 1 1	東北芸術工科大学 芸術学部教授 (令和4年4月)	4日
4	専	准教授	ササキ リイチ 佐々木 理一 <令和5年4月>		修士(美術)		工芸素材基礎演習1 工芸素材基礎演習2 工芸デザイン基礎演習1 工芸デザイン研究制作 卒業制作(工芸デザイン)	1前 1後 2後 4前 4後		4 4 4 2 8	1 1 1 1 1	東北芸術工科大学 芸術学部准教授 (平成23年4月)	4日
5	専	准教授	サカイ ナオキ 坂井 直樹 <令和5年4月>		博士(美術)		工芸デザイン入門 工芸素材基礎演習1 工芸素材基礎演習2 工芸デザイン基礎演習2 工芸デザイン応用演習1 工芸デザイン応用演習2 工芸デザイン研究制作 卒業制作(工芸デザイン) 東北工芸・産業論 想像力基礎ゼミナール	1前 1前 1後 2後 3前 3前 4前 4後 2後 1前・後		2 4 4 4 2 2 2 8 2 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 2	東北芸術工科大学 芸術学部准教授 (平成31年4月)	4日
6	専	准教授	アダチ ダイゴ 安達 大悟 <令和5年4月>		修士(芸術)		表現基礎演習 工芸素材基礎演習1 工芸素材基礎演習2 工芸素材基礎演習3 工芸素材基礎演習4 工芸デザイン基礎演習2 ポートフォリオ実習 工芸デザイン実習1 工芸デザイン実習2 工芸デザイン研究制作 卒業制作(工芸デザイン)	1前 1前 1後 2前 2前 2後 3前 3後 3後 4前 4後		2 4 4 4 4 4 2 2 2 2 8	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東北芸術工科大学 芸術学部准教授 (令和4年4月)	4日
7	専	講師	マツモト ユイ 松本 由衣 <令和5年4月>		修士(美術)		工芸素材基礎演習1 工芸素材基礎演習2 工芸素材基礎演習3 工芸素材基礎演習4 工芸デザイン研究制作 卒業制作(工芸デザイン) プロフェッショナルスキル1 プロフェッショナルスキル2	1前 1後 2前 2前 4前 4後 2前 2後		4 4 4 4 2 8 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	東北芸術工科大学 芸術学部講師 (令和3年4月)	4日
8	兼担	教授	ヨシダ アキラ 吉田 朗 <令和5年4月>		工学博士		芸術平和学 まちづくり論 サステイナブルコミュニティ 都市空間デザイン	1前 1・2・3・4後 2・3・4前 2・3・4後		2 2 2 2	1 1 1 1	東北芸術工科大学 デザイン工学部教授 (平成20年4月)	

9	兼坦	教授	ヤマシタ エイチ 山下 英一 <令和5年4月>	芸術学修士	デザイン史	1・2・3・4前・後	4	2	東北芸術工科大学 デザイン工学部教授 (平成21年4月)
10	兼坦	教授	クボタ チカラ 久保田 力 <令和5年4月>	文学博士	グローバル社会論 倫理と哲学 アジア文化論	1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後	8 8 8	4 4 4	東北芸術工科大学 教授 (平成8年4月)
11	兼坦	教授	ヤナガワ イクオ 柳川 郁生 <令和5年4月>	体育学修士	健康科学論 体育運動学演習 地域プロジェクト演習A 想像力基礎ゼミナール	1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後 2・3・4前・後 1前・後	4 9 3 6	2 9 3 3	東北芸術工科大学 教授 (平成29年4月)
12	兼坦	教授	コトウ ヒロシ 古藤 浩 <令和5年4月>	文学博士	アート・デザインのための数理 実践統計学 想像力基礎ゼミナール コンピュータ基礎演習 デジタル表現演習 情報リテラシー	1・2・3・4後 1・2・3・4前 1前・後 1前・後 1・2・3後 2・3・4前・後	2 2 4 2 1 4	1 1 2 1 1 4	東北芸術工科大学 教授 (平成26年4月)
13	兼坦	教授	コバヤシ ケイチ 小林 敬一 <令和5年4月>	工学博士	科学技術と未来 地域ツーリズム論 コンピュータ基礎演習 デザイン思考 地理学概論	1・2・3・4前・後 2・3・4前・後 1前・後 2・3・4前・後 1・2・3・4後	4 4 4 2 2	2 2 2 2 1	東北芸術工科大学 教授 (平成17年4月)
14	兼坦	教授	ミウラ シュウイチ 三浦 秀一 <令和5年4月>	工学博士	地域社会と環境	2・3・4前	2	1	東北芸術工科大学 デザイン工学部教授 (平成26年4月)
15	兼坦	教授	タグチ ヒロミ 田口 洋美 <令和5年4月>	工学博士	東北文化論 社会文化環境論	1・2・3・4後 1・2・3・4前	2 2	1 1	東北芸術工科大学 芸術学部教授 (平成17年4月)
16	兼坦	教授	イシザキ タケシ 石崎 武志 <令和5年4月>	理学博士	文化遺産マネジメント論	1・2・3・4後	2	1	東北芸術工科大学 教授 (平成26年10月)
17	兼坦	教授	カキタ ヨシノリ 柿田 喜則 <令和5年4月>	修士(文化財)	古典彫刻論	1・2・3・4後	2	1	東北芸術工科大学 芸術学部教授 (平成29年4月)
18	兼坦	教授	キタノ ヒロシ 北野 博司 <令和5年4月>	学士(文学士)	考古学概論	1・2・3・4前	2	1	東北芸術工科大学 芸術学部教授 (平成26年4月)
19	兼坦	教授	ナガサカ イチロウ 長坂 一郎 <令和5年4月>	博士(文学)	日本美術史	1・2・3・4前	2	1	東北芸術工科大学 教授 (平成21年4月)
20	兼坦	教授	アオヤマ ヒロユキ 青山 ひろゆき (青山 博幸) <令和5年4月>	修士(芸術文化)	先端的コンテンツとアートシーン	2・3・4後	2	1	東北芸術工科大学 芸術学部教授 (令和3年4月)
21	兼坦	教授	イシカワ タダシ 石川 忠司 <令和5年4月>	文学士	文芸論6	2・3・4前	2	1	東北芸術工科大学 芸術学部教授 (平成23年4月)
22	兼坦	教授	ヒノ イチロウ 日野 一郎 <令和5年4月>	学士(美術)	プロダクトデザイン入門	1・2・3・4前	2	1	東北芸術工科大学 デザイン工学部教授 (平成26年4月)
23	兼坦	教授	フジタ ヒサト 藤田 寿人 <令和5年4月>	学士(デザイン工学)	インテリアデザイン論1	1・2・3・4前	2	1	東北芸術工科大学 デザイン工学部教授 (令和2年4月)
24	兼坦	教授	ユノキ ヤスヒコ 柚木 泰彦 <令和5年4月>	修士(デザイン学)	インタフェースデザイン論 想像力基礎ゼミナール	1・2・3・4後 1前・後	2 4	1 2	東北芸術工科大学 デザイン工学部教授 (平成26年4月)
25	兼坦	教授	シムラ ナオヨシ 志村 直愛 <令和5年4月>	芸術学修士	西洋建築史 日本建築史	1・2・3・4前 2・3・4後	2 2	1 1	東北芸術工科大学 デザイン工学部教授 (平成24年4月)

26	兼坦	教授	ワタナベ カツラ 渡部 桂 <令和5年4月>	修士(デザイン工学)	風土形成論 風景の計画 想像力基礎ゼミナール	1・2・3・4前 2・3・4後 1前・後	2 2 4	1 1 2	東北芸術工科大学 デザイン工学部教授 (令和3年4月)
27	兼坦	教授	ヤマハタ ノブヒロ 山畑 信博 <令和5年4月>	修士(工学)	建築と歴史と自然	2・3・4前	2	1	東北芸術工科大学 デザイン工学部教授 (平成19年4月)
28	兼坦	教授	ナカヤマ ダイスケ 中山 ダイスケ (中山 大輔) <令和5年4月>	高校卒	生活とグラフィックデザイン	1・2・3・4前	2	1	東北芸術工科大学 デザイン工学部教授 (平成19年4月)
29	兼坦	教授	ハラ タカフミ 原 高史 <令和5年4月>	修士(絵画 科油画)	コミュニケーションデザイン	2・3・4後	2	1	東北芸術工科大学 デザイン工学部教授 (平成29年4月)
30	兼坦	教授	オオタケ サキト 大竹 左紀斗 <令和5年4月>	学士(芸術)	文字とグラフィックデザイン	1・2・3・4前	2	1	東北芸術工科大学 デザイン工学部教授 (平成27年4月)
31	兼坦	教授	タナカ ヤスヒロ 田中 康博 <令和5年4月>	教育学士	メディア表現とグラフィックデザイン	3・4後	2	1	東北芸術工科大学 デザイン工学部教授 (平成23年4月)
32	兼坦	教授	バンドウ ケイイチ 坂東 慶一 <令和5年4月>	学士(芸術)	世界のクリエイティブ100年史	3・4前	2	1	東北芸術工科大学 デザイン工学部教授 (平成28年4月)
33	兼坦	教授	カトウ イタル 加藤 到 <令和5年4月>	文学士	映像文化史 メディア文化史	1・2・3・4前 2・3・4後	2 2	1 1	東北芸術工科大学 デザイン工学部教授 (平成21年4月)
34	兼坦	教授	ヤマモト コウジ 山本 コージ (山本 浩司) <令和5年4月>	学士(芸術 工学)	映像コミュニケーション概論	2・3・4後	2	1	東北芸術工科大学 デザイン工学部教授 (平成29年9月)
35	兼坦	教授	タナカ ノリオ ポプ 田中 (田中 範男) <令和5年4月>	法学士	広告ビジネス入門	1・2・3・4後	2	1	東北芸術工科大学 デザイン工学部教授 (平成21年4月)
36	兼坦	教授	マツムラ シゲル 松村 茂 <令和5年4月>	博士(工学)	インターネットビジネス入門 データデザイン入門 ベンチャービジネス入門	1・2・3・4前 2・3・4後 2・3・4前	2 2 2	1 1 1	東北芸術工科大学 デザイン工学部教授 (平成18年4月)
37	兼坦	教授	サガエ シゲル 寒河江 茂 <令和5年4月>	工学士(理学 専攻科修了)	教育学研究1(子供の心理)	2・3・4後	4	2	東北芸術工科大学 教授 (平成30年4月)
38	兼坦	准教授	カメヤマ ヒロユキ 亀山 博之 <令和5年4月>	修士(国際 文化)	初級英語 中級英語 上級英語 実践英語(TOEIC)	1前・後 1前・後 1前・後 1・2・3・4前・後	24 2 2 2	12 1 1 2	東北芸術工科大学 准教授 (令和3年4月)
39	兼坦	准教授	ホソカワ タカシ 細川 貴司 <令和5年4月>	修士(美術 研究)	デッサン入門 想像力基礎ゼミナール	1・2・3後 1前・後	1 4	1 2	東北芸術工科大学 芸術学部准教授 (平成30年4月)
40	兼坦	准教授	アオノ トモヤ 青野 友哉 <令和5年4月>	博士(文学)	想像力基礎ゼミナール	1前・後	4	2	東北芸術工科大学 芸術学部准教授 (平成31年4月)
41	兼坦	准教授	ムロイ クミコ 室井 公美子 <令和5年4月>	修士(造形 研究)	想像力基礎ゼミナール	1前・後	4	2	東北芸術工科大学 芸術学部准教授 (令和2年4月)
42	兼坦	准教授	ヤマガタ ヒロタダ 山縣 弘忠 <令和5年4月>	学士(文学)	想像力基礎ゼミナール	1前・後	4	2	東北芸術工科大学 デザイン工学部准教授 (平成31年4月)

43	兼坦	准教授	ナガオカ ツトム 長岡 努 <令和5年4月>	学士(文学)		想像力基礎ゼミナール	1前・後	4	2	東北芸術工科大学 芸術学部准教授 (平成29年4月)
44	兼坦	准教授	ヤシロ トシヒロ 屋代 敏博 <令和5年4月>	学士(美術)		想像力基礎ゼミナール	1前・後	4	2	東北芸術工科大学 デザイン工学部准教授 (平成19年4月)
45	兼坦	准教授	ニシ ナオト 西 直人 <令和5年4月>	高校卒		想像力基礎ゼミナール	1前・後	4	2	東北芸術工科大学 デザイン工学部准教授 (令和2年4月)
46	兼坦	准教授	オサダ ジュンイチ 長田 純一 <令和5年4月>	修士(美術研究)		想像力基礎ゼミナール	1前・後	4	2	東北芸術工科大学 デザイン工学部准教授 (平成31年4月)
47	兼坦	准教授	アワノ タケフミ 栗野 武文 <令和5年4月>	修士(社会文化システム)		キャリア形成論 仕事講座A 公務員講座 キャリア設計論1 キャリア設計論2 自己表現講座	2前・後 2・3・4前・後 2・3・4前 3・4後 3・4後 3・4後	16 4 1 1 1 2	8 4 1 1 1 2	東北芸術工科大学 准教授 (平成29年4月)
48	兼坦	准教授	スギヤマ ケイスケ 杉山 恵助 <令和5年4月>	学士(教育学)		文化財保存修復入門	1・2・3・4前	2	1	東北芸術工科大学 芸術学部准教授 (平成27年4月)
49	兼坦	准教授	ササキ ジュニ 佐々木 淑美 <令和5年4月>	博士(世界遺産学)		保存科学概論	1・2・3・4後	2	1	東北芸術工科大学 芸術学部准教授 (令和3年9月)
50	兼坦	准教授	タケハラ カズオ 竹原 万雄 <令和5年4月>	博士(学術)		歴史遺産学総論 日本史概論	1・2・3・4前 1・2・3・4前	2 2	1 1	東北芸術工科大学 芸術学部准教授 (平成29年4月)
51	兼坦	准教授	タマイ タツヤ 玉井 建也 <令和5年4月>	修士(文学研究)		文芸論5 ゲームデザイン構築	2・3・4後 3・4後	2 2	1 1	東北芸術工科大学 芸術学部准教授 (平成30年4月)
52	兼坦	准教授	ワタナベ ヨシタ 渡邊 吉太 <令和5年4月>	学士(芸術)		インテリアデザイン論1	1・2・3・4前	2	1	東北芸術工科大学 デザイン工学部准教授 (令和3年4月)
53	兼坦	准教授	アイハラ ケンジ アイハラ ケンジ (相原 健二) <令和5年4月>	修士(デザイン工学)		メディア表現とグラフィックデザイン	3・4後	2	1	東北芸術工科大学 デザイン工学部准教授 (平成27年4月)
54	兼坦	准教授	ミドリカワ タケシ 緑川 岳志 <令和5年4月>	社会情報学 学士		ブランド・マーケティング入門	2・3・4前	2	1	東北芸術工科大学 デザイン工学部准教授 (令和2年4月)
55	兼坦	講師	アリガ ミナツ 有賀 三夏 <令和5年4月>	修士(芸術)		芸術と心理 環境と心理 デッサン入門 デザイン思考 想像力基礎ゼミナール	1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後 1・2・3後 2・3・4前・後 1前・後	4 4 1 4 4	2 2 1 4 2	東北芸術工科大学 講師 (平成25年4月)
56	兼坦	講師	コガネザワ サトシ 小金沢 智 <令和5年4月>	修士(芸術学)		想像力基礎ゼミナール	1前・後	4	2	東北芸術工科大学 芸術学部講師 (令和2年4月)
57	兼坦	講師	ウシキ チカラ 牛木 力 <令和5年4月>	都市計画学 学士		想像力基礎ゼミナール	1前・後	4	2	東北芸術工科大学 デザイン工学部講師 (令和2年4月)
58	兼坦	講師	イシザワ エリ 石沢 恵理 <令和5年4月>	修士(芸術文化)		想像力基礎ゼミナール 教育学研究4(子供の学びと遊び)	1前・後 1・2・3・4前	4 2	2 1	東北芸術工科大学 芸術学部講師 (令和2年4月)
59	兼坦	講師	マツダ シュンスケ 松田 俊介 <令和5年4月>	博士(人間科学)		世界遺産総論	1・2・3・4後	2	1	東北芸術工科大学 芸術学部講師 (令和2年4月)

60	兼任	講師	クロキ ケン 黒木 健 <令和5年4月>	修士(美術教育)	美術史 セルフプロデュース演習	1・2・3・4前・後 2・3・4前・後	8 8	4 4	NPO法人障がい者支援 事業 逢いアートアド バイザー
61	兼任	講師	スギヤマ アキコ 杉山 朗子 <令和5年4月>	文学士	色彩学	1・2・3・4前・後	4	2	株式会社日本カラー デザイン研究所
62	兼任	講師	マツモト クニヒコ 松本 邦彦 <令和5年4月>	法学修士	社会と政治	1・2・3・4前	2	1	山形大学教授
63	兼任	講師	ナカガワ ヌズル 中川 譲 <令和5年4月>	博士(学際情報学)	知的所有権 アニメーション史 コンテンツ文化史	1・2・3・4前・後 1・2・3・4後 1・2・3・4前・後	4 2 2	2 1 1	成安造形大学 特任 准教授 千住コンテンツ文化 研究会代表理事
64	兼任	講師	アベ テイジ 阿部 定治 <令和5年4月>	法学学士	日本国憲法	1・2・3・4前	2	1	阿部総合法律事務所
65	兼任	講師	カガシマ シンイチ 加々島 慎一 <令和5年4月>	博士(理学)	地球環境論	1・2・3・4前	2	1	山形大学准教授
66	兼任	講師	アベ ヒトシ 阿部 均 <令和5年4月>	学士(理学)	生物と自然	1・2・3・4前・後	4	2	東北文教大学非常勤 講師
67	兼任	講師	シバタ ミチアキ 柴田 理瑛 <令和5年4月>	博士(文学)	環境と心理	1・2・3・4前・後	4	2	東北福祉大学福祉心 理学科講師
68	兼任	講師	スギノ マコト 杉野 誠 <令和5年4月>	博士(経済学)	生活の中の経済学	1・2・3・4前	2	1	山形大学人文学部 准教授
69	兼任	講師	シモダイラ ヒロユキ 下平 裕之 <令和5年4月>	修士(経済学)	クリエイティブ経済論	2・3・4後	2	1	山形大学人文社会科 学部教授
70	兼任	講師	ヒナタ ヨシコ 日向 由子 <令和5年4月>	芸術学士	地域ブランド論 外国語特別講座	2・3・4前・後 2・3・4前・後	8 4	4 2	慶應義塾大学外国語 教育研究センター公 開講座、慶應外語、 よみうりカルチャー 講座講師
71	兼任	講師	タキグチ カツノリ 滝口 克典 <令和5年4月>	修士(公益学)	日本語表現(初級) 日本語表現(中級)	1前・後 1前・後	32 2	16 1	よりみち文庫共同代 表
72	兼任	講師	イトウ サトル 伊藤 悟 <令和5年4月>	学士(教育学)	日本語表現(初級) 日本語表現(中級)	1前・後 1前・後	38 2	19 1	法政大学/千葉大学 講師
73	兼任	講師	フリハタ ミサコ 降旗 美佐子 <令和5年4月>	短大卒(英文学科)	初級英語 中級英語	1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後	12 4	6 2	
74	兼任	講師	ディステファーノ ジョン ディステファーノ・ ジョン <令和5年4月>	Masters degree in TESOL Masters degree in art (米 国)	初級英語 中級英語	1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後	32 6	16 3	
75	兼任	講師	ウエア エスター ウエア・エスター <令和5年4月>	Bachelor of Science (英国)	初級英語 上級英語 実践英語(English Academic Skill) 実践英語(Speaking/Writing) 実践英語(Listening/Reading)	1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後 1・2・3・4前 1・2・3・4後 1・2・3・4後	20 2 1 1 1	10 1 1 1 1	
76	兼任	講師	ナカダイ ユウコ 中台 優子 <令和5年4月>	学士(文学)	初級英語	1・2・3・4前・後	10	5	日本大学山形高等学 校非常勤講師

77	兼任	講師	ヌノカワ ヒロユキ 布川 裕行 <令和5年4月>	修士(文学・教育学)	初級英語	1・2・3・4前・後	6	3	
78	兼任	講師	フルサワ ヒロミ 古澤 弘美 <令和5年4月>	学士(教養)	日本語 1 日本語 2	1前 1後	2 2	1 1	山形中央観光株式会社常務
79	兼任	講師	ヨコサワ ユミ 横沢 由実 <令和5年4月>	文学学士	日本語 1 日本語 2	1前 1後	2 2	1 1	特定非営利活動法人 ヤマガタヤボニカ代表
80	兼任	講師	カトウ ユミ 加藤 由美 <令和5年4月>	学士(文学)	体育運動学演習	1・2・3・4前・後	1	1	ダンススペース主宰
81	兼任	講師	ハヤノ ユミエ 早野 由美恵 <令和5年4月>	学士(工学)	応用人間工学 想像力基礎ゼミナール デザイン思考	1・2・3・4後 1前・後 2・3・4前・後	2 4 4	1 2 4	有限会社ハヤノ(栃木県) 主宰
82	兼任	講師	イセ ヒロシ 伊勢 博 <令和5年4月>	短期大学士	コンピュータ基礎演習	1前・後	4	2	東北文教大学短期大学部非常勤講師
83	兼任	講師	カトウ アイ 加藤 愛 <令和5年4月>	学士(デザイン工学)	コンピュータ基礎演習 実践PCスキル	1前・後 2・3・4後	2 5	1 5	
84	兼任	講師	ムラヤマ ヒデアキ 村山 秀明 <令和5年4月>	修士(芸術工学)	コンピュータ基礎演習 情報リテラシー	1前・後 2・3・4前・後	2 5	1 5	個人事業「ノンピリオド」
85	兼任	講師	ヒエイ ヒカル 樋栄 ひかる <令和5年4月>	Bachelor Degree(学士・米国)	セルフプロデュース演習	2・3・4前・後	2	1	湘南工科大学特任教授
86	兼任	講師	イナムラ リサ 稲村 理紗 <令和5年4月>	学士(教育学)	地域プロジェクト演習C	3・4後	1	1	
87	兼任	講師	サカノ マサヨシ 阪野 正義 <令和5年4月>	修士(デザイン工学)	クリエイターのための経営学	2・3・4前・後	8	4	一般社団法人 希望活動醸成機構代表理事
88	兼任	講師	オノデラ タダシ 小野寺 忠司 <令和5年4月>	学士(応用物理学)	仕事講座B	2・3・4後	1	1	山形大学国際事業化研究センター長教授
89	兼任	講師	タカワ ヒロミ 高桑 弘美 <令和5年4月>	学士(文学)	文化財保護法	1・2・3・4後	2	1	
90	兼任	講師	ミタ タツヒコ 三田 辰彦 <令和5年4月>	博士(文学)	東洋史概論	1・2・3・4前	2	1	東北大学大学院文学研究科 専門研究員
91	兼任	講師	モリヤ エイイチ 守谷 英一 <令和5年4月>	博士(芸術工学)	民俗・人類学概論	1・2・3・4後	2	1	
92	兼任	講師	モトキ コウイチ 元木 幸一 <令和5年4月>	修士(教育学)	西洋美術史	1・2・3・4後	2	1	
93	兼任	講師	カタオカ ナオキ 片岡 直樹 <令和5年4月>	修士(文学)	東洋美術史	2・3・4後	2	1	早稲田大学文学学術院非常勤講師 國學院大学文学部非常勤講師 新潟産業大学経済学部教授

94	兼任	講師	オカベ ユキノブ 岡部 信幸 <令和5年4月>	学士(文学)	現代美術史	2・3・4前	2	1	山形美術館副館長兼 学芸課長
95	兼任	講師	マツザキ トシユキ 松崎 俊之 <令和5年4月>	文学修士	美学	2・3・4前	2	1	石巻専修大学人間学 部教授
96	兼任	講師	ヘンミ カイ 辺見 海 <令和5年4月>	学士(環境 情報学)	版画史	1・2・3・4後	2	1	
97	兼任	講師	クリハラ ヤスシ 栗原 康 <令和5年4月>	博士(政治 学)	文芸論3	1・2・3・4後	2	1	
98	兼任	講師	マスモト タカシ 増本 貴士 <令和5年4月>	修士(情報 学)	アニメーション史 コンテンツ文化史	1・2・3・4後 1・2・3・4前・後	2 2	1 1	奈良県立大学特任准 教授
99	兼任	講師	ニシザワ タカオ 西澤 高男 <令和5年4月>	修士(工 学)	インテリア設計論	2・3・4前	2	1	有限会社ビルディン グランドスケープ 取締役
100	兼任	講師	イマムラ ナオキ 今村 直樹 <令和5年4月>	公共経営修 士(専門 職)	映像プランニング概論	2・3・4前	2	1	(株)いちいち 代表取締役
101	兼任	講師	ツジ タケシ 辻 毅 <令和5年4月>	学士(文 学)	コピーライティング入門	2・3・4後	2	1	東都医療大学非常勤 講師 多摩大学客員教授
102	兼任	講師	サトウ アツシ 佐藤 敦 <令和5年4月>	学士(教育 学)	障害者・高齢者の心理と福祉	1・2・3・4前	2	1	
103	兼任	講師	ツチダ シンイチ 土田 真一 <令和5年4月>	学士(社会 学)	教育学研究3(児童問題)	2・3・4後	2	1	
104	兼任	講師	オヤマダ マサユキ 小山田 正幸 <令和5年4月>	修士(学校 教育)	教育学研究2(障害者の病理・ 心理・教育) 教育学研究5(環境教育)	2・3・4後 2・3・4後	2 2	1 1	

(注)

- 1 教員の数に応じ、適宜枠を増やして記入すること。
- 2 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行う場合又は大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 「申請に係る学部等に従事する週当たりの平均日数」の欄は、専任教員のみ記載すること。

専任教員の年齢構成・学位保有状況										
職 位	学 位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合 計	備 考
教 授	博 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修 士	人	人	人	2人	人	人	人	2人	
	学 士	人	人	人	1人	人	人	人	1人	
	短期大士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
准教授	博 士	人	人	人	1人	人	人	人	1人	
	修 士	人	1人	人	人	1人	人	人	2人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
講 師	博 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修 士	人	人	1人	人	人	人	人	1人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
助 教	博 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
合 計	博 士	人	人	人	1人	人	人	人	1人	
	修 士	人	1人	1人	2人	1人	人	人	5人	
	学 士	人	人	人	1人	人	人	人	1人	
	短期大士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	

（注）

- 1 この書類は、申請又は届出に係る学部等ごとに作成すること。
- 2 この書類は、専任教員についてのみ、作成すること。
- 3 この書類は、申請又は届出に係る学部等の開設後、当該学部等の修業年限に相当する期間が満了する年度における状況を記載すること。
- 4 専門職大学院若しくは専門職大学の前期課程を修了した者又は専門職大学又は専門職短期大学を卒業した者に対し授与された学位については、「その他」の欄にその数を記載し、「備考」の欄に、具体的な学位名称を付記すること。